

『宮城県芸術年鑑』

令和6年度

宮城県

はしがき

令和六年度は、県民の皆様が創造性あふれる文化芸術活動に意欲的に取り組まれていることを、大変心強く感じた年でした。新型コロナウイルス感染症拡大による社会活動への制約の緩和が進み、人々の交流や発表の機会が広がる中で、文化芸術の持つ意義と力を改めて実感することとなりました。県内各地では、各種公演や展覧会、地域に根差した伝統芸能など、多彩な催しが再び活発に行われ、多くの来場者で賑わいを見せました。

本県では、文化芸術が地域間の交流の促進に大きな役割を果たし、活力ある地域社会を形成するとの考えのもと、多様な支援と施策を推進しています。令和六年度は、特に、歴史文化と現代の文化・芸術活動をつなぐ取組が各地で進展しました。

宮城県慶長使節船ミュージアム「サン・ファン館」は約二年間の長期休館を経て、十月にリニューアルオープンし、慶長遣欧使節の歴史と帆船文化を次世代へ伝える拠点として新たな一歩を踏み出しました。また、多賀城創建一三〇〇年という歴史的な節目を迎え、多くの記念事業や文化イベントが展開されるとともに、多賀城碑が国宝に指定され、古代東北統治の象徴となる史跡となりました。

宮城県美術館はリニューアルオープンに向けた改修を着実に進めており、より多様なニーズに応える施設としての再整備が進んでいます。さらに、宮城県民会館・宮城県民間非営利活動プラザの複合施設整備も、令和十年度の完成に向け着実に動き出しており、今後の地域文化の核となることが期待されています。

「新・宮城の将来ビジョン実施計画」は令和七年度から中期計画の実施期間に入ります。地域に息づく文化資源を大切にしながら、若い世代が創造力を発揮できる環境づくりや、誰もが文化芸術に親しめる機会の充実に向け、引き続き取り組んでまいります。

結びに、本書の編纂に当たり、御執筆いただいた皆様、並びに貴重な資料や写真を御提供いただいた関係各位に、心より感謝申し上げます。

令和七年四月

宮城県知事 村井 嘉浩

芸術年鑑

もくじ

各ジャンルの動向

| | | | | |
|---------|-------|-------|-------|----|
| ● 総論 | | 小島 直広 | | 7 |
| ● 日本画 | | 奥山 和子 | | 12 |
| ● 洋画 | | 大嶋 貴明 | | 22 |
| ● 彫刻 | | 日下 育子 | | 32 |
| ● 工芸 | | 浅野 治志 | | 43 |
| ● 書 | | 加藤 松軒 | | 57 |
| ● 写真 | | 清水 有 | | 68 |
| ● 文芸 | | 篠沢 亜月 | | 83 |
| ● 音楽 | | 小山 和彦 | | 91 |
| ● 邦楽・芸能 | | | | |

| | | | |
|---------|-------|-------|-----|
| 古典芸能 | | 小塩さとみ | 97 |
| 民俗芸能 | | 小塩さとみ | 101 |
| 三曲 | | 宮澤 寒山 | 106 |
| 長唄 | | 杵家弥登孝 | 110 |
| 民謡 | | 藤本 和夫 | 112 |
| ●演劇 | | 鈴鴨 久善 | 115 |
| ●洋舞 | | 高橋 厚子 | 121 |
| ●日舞 | | 大須賀 豊 | 130 |
| ●茶道 | | 児玉 宗睦 | 137 |
| ●華道 | | 西村 一観 | 144 |
| ●メディア芸術 | | 大久保雅基 | 150 |

| | | |
|---------------|-------|-----|
| 広域文化団体の文化活動記録 | | 157 |
|---------------|-------|-----|

| | | |
|----------------|-------|-----|
| 宮城県における文化行政の概要 | | 173 |
|----------------|-------|-----|

〈おことわり〉 本文に掲載されている方の敬称は原則として省略しています。

各ジャンルの動向

総論

新型コロナウイルス禍による行動制限が前年に解かれ、自由に芸術鑑賞ができるようになり芸術・文化活動への県民の関心がより高まった一年だった。観客や会員の減少で厳しい運営を強いられてきた展示施設や文化団体は、ようやく息を吹き返した。

施設改修のため約二年半閉館していた仙台市博物館（青葉区）が、四月にリニューアルオープンした。企画展示室の一部に透過性の高いガラスを導入し、照明を発光ダイオード（LED）に替えて、展示品の本来の色合いをより楽しめるようにした。再開記念祭企画展では、仙台藩主伊達家の婚礼調度品など収蔵品約百点を展示。七～八月には特別展「大航海時代へーマルコ・ポーロが開いた世界ー」、九～十一月には特別展「親鸞と東北の念仏ーひろがる信仰の世界ー」が開かれた。

同じく閉館していた仙台市泉区の仙台銀行ホールイズミティ21も四月に再開館した。五月には仙台フィルハーモニー管弦楽団の新企画「エンターテインメント定期」が始まり、再開した室内楽シリーズ「イズミノオト」とともに、音楽ファンの注目を集める存在になった。

令和八年度中に再開予定の宮城県美術館（青葉区）は、移動美術館を石巻市や柴田町で開催。学校での出前ワークショップなどを開き、美術への興味を引く事業を展開した。

仙台市内では新たな大型公共文化施設の建設計画が進む。仙台市が青葉区青葉山に整備する新音楽ホールは、基本設計を行う業務委託業者を九月に決めた。東日本大震災の中心部メモリアル拠点との複合施設で、提案書によると、メインの音楽ホールは最大二千百席で、コンサートや合唱コンクール、オペラ、舞台演劇の四パターンに対応できる可変型としている。令和十三年度の開館を予定している。

東京エレクトロンホール宮城（県民会館、仙台市青葉区）とみやぎNPOプラザ（宮城野区）を仙台医療センター跡地（同）に移転集約する宮城県の新県民会館の複合施設計画は、資材・労務単価の高騰により、建設費が基本構想時の約二倍に達する見通しとなり、十二月に実施された三つの工事の入札が不調に終わった。再入札を行い、令和十年度のオープンを目指す。以下、各分野の活動の概略を述べる。

【美術】

写真分野で宮城県関係者の業績が目立った。栗原市鶯沢の細倉鉦山（昭和六十二年閉山）に暮らす人々の姿を写した写真集「細倉を記録する寺崎英子の遺したフィルム」を手がけた寺崎英子写真集刊行委員会が、令和六年の日本写真協会学芸賞を受賞した。鉦山閉山が決まった昭和六十一年から約十三年間の記録。寺崎が残したフィルム三百七十一本を在仙の写真家小岩勉らが引き継いだ。

一九六〇年代ごろに盛んだった前衛芸術もクローズアップされた。白石市出身の前衛画家、故宮城輝夫の作品展が二月三月、仙台市青葉区のSARPで開かれた。社会問題を鋭く告発する作品を描き、週刊誌「朝日ジャーナル」の表紙を飾るなどした前衛画家佐々木正芳（太白区）が三月二十九日、九十二歳で死去。個人美術館「秋保の杜 佐々木美術館&人形館」で七月九月に追悼展が行われた。過激な路上パフォーマンスで知られる「ダダカン」こと糸井貫二にスポットを当てる企画展「地域とアヴァンギャルド」も十月から令和七年一月まで、青葉区のせんだいメディアアテークであった。

長期休館中の宮城県美術館（青葉区）は故佐藤忠良の彫刻を紹介する移動美術館を、石巻市博物館（八〇九月）と柴田町しばたの郷土館（十〇十二月）で開催した。学校の出前ワークショップや地域での美術鑑賞事業などにも取り組んだ。

仙台市博物館（青葉区）は二年半の大規模改修を終え、四月にリニューアルオープンした。

陸奥国府多賀城創建一三〇〇年の節目を迎え、東北歴史博物館（多賀城市）が十〇十二月に特別展を開催し、古代東北の貴重な文化財を紹介した。

塩竈市杉村惇美術館は十周年を迎えた。開館以来、若手に発表の場を提供する支援プログラム「Voyage（ボヤージュ）」に取り組み、新進気鋭の十八人を紹介した。

【音楽】

創立五十一年目を迎え、『進』時代」を掲げた仙台フィルハーモニー管弦楽団が、県内音楽界の話題の中心になった。五月から十一月までの六回の定期演奏会計十二公演のチケットがすべて売り切れ（翌年三月までの三回六公演も含めた、全九回十八公演が完売）は、創設以来の快挙だ。人気ソリストや指揮者の起用に頼らず、チケット販売期間の前倒し、定期演奏会場や楽団員が出演する演奏会に向いて次回以降のチケットを販売するなど、事務局による基本に立ち返った取り組みが奏功した。

仙台フィルが令和六年度に始めた二つの企画のうち、平日昼間に開演する「名曲トラベル」は、有名作曲家を取り上げる演奏会で、新たな客層にアピールした。アニメとゲーム音

楽に特化した「エンターテインメント定期」は、県内外からの客層開拓、楽曲の発掘につなげた一方で、昨今興味が細分化している客層へのPRなどに課題を残した。技術面では、いずれも就任二年目の常任指揮者高関健、指揮者太田弦が手腕を発揮した。楽団員が監修する室内楽シリーズ「ミュージック・フロム・パトナ」「イズミノオト」は、国内トップクラスの奏者、地元期待の若手奏者が出演する上質な演奏に定評があり、演奏者の技術の向上、聴衆の育成に貢献している。

九月には良質のオペラ上演が続いた。仙台オペラ協会は三年ぶりに仙台フィルとの共演で、J・シュトラウス「こうもり」を上演、宮城県名取市の市文化会館であった全国共同制作オペラ、プッチーニ「ラ・ボエーム」は、令和六年限りで引退した指揮者井上道義が、仙台フィル、地元合唱メンバーとともに、宮城で最後のステージを飾った。

岩沼市のソプラノ歌手小野綾子は一月、令和四年度県芸術選奨新人賞を記念し、名取市でヘンデルのオラトリオ「時と悟りの勝利」を上演。仙台市のピアニスト高橋麻子は九月、自主企画「音楽の旅」の二十年記念リサイタルを、田原さえ（仙台市出身）を中心にした若手音楽家の支援組織「ミュージックプロデュースMHKS」は十月、一般社団法人設立五周年の記念演奏会を開いた。

十月の全日本合唱コンクール全国大会では、仙台市の仙台

一中が宮城県勢で初めて、全国一位の金賞・文部科学大臣賞に輝いた。十二月には多賀城創建一三〇〇年を記念したコンサートが同市であり、四月にNHK交響楽団第一コンサートマスターに就任した同市出身の郷古廉が、作曲家吉川和夫・宮城教育大名誉教授の書き下ろし作品「無伴奏ヴァイオリンのための『レゲンデ（伝説曲）』」などを披露した。

【文芸】

第百六十八回芥川賞受賞作家の佐藤厚志（仙台市）の「常盤団地の魔人」が七月に刊行された。河北新報朝刊「東北の文芸」面に令和五年一―七月に連載された小説の単行本化である。佐藤は仙台市内で八月、第百五十七回芥川賞受賞作家の沼田真佑（仙台市）と、仙台文学館館長を務める仙台市の佐伯一麦と相次ぎ対談、杜の都を舞台に文学談義を盛り上げた。佐伯は六月、紀行小説の「ミチノオク」で仙台の大年寺山など陸奥国（東北地方）の自然や人々の営みを情感あふれる筆致で描いた。

第七回仙台短編文学賞大賞は三月、仙台市の千葉雅代の「川町」に決まった。選考委員を務めた仙台市の伊坂幸太郎は「メロディーがうつつら見える感じが魅力的」などと評価した。百貨店三越の創業三百五十周年を記念する短編小説集「時ひらく」に収録された伊坂の「Haveaniceday」は仙台三越が

モチーフ。受験を控えた中学生の不安と希望が胸に迫る。伊坂は英国推理作家協会賞（ダガー賞）スリラー小説対象の最終候補にノミネートされたが、惜しくも受賞を逃した。

佐伯が講師を務める文芸サークル「麦の会」メンバー遠藤源一郎（仙台市）の「風は海から吹いてくる」（三月）は日本自費出版文化賞特別賞（小説部門）に選ばれた。河北新報朝刊「東北の文芸」面に四く九月に連載された仙台市出身の山野辺太郎の「大観音の傾き」は十二月に単行本が出た。十二月に仙台市内であった刊行記念トークイベントも活況を呈した。

東松島市出身の前川ほまれの「臨床のスピカ」が八月に刊行。高遠ちとせは「遠い町できみは」（三月）で、雨井湖音は「僕たちの青春はちょっとだけ特別」（十二月）で、いずれも県内在住の二人が単行本デビューを遂げた。

名取市の俳人・浅川芳直の第一句集「夜景の奥」が五月、第十五回田中裕明賞に選ばれた。宮城県詩人会が設立二十周年を迎え、さらなる発展を期した。

【演劇】

新劇団の誕生、若手の台頭など本県演劇界が一段上のステージに上がる手応えを感じた一年だった。

仙台市のベテラン俳優・演出家渡部ギユウは幅広い年代に愛好者を広げようと「劇団▼東北えびす」を十月に旗揚げした。

身体表現を主体とした舞台芸術「フィジカルシアター」を手がける「Ceremotun」が亘理町で結成され、九く十一月、宮城、福島、山形三県で巡回公演を行った。

既存劇団もウイングを広げた。仙台市の劇団短距離男道ミサイルは一く三月、東北六県を回り「黄金黎明伝 TSUNEK IYO X」を上演。五月にMICHI no Xに改称し、落ち着いた作品にも挑んだ。演劇ユニット石川組は野外劇「修羅ニモマケズ」を隣県にも展開。仙台の芝居小屋六面座は旗揚げ四十周年となり、記念イベントを行った。

実力派演出家が若手と連携する活動も成果を上げている。小浜昭博主宰の「チエルノゼム」（仙台市）は六月、六年ぶりの公演「銀河鉄道の夜」で若手の力を引き出した。県内の大学生でつくる演劇事業団体「ひのき舞台」は十一月、プロデュース公演「永い永い 賀！正！」を行い、若手の底上げを図った。「伊達の劇王」短編劇コンクール、入場料五百円の「みやぶんワンコインシアター」、飲食店で行った「仙臺まちなかシアター」などは裾野拡大に貢献した。

社会との関係を考えて公演もあった。一般社団法人「東北えびす」は九月、東日本大震災被災地を舞台にした野外劇「伝える・繋ぐ・そして未来へ」仙台市東部沿岸地域のくらしと物語」を若林区の複合観光施設で上演した。石巻市の街中で行う「いしのまき演劇祭」が三年ぶりに復活。十一月から

一カ月間、飲食店とコラボし、街に活気を与えた。

市民劇団の活動も活発だった。塩釜市民らが出演する「塩釜夢ミュージカル」は一月、五年ぶりの公演を実施。二月には仙南の児童劇団「AZ9ジュニア・アクターズ」が第三十一回公演を開催した。利府町民劇団ありのみは三月の公演で地元の文化や歴史に光を当てた。「せんだい太陽劇団」主宰の高校教員杉内浩幸は六月、太白区の自宅をミニ劇場に改修し、市民向けワークショップを行っている。

【宮城県芸術祭賞】

第六十一回宮城県芸術祭（県芸術協会・県・仙台市・河北新報社など主催）の最高賞である県芸術祭賞は次のとおり。

絵画（日本画）「慈雨上がる」荒井静子

絵画（洋画）「群れる」鈴木琢也

工芸（陶芸）「tubomi」大沼明子

彫刻「宝を育てる」姉齒公也

書道「鈴虫の声」岸本清舟

文芸（俳句）「稲の香」伊藤一男

写真「天翔る」阿部信義

【令和六年度宮城県芸術選奨及び同新人賞】

受賞者は次のとおり。

芸術選奨

美術（洋画）佐々木健二郎

美術（書）一関京子

美術（写真）佐々木徳朗

芸術選奨新人賞

美術（日本画）山本政彰

美術（彫刻）小田原のどか

文芸 沼沢修

演劇 大河原準介

メディア芸術 NUMBER 8

小^お

島^{じま}

直^{なお}

広^{ひろ}

（河北新報社前文化部長）

日本画

明治時代に西洋画に対して掛け軸や屏風の絵から転じた平面絵画は日本画と呼ばれ発展してきた。その日本画と西洋画の違いは、神道、仏教とキリスト教の違いと説明すると分かりやすい。また精神性や文化性の違いや絵の具や材料の違いで区別する。

日本画独特の天然岩絵の具、緑青（原料は孔雀石）・群青色（原料は藍銅鉱）は美しい。しかしその原料は日本の銅山から採り尽くされて、今は輸入されている。東南アジアから輸入されていた絵筆も山馬（サンバー）、ロシアからのコリンスキーと、動物の毛はワシントン条約で輸入禁止となってしまうている。絵筆にこれから何が使われるのかと危惧される。描く基材の麻紙も同じである。麻紙の原料の麻、堵の生産は勿論、紙を漉く人手も不足し、紙の入手に時間を要している。日本画の絵の具も筆も紙も、まるで絶滅危惧種のように危うい芸術だとの話もある。

近年の日本画は、伝統的な岩絵の具等の材料に代わりアクリル絵の具、水干絵の具の新しい絵の具を使用し、コラージュ、スタンピング、重ね塗りの工夫等、制作法や工夫がみられる

ようになった。明治期のあつさりした塗り方、東山魁夷頃の厚塗りの日本画から洋画と同様多様な作品がみられる最近である。

これから次世代にどう続くのか宮城県の日本画を通してみたい。

公募展やグループ展、個展や市民展と発表のあり方から宮城県の日本画壇の流れも見ることにする。

I 美術館の展覧会

島川美術館（四月二十二日より月曜～木曜開館）

休館から一年半ぶりに開館。平山郁夫の大作ほか東山魁夷、加山又造、高山辰雄等の高名な日本画家のコレクションを所蔵。巨匠の絵を楽しめる展示である。

カメイ美術館 企画展

能島和明日本画展 東北の地よ展

（五月二十九日～七月二十八日）

平成二六年～令和四年に描かれた「東北の地よ」シリーズ。

東北ゆかりの二十九点、百五十号の大作が展示された。東日本大震災の鎮魂の願いを込めた絵で集大成の展覧会ともとれる。

リマス・アーク美術館

只野彩佳展（二月十日～三月二十日）

精力的に制作発表を行う若手作家を紹介するシリーズ。

海と陸の境界を指す「汀線」を波や潮の干満の変動で切り取り描いている。雲や樹木、草花も豊かな色彩感で表されており、日本画材料を工夫し独特の世界観を印象づけている。

金子朋樹展

（六月一日～八月十八日）

東北芸術工科大准教授。高知麻紙に岩絵の具、墨使用。日本画十六点、写生、変型屏風三点、掛け軸三点出品。展示のコンセプトは、自然の風景に現代を感じるもの。気仙沼の風景を筆や鉛筆で写生した作品も展示。金子朋樹のフィールドワークを見て感じる展覧会である。大作も多く庄巻である。

Ⅱ 日本画 個展

日野沙耶 現象の華展

（二月二十日～二十五日） 杉村淳美術館

河北美術展でも二度入賞した日野沙耶は、筑波大美術専攻で学び、現在秋田公立美術大に勤める若い画家である。絵絹に墨、水干絵の具やアクリル絵の具を駆使する描法をとる。岩絵の具を重ねて描く伝統的な技法ではない。アクリル絵の具で炎の朱色を描いている。独特の発想で炎を見つめ描いている。炎を生命と感じ成長する生き物のように表現しているのが面白い。従来の日本画の絵の具や技法にとらわれずに育っていく力を感じる。



日野沙耶 「現象の華」

川村香月 花と猫展

（五月一日～十九日） 大崎市民ギャラリー諸絶の館、仙台アーティストランプレイス

大崎市鬼首のアトリエで制作活動をしている若い日本画家の個展である。作家のアトリエで見た風景を題材に描く。プロ画家として活動している。令和元年に春の院展に入選した。この作品等三十五点を展示。これからの活躍を期待したい。

LYRICISM ある日のアトリエ 熊谷融・熊谷理慧古 日本画二人展

(五月二十一日～二十六日 晩翠画廊)

去年に引き続きの日本画展。花、植物の実を題材としたモチーフ。金箔を押し、モダンで生命力を表している絵が多い。達者な筆運びと構図に落ち着きがある。

Ⅲ 晩翠画廊企画 日本画展

①イチオシ逸品展 (一月九日～十四日)

正月明けの洋画、日本画の新春展。小品の魅力を展示。日本画は、佐藤朱希、梅森さえ子、大泉佐代子、庄子幸一、奥山和子が参加。

②開廊二十七周年感謝祭展

(第一週 七月九日～十四日、第二週 七月十六日～二十一日)

前期 大泉佐代子、数本冨英佳、庄子幸一、毛利洋子
後期 土屋薫、奥山和子が参加出品

③福井安紀 土と石で描く板絵日本画展

(九月二十四日～二十九日)

板戸に絵を描く生活の中に溶け込んでいた板絵。板絵や屏風、襖の工芸的平面に描写する手法から発展してきた現代の日本画。歴史的な手法の土や石等の材料で模索した作品に挑戦している。京都在住。

Ⅳ 高等学校美術部展

仙台一高OB美術展

(五月十日～十五日 せんだいメディアアテーク)

岩倉考出品。盛岡城址とスコットランド廃城の二作品、それぞれ三十号の水墨画の大作。毎年帰仙し出品している。

宮城野高等学校美術科卒業制作展

(十一月十二日～十七日 宮城野区文化センター)

美術科三年生の卒業制作展。日本画科五人のコーナーがある。自画像と自由作品、豊かな発想と日本画材料を自由に駆使した楽しい作品が多い。限られた材料で工夫した作品には感心した。

V 水墨画展

高倉勝子生誕百年特別展

(十二月五日～令和六年一月三十一日 高倉勝子美術館(登米市))
晩年、日本画を離れ水墨画を多く制作した高倉勝子の作品。
絵にさらに書を入れる手法に挑戦した画風の変化が読み取れる
展覧会である。

日本水墨画展 (四月十八日～二十四日 東京都美術館)

受賞 熊谷雪蒼「月の松島」

海と月と風景、難しい情景を墨でうまくまとめた良い作品
である。



熊谷雪蒼 「月の松島」

仙台鉄道の水墨画展

(六月十七日～七月二六日 仙台市泉区役所一階ロビー)

利府町在住の児玉泰隆の軽便鉄道を描いた水墨画展。仙台から大崎市古川を運行した軽便鉄道の全線のスケッチ。利用した人々には懐かしい風景画。思い出多い風景が展示された。

VI 県内外のグループ展

① Young Art Tohoku

(五月十七日～六月一日 ギャラリー Art)

東北をメインにする十五人の作品。小品にも挑戦している。
生活の中にアート文化を発信し目指す若者の展覧会である。

② 緑彩会日本画展

(十月二十二日～二十七日 東北電力グリーンプラザ)

新藤圭一主宰の日本画グループによる展覧会。新藤圭一の最上川風景のほか、花、植物画が並ぶ。日本画の技法を啓発する目的もあり、岩絵の具や刷毛等の道具も展示。日本画人口が増えることを願うのは同じである。

③新現美術協会展

第七十三回

(二月二十三日～二十八日 せんだいメディアテーク)

第七十四回

(十二月二十日～二十五日 せんだいメディアテーク)

洋画、彫刻、立体と各分野で活躍する宮城県の芸術家が集う展覧会である。日本画からは二人、上條妙子と奥山和子が参加。上條は上野の森美術館大賞展のF五十号の入選作品を、奥山は日展入選のS百二十号を出品した。上條は日本画では珍しく長年抽象的作品に取り組んでいて、岩絵の具やミクストメディアを使い新しい表現を探索している。地球が生まれた混沌とした



新藤圭一 「老杉」

世界か、遠い世界か不思議な情景に取り組んでいる。奥山はF百五十号やS百二十号の前年日展入選の大作作品を県内で観てもらう場として出品。東京会場の公募展作品は、洋画や日本画ともに大きな会場でないと鑑賞できないため、新現美術協会展はよき発表の場となっている。

④大下図を大切にする会展

(十一月十八日～二十四日 東京日本美術院会館)

院展同人の伊藤彰耳指導の研究グループ。日本画は小下絵(エスキュース)から本画のサイズに拡大した大下図に進んで制作する。本画の出来は大下図にかかってくるので大下図の大切さはこの上ない。出品した作品の元となったデッサンや写生、その後の構図の足取りを観られる研究会の企画である。

宮城からは土屋薫、山本政彰が参加している。

VII 東京公募展

百年近い歴史を持つ日本画の日展、院展、創画展にも変化が起きている。日展も院展も限度がF百五十号と大きいので、出品者の高齢化や若者の公募展離れで会の運営に工夫が検討されていると聞く。中央の公募展に挑んで力を育ててもらい利もあるので多くの宮城県勢の出品が待たれる。

①第五十回東京春季創画展

(四月二十六日～五月一日 O(オー)美術館)
宮城県からの入選者なし。

②第七十九回春の院展 (三月十四日～十九日 日本橋三越)

(八月一日から六日 藤崎デパート)
入選者 安藤沙彩香「早春」 仙台市
同人 山田伸「喋喋」 石巻出身

③第八回新日春展 (四月十八日～二十四日 東京都美術館)

一九六五年、日展の日本画部春季展として発足した日春展、二〇一七年からは新日春展として開催されてきた。二〇二五年からは改めて第五十九回日春展として開催される。令和六年は宮城県からの出品者は二十人以上、入選者数も例年になく多数となった。初入選した熊谷雪蒼は、日本画を学び二年目の快挙。アクリル絵の具を使い、美しい群青色の夜空を描いている。今後中央の公募展に挑戦する方が増えていくことを願う。

会員 佐藤朱希 「きりんまね」
入選 天笠慶子 「青い実の頃」
奥山和子 「お手伝い」
桶谷光代 「ファーブルが大好きな風」

熊谷雪蒼 「蔵王銀河」

小泉百合子 「秋色」

新藤圭一 「老杉」

松谷睦子 「四季めぐる」

門間光子 「野の彼方」

④第八十三回日本画院展

(五月二十九日～六月四日 東京都美術館)

理事 深村宝丘 「愛鳥」

⑤再興第百九回院展 (九月一日～十六日 東京都美術館)
同人 山田伸 「神渡し」



佐藤朱希 「きりんまね」

⑥ 第十一回日展（十一月一日～二十四日 国立新美術館）

会員 佐藤朱希 「風の北、森の南」

入選 奥山和子 「夏休み」

宮城県からの一般出品者は二名、作品は百五十号限度で大作作品。院展と同様、宮城県からの挑戦者が少なくなっており、入選は年ごとに厳しくなっている。



奥山和子 「夏休み」

VII 宮城県内の市民美術展
大崎市 美術と生活展

（八月一日～十二日 市民ギャラリー諸絶の館）

所蔵作品展。地元ゆかりの作家の作品展。美術と生活がテーマ。日本画他作品が描かれた様子と生活がどう重なるかを様々な視点で鑑賞を楽しむ展覧会。

富谷市芸術祭（十一月一日～六日 富谷市成田公民館）

栗原市美術展（十一月十九日～二十四日 栗原文化会館）

第七十七回塩竈市美術展

（十一月五日～十日 ふれあいエスブ塩釜）

日本画出品数八点。市長賞の山本政彰の作品「信仰の道」は、安定した構図と写生の大作作品。迫力があり丁寧な仕上がりである。伝統的な技法とマチエールを生かした若い作品の間に年齢的幅がみられる。

七十七回の歴史ある塩釜展で育った作者も多い。今後もたくさん作品を出品して挑戦していただきたい。

塩釜市美術展賞 山本政彰「信仰の道」

塩釜市教育委員会教育長賞 丹野あき子「春窓」

塩釜市芸術文化協会賞 桂儀一光「座れば牡丹」

塩釜市生活学習センター審議会委員長賞

郷家総一郎「小満のころ」

塩釜市議会議長賞 河野京子「お父ちゃんあそんで」

NHK仙台放送局長賞 畑山みさ子「湖秋」

東北放送賞 鈴木愛規「祠」

杜の都信用金庫理事長賞 鎌田登美枝「夏のはじめに」

Ⅷ 宮城県内の公募展

第八十五回河北美術展

(五月二日～八日 東北福祉大ギャラリーミニモリ)

日本全国応募の美術展。今回の日本画の入賞は、全員宮城県と関わる方となった。

暮れゆく山寺の風景に挑んだ山本政彰の「古寺」は歴史的な空間と時の流れを感じる写生画。見るものに訴えてくる。

東日本大震災で罹災した絵をカラージュシ、震災への思いを表現した千葉勝子「イマジン」。絵も心も再生したようである。暗闇の炎を生き物と表現した日野沙耶「現象の華」。顔料の朱は水銀を使っているので毒性があり、現在では製造が中止され入手困難になっている。この事情の中、炎の朱色はアクリル絵の具を用いている。材料や技法に工夫がみられる。

日本画受賞作品

河北賞 山本政彰「古寺」

宮後県知事賞 酒井美雪「笹舟の夜」

小品枠 一力一夫賞 日の沙耶「現象の華」

一力次郎賞 千葉勝子「イマジン」

東北放送賞

ワタナベユウヤ「Lostsenses-worldsmallestcello」

宮城県芸術協会賞 東海林敏雄「祈り」

東北電力賞 小泉百合子「再生」

東北福祉大学賞 中村玄「我家『吾』」

新人奨励賞 千葉田鶴子「丘のひまわりを待つ人々」

審査員奨励賞 谷地森真理子「豊饒の海」

小品枠 奨励賞 樋口富子「刻」

宮城県芸術祭絵画公募展

(九月二十八日～十月一日 せんだいメディアアテーク)

百点近い応募点数の中で日本画は三点。大作の多い中でマチエールの異なる日本画は二点受賞した。黒政真理の「人間夢想図」は、日本画独特の金箔を背景に二次元的構図の面白さを追求した。賞候補の鈴木ちひろは、厚塗りの日本画が多くなった。昨今、横山大観風朦朧体の作品で今後が楽しみである。公募展は、若い感性で新しい描き手が増えていく期待がある。



山本政彰 「古寺」(提供：河北新報社)

優秀賞 黒政真理「人鳥夢想図」
賞候補 鈴木ちひろ「残残残暑見舞」

宮城県芸術協会 役員等の部

天笠慶子 梅森さえ子 大泉佐代子 小野寺康
佐々木啓子 佐藤朱希
佐藤勝昭 庄子幸一 新藤圭一
富樫清子 土尾薫 橋本道代
毛利洋子 奥山和子



梅森さえ子「大亀 REJOICE」



鈴木千礼「残残残暑見舞」

宮城県芸術祭絵画展 会員部

(十月五日～八日) せんだいメディアアテーク)

荒井静子の作品は花鳥画に見えるが、背景の葉はスタンピング(押し当てて形をつける)で描いている。静かな構図に新しさが見える。

描きたいテーマ、やってみたい技法がたくさんあるに違いない。今回の受賞作品にも多様な技法の挑戦が見られる。

山本政彰は、実、葉を丁寧に描き静かな情念のある作品となった。板橋千恵は、玩具やコインを重ねた塔のようなパフェに挑戦し、写真から離れ斬新な構成作品を描いた。

宮城県芸術祭賞

荒井静子「慈雨上がる」

宮城県知事賞

数本冨英佳「scent」

仙台市長賞

小泉百合子「漆黒のゆりかご」

河北新報社賞

山本政彰「瑠璃色の名残り」

宮城県教育委員会教育長特別賞

高橋則子「夕陽の中で」

仙台市市民文化事業団賞

板橋千穂「おおきなパフェ」

カメイ社会教育振興財団賞

佐々木智朗「ひまわり」

芸術祭公募展 絵画展受賞者展

(十二月三日～九日 東京エレクトロンホール宮城五階)

芸術祭展の受賞作品と新作を加えた展覧会。審査を伴わないので、自由な発想の作品が見られた。数本冨英佳の小品「ハナイケ」は、平面絵画というより立体感を付けた絵であった。これまでの技法にとらわれない塗り方、構図、画面の厚さなど多様な感覚が生まれてきていると思わずにはいられない。

日本画 出品

荒井静子 数本冨英佳 小泉百合子 佐々木智朗
高橋則子 山本政彰 黒政真理



荒井静子 「慈雨上る」

奥山和子
(日本画家・宮城県芸術協会会員)

洋画

数年前から始まった状況についてまず書こう。生成AIを使った画像の件に関しては、この年鑑の中ですら消極的な（もしかするとネガティブな）見解が表れ、年鑑の外の美術界では、そのような意見が散見される。

もちろん皮肉にも、県内のオーソドックスな美術界でそれほど生成AIやAIにアシストされた実作が出現しているわけではなく、サブカル的な場面で目立っているだけかもしれない。しかし、使用ということについていうなら、機会と能力があれば、どんどん使うことは当然である（もちろん、人間存在にともなう権利を尊重して、だが）。

問題は、否定論が「手（作り）の優位」と「生な素材（実材）の優位」を根拠にしてしか語られないことにある。技術とメデュームと素材は目的に合わせ、今ここにあるものの組み合わせで使うべきで、写真やコンピュータやデジタルな技術の使用を含めて、特定の技術・メデューム・素材の優位性も、またその逆の排除性も本来ありえない。

例えば、「水彩絵具は美しい。だから、水彩画は水彩の特性を生かして」のような語り口は、伝統主義の誤謬に即座に陥り、

タコツボの中に入っていくだけなのだから、むしろ、そのようなフェティシズムからは距離をとるべきである（当然、現状のAIに過剰な期待を持つべきでない）。生な素材あるいは実材の問題もまた、それは画像に比べて彫刻などの立体表現で語られることが多いが、そのことは出力次第でどうにでもなることなのだ。

デジタルによってつくりだされたものと、そうではないものは何が違うのだろうか。一つは、「形成」の違いである。「内在的力関係の無い等価な点の集合」と「それぞれ異質な生成力の働いている種々のマッスのアッサンブラージュ」との違い、といえようか。そして、それ以上に違うのは、データ処理が基本にあるかぎりにおいて生成AIがしているのは「再生産」であって「創造」ではない、という点である。もちろんAIやデジタル技術は特有の優れた性質を持つ。しかし、世界は離散量だけでも連続量だけでも成立してはいない。

とりあえず言えるのは、美術作家は、自己のスタイルを確立して、ある特定のメデュームやジャンルで制作することではなく、つまりスタイルの確立によって自己模倣とヴァリエー

シヨンに終わるのではなく、主題や問いによってスタイルもメデュームも変化し続けるような、強い創造性を持つことだ。

今、私（達）が生きている「今ここにある世界」と、私には捉え切れない（どうしようもすることもできない）「プラネットワールド」が重なり合った多重で複雑な、あいまいな、変わりやすい、相互依存と排除が満ちる世界はどう認識され表現されるだろうか。様々な現象が起こる場の創造によって垣間見れるのだろうか。この文脈で紹介しておきたい一点の作品がある。美術家活動の初期にある作品なので、十分な完成度を持っているともいえず、また、ミシン（機械文明の象徴）は使われているようだが、AIやその他のデジタル技術は使われていないか消極的使用にとどまっているかのように見える。だが、アクチュアルな複雑性は垣間みせている。

第61回 宮城県芸術祭 公募作品展 絵画展 奨励賞受賞作

《ユウカイと絶対領域》 白倉 向日葵

この作品（作品画像については公益社団法人宮城県芸術協会のホームページ参照）では、大小様々な（素材は二から三種か）矩形の布、それぞれの布にはドローイングやペインティングがほどこされ（それらの題材は、キャラクター的もしくはグラフィティ的ともいえる描きぶり）縫い合わされ、一点の作品になっている。作品の天地、あるいは、絵画的な平面性の保持、という二点に関しては、伝統的な絵画の形式に

捕らわれているかもしれない。だが、イメージ（暴力性や攻撃性／防御性を持った）と形成的複雑性（例えば支持体）の二点については、十分なアクチュアリティを持つ作品である。

白倉の作品タイトルに使われている、ユウカイ、は「誘拐」だろうか「幽界」だろうか。その時、絶対領域、は、「何人にも侵入されない領域（心的な、あるいは空間的な、あるいはATフィールドで包まれた）」なのだろうか。それとも、「ボトムスとソックスの間の太もも」なのだろうか。それは、古くさい実存的イメージの系にあるのか、それとは違った、萌えイメージの系なのか。それとも、その両者が重なり合っている、あるいは、排除し合っているその空隙なのだろうか。

白倉の作品からは、スマホの使用が一般化した時代の世代論を描くことができるかもしれない。例えば、音楽でいうならボカロ・ネイティブなミュージシャンやシンガーのつくりだす作品の複雑さやイメージが分かりやすい。それらは、曲、歌唱、映像、インスタレーション、イラストレーションなどが等価に水平関係で組み合わされており、つまりは、デジタルな技術がその世界には前提となっており、その中で、かすかな暴力性や、攻撃性／防御性を持ったイメージが形成され、その間隙にあえかな存在が現れる、だろうか。そして、白倉の作品のイメージには、そのようなメディアの影響や同時代性を見て取れるだろう。

作品制作でのデジタル・テクノロジーの直接的使用の有無ではなく、すでに、世界は、管理的にも経済的にもデジタル・テクノロジーを組み込み、私達の世界認識は、デジタルな技術がぬきがたく合わされている。世界と世界認識の複雑性を前提に、例えば「一面一場面」形式を否定してファインアートの作品は創造されねばならない。

菊池聡太郎個展 在り処（ありか）

会期…七月三十一日～八月十一日

会場：Gallery TURNAROUND

このところ、菊池の作品は、それまでの複数の方法を組み合わせたインスタレーションから、（ペインティングというべきか）ドローイングに収斂してきているように見える（ぼくが見れた範囲という限定で）。

そのなかで、今回の作品群は、それまでの明度差の強い筆触で、密度の違いの無いオールオーバーな画面から、筆触の組織化が変化して表現主義的な情景描写が強くなっている。その点からは、その情景との距離が、以前よりも、調査やプロジェクトの対象に対峙するものから、より親密さというのか、参入の密接さが強くなっているともいえる。

そして、その心情的な説明よりも刺激的だったのは、筆触の組織化の背面で生まれる「ユウレイ（幽霊）」としてのイメージの現れだ。白抜きだったり、あるいはもう少し補彩されて

いたりするそれは、情景描写にとっては意識的なものか、あるいは無意識的なものなのか（無意識的なものだとするとそれはより強度が高い）。その情景の、現在・過去・未来のどこかであり得る事のようにも思え、その場面の形成だけではなく、場の変転やその中の分岐点で違った、今は不可視な在りえる場・場面・空間にもつながっていきそうだ。

リアルな描写がフィクショナルな世界を生み出すことで、より強度のある世界の認識につながる。これは、菊池の作品に限ったことではない。手法やフィクションの位相には違いがあるが、青野文昭や椎名勇仁の作品にも強く言えることではないだろうか。

企画展一青野文昭 個展 世界の欠片（かけら）を持って歩む

会期…十二月十八日～令和七年一月十二日

会場：Gallery TURNAROUND

椎名勇仁 可塑圏…ねん土的思考

会期…十一月二日～令和七年一月十三日

会場…せんだいメディアアテーク六階ギャラリー 4200

『アスク／モノローグ』小山維子

会期…五月一日～五月十九日

会場…①個展会場 Gallery TURNAROUND

②サテライト会場 IGOONARAI

数年前の Gallery TURNAROUND での個展「キッチン／カウター」で発表された作品の多くは、画面のふちに近いところに描かれた、一種のインナーフレームのような効果を持った、線状の形体によって内部性がかたちづくられていた。その内部には中間の調子を持った大きな色面が広がり、その色面の性質によるものか、ある種の普遍的で多様なイメージを喚起していた。対して、今回は絵画空間を区切るインナーフレームの形体は少なくなり、全体は何か特有の形を示すような、あるいは、小作品に多いのだが、個別な情景をイメージさせる、親密な空間が描かれていたように見えた。

小山の過去の作品画像を見ると、形式からの拡張や逸脱が様々に試されてきたことが分かる。意識的か無意識的かは別に、非形式へではなく形式への問いかけは、従来の形式への不信感の表れだろうか。そこでは、形式からの拡張・変異・逸脱によって、世界との新たな関係の再構築が目指される。とするならば、今回の「アスク・モノローグ」での親密空間表現の形式性が整ったことはどう考えるべきだろうか。以前の作品の内部空間が普遍的イメージの喚起力によって意外に大きな広がり暗示するのに対して、今回はむき出しの空間であり、傷つきやすくも、また外部からの侵入もされやすい弱さというか小ささを帯びている。それもまた好ましい。だ

が、形式が通常に確立されることは、充実ではなく危機である。形式性が整った作品が公共圏で有効に機能するかは別の問題で、もしかしたら、親密圏の中で趣味的にだけ機能するかもしれない。親密圏の外部からの侵犯に対しては、作品の無力さだけが際立っていく。ここ数年の世界の出来事が緊張を強いる。

展示タイトルに見られるように、向きの違った方向性を持ったコミュニケーション、それは弱さもしくは曖昧さを表すかもしれないが、外部に対する（対させられる・直面させられる・侵入される…）自己の「姿勢」を示している。作品が、内部と外部の関係を表象したとしても、それは、コミュニケーションの直接性や効率を意味せず、明らかにコスパの低い媒介でしかない。直接的な情景性を手掛かりにすることの限界を越えたとすれば、作品の形式性は、拡張や延長とは違った方法で問われなければならないのかもしれない。

若手アーティスト支援プログラム Voyage2024

土井波音展 汽水の幽霊

渋谷七奈展 光源の二輪

会期…七月十三日～九月一日

会場…塩竈市杉村惇美術館

杉村惇美術館の企画展示室を一室ずつ使って、土井は音響インスタレーション、渋谷は絵画とテキストパネルによる展

示となっていた。別に無理して共通点を作り出す必要はないが、二人の作品からは、展示空間に対する関係やその利用の仕方、断片性の要素の散在などは共通する感じを受けた。

渋谷の作品群は、もちろん、独立した個々の作品としても見れるわけだが、展示された作品内部の白い余白やテキストパネルの白さが、明るい変形のホワイトキューブの空間の中に展開して心地よい。

一方、土井の音響インスタレーションでは、おそらく採取された具体音やつくられた音楽的音響が積み重ねられ、音の採取地の説明ではなく、場の移行や異世界へのとぼ口のようなものを想像させる音響空間が創られていた。個人的な好みかもしれないが、しいていうなら、三十分ほどだったろうか、一つながりの音響空間の中で、最後の数分間は作品の終息が予測されるような気がした。何かそこだけ既存の音楽の形式が見えたような気がする。空間というか、世界の宙吊り感は終息しなくてもよいのではないだろうか。

川瀬すあ 個展「よい眺め」

会期：十一月五日～十七日

会場：Gallery TURNAROUND

今回の川瀬の作品は、以前よりキャラクターが断片化され、キャラクターを取り巻く環境・外界がキャラクターを取り込むように、変異させているかのように見えた。DMの作品では、

断片化されたキャラクターがほぼほぼ左右対称の形状に埋め込まれ、かつその形と地は、反転するかのように、ゲシュタルト転換するように描かれている。とはいえ、それらは、明確な強固さを持つことは無く、むしろ、曖昧で不安定に、フラジャイルに表現されている。大事なのは、表題に居直ることではなく、この曖昧さではないだろうか。

展示タイトルとは単純には矛盾するかのような、現実の、特に関係的现实の不安定さやそこに生ずる不安と快感のようなものの表れ。たぶん、世界の複雑さはこのような形式でのみで形成される。見る／見られる交錯に信頼感はあるのだろうか。残る／残すべき感性はあり得るか。

没後の遺作展や回顧展がその作品の質で本年も目立つ。作品の展開可能性の停止によって、その作家の全貌を確定して位置づけていくことができるのだが、今、本県で目立っているのは、全貌を示すようなものではなく、むしろ、ありていに言って、現役の作家たちの停滞と低迷によって生まれるノスタルジックな過去礼賛なのかもしれない。そのような状況的意味は感じないでもない（もちろん、どの展示も、企画し実施された主催者には敬意を払うものである）。

令和五年度特別企画展 杉村惇作品展 存在と空間の伝説
〜構成の韻律〜

会期…令和五年十一月十八日〜令和六年一月二十一日

会場…塩竈市杉村惇美術館企画展示室

仙台市名誉市民 杉村惇画伯作品展

「存在と空間の伝説 第1章 色彩の韻律」

会期…九月十八日〜十月二十四日

会場…仙台市役所本庁舎二階ギャラリーホール

〜時を超える藝の軌跡〜 杉村惇 作品展

会期…十月十一日〜二十八日

会場…阿部敬四郎ギャラリー（仙台）

持ち寄りこれくしょん 宮城輝夫作品展

会期…二月二十七日〜三月十日

会場…仙台アーティストランススペーススB

+喫茶 frame

主催…宮城輝夫作品展実行委員会

この展示の中に、一点だけ六十年代に描かれた作品があった。おそらく、宮城だけではなくこの世代の作家たちが一番輝いていた時代。ほくにもその直接体験はないが、七十年代に仙台の街を歩き回ると、喫茶店などの壁や詩人や音楽家、作家の部屋などに、宮城の輝く小品がそこかしこに見られた。宮城の後半の作品の平滑で単一のマチエールを持つ作品

と違って、それらの多くは、物体が持ち込まれることや、生々しい物質性の対立の中からイマジネーションを沸き起こすものであった。それらの小品は、大きさからはミュージアムピースとは言い難い。だが、それらの作品の散在が当時の思想や美術や表現のあり様を示していた。市内の文学や政治、思想を専門とした小さな書店の棚が、宮城がここで手に入れる書籍によって質の高い棚になっていたという都市伝説を付け加えておこう。

佐々木正芳 追悼展

会期…七月十日〜九月一日

会場…秋保の杜 佐々木美術館&人形館

地域とアバンギャルド

―戦後前衛芸術の聖地／仙台市太白区太子堂

会期…十月十九日〜令和七年一月十九日

会場…せんだいメディアアテーク七階ラウンジ、スタジオa

主催・共催…タダカン連／せんだいメディアアテーク

資料や掲載書籍なども丹念に収集され整理されていたが、中にあった、七十年代の週刊少年マンガ雑誌の巻頭特集のページにタダカンが掲載されていた。これもまた、その時代の状況を示すものだろう。

印象に残った発表を記録だけ記しておく。

齋悠記 exhibition こつぱにならないもの

会期：四月九日～十四日

会場：晩翠画廊（仙台）

山内文貴展その22 フルホログラム・サイコシティ

会期：七月二十三日～八月四日

会場：仙台アーティストランプレイス スペースA

岡沢 幸 版画展～Garden～

会期：十二月三日～八日

会場：晩翠画廊（仙台）

高橋健太郎―呼吸する庭

会期：十一月二十六日～十二月一日

会場：仙台アーティストランプレイス スペースA

最近、思想界で、「庭」をタイトルに含んだ書籍や、数年前になるか、庭師に弟子入りして参与観察的に作庭の状況を記述し、庭の形成に働く造形性や理論を点検、展開した、若い美学者の本などが出版されている。「庭」が思想界で再検討されていることがうかがえるが、二人の発表に物足らなさを感じるとしたら、理論や形式の形成ではなく、情緒性によって作品がつけられていることではないだろうか。

最後にいくつかのことを付け加えておきたい。

まず、前回の年鑑で少しだけ触れたことへ付け加えておきたい。

川俣正／仙台インプログレス

《みんなの橋（テンポラリー）》再制作

会期：八月二日・三日

《井土浜テラス》《井土の井戸》の制作

会期：八月四日～八月九日

会場：仙台市若林区井土字宅地

主催：せんだいメディアアテーク

協力：新浜町内会、貞山運河倶楽部、井土町内会、

井土まちづくり推進委員会

資料及び映像、作品模型展示

会期：三月一日～五月三十日

会場：せんだいメディアアテーク

一階エレベーターホール周辺、七階ラウンジ

作品模型の美しさ、川俣の作家性の高さがストリートに現れる、それにはいつも感心させられる。一方、ワークインプログレッシブなプログラムには無理もないのだが、そのプログラムの旗頭としての高い作家性が、そのプログラムの進行に現れる多様なアクターや力を打ち消すのではないことをどう提示していけるか。高い作家性やそれにとまなう社会的価

値・訴求力は利用すべきものではあるが、作品やプログラムの場合はそれだけではないことを、特にオーディエンスというが公共圏に参入する市民は意識しておきたい。

伝統的な形式性の内で制作しているベテランや中堅作家の特に、作家活動の回顧的なまとまりを持った個展にみられる停滞というのか低迷感というのか、その原因について二点ほど書いておく。

一つは、発表や展示への志の低さである。それ自体も理由は多々あるのだろうが二つ上げておくと、現在までの作品の展開を見せる時、文脈の整理がなされない場合。また、多くあったのは、それまでの主たる発表場所が同志的結合がもとになった公募団体展系の場合、その羅列型の展示に慣れ過ぎて、作品が要求するスペース感覚に無頓着になっているのではないだろうか。

もう一点は、ある根本的な問題を含んでいるのだが、団体展系で展開してきた作家にとって、作品の質の判断が視覚効果のみになっていき、それが確立されたスタイルの限界になる。つまり、より外部の公共圏に展開して「自省」すべきことがなされていないのだろうか。例えば、「3・11」からの様々な思いを動因として制作することは当然あることだが、その造形的構成は型どおりで、そこに描かれるイメージは、常識

的な社会通念として流通しているものとどまることはよくみられる。その作品が視覚効果にすぐれ、団体内部で評価されたとして、それは質の高い作品なのだろうか。そもその災害とそこからの復興過程は、ステロタイプな世界観が崩壊して新たな世界観を立ちあげられるか、という経験だとするならば、ステロタイプなイメージのステロタイプな使用は美術にとって、公共圏にとって無効である。

世界は自己の身のまわりと慣れたものだけでは出来ていない。だから、理解不能性・認識不可能性があるとして自省的に展開するファインアート、芸術はある。その世界や公共圏が複雑で予測不可能であればあるほど、値切りや居直りではなく、複雑で、不確かで、曖昧で、フラジャイルな作品形式を丹念に作りだし見ていくしかない。その複雑さは、多重で違った形式の喩が作品に織り込まれることであり、それ以上に織り込まれ喩（象徴）の間の裂開に注目していくことなのだろう。公共圏の再構築は屹立した個からであって、趣味的な私からではない。

おお
嶋
貴
明
(画家)



菊池聡太朗 《島 1》 1090 × 750
2024 年
Gallery TURNAROUND 出品作
撮影：小岩勉



菊池聡太朗 《void 1》 1470 × 1970 2023 年
撮影：小岩勉



小山維子 『アスク／モノローグ』
Gallery TURNAROUND 展示写真
撮影：小岩勉



小山維子 《アスク／モノローグ》
180 × 140
撮影：小岩勉



土井波音 「汽水の幽霊」
若手アーティスト支援プログラム
Voyage2024 塩竈市杉村惇美術館 展示写真



渋谷七奈 「光源の二輪」
若手アーティスト支援プログラム
Voyage2024 塩竈市杉村惇美術館 展示写真



川瀬すあ 《good view》
297 × 210
撮影：小岩勉



『川瀬すあ 個展「よい眺め」』
Gallery TURNAROUND 展示写真
撮影：小岩勉

彫刻

令和六年一月から十二月までの宮城県出身あるいは在住の彫刻、立体の作家による創作活動と発表、宮城県内で開催された展覧会、アートプロジェクト、グループ活動における彫刻、立体造形の作品や活動の報告を行う。

令和六年は、前年に「チャットGPT」などの生成AI（人工知能）が日本でも急速に普及した年であったが、3Dプリンタの彫刻分野での活用も一般化し始めていると感じた一年であった。

その一つの事例として、日本のある彫刻家の作品の普及方法に注目した。その作家の彫刻の3Dプリンタデータをその作家ファンが購入して、ファン自身が3Dプリンタを通して作品を立体化して鑑賞するという普及方法が見られた。元の作品は鉄で創られているフォルムの美しい作品であるが、購入者の手で復元される作品は、3Dプリンタで製作される樹脂製のミニチュア版である。作家の価格設定が手頃だったこともあり、その3Dプリンタデータは数百人の作家ファンに購入され、それぞれのファンの手で復元された。このような彫刻の普及や楽しみ方は、一点モノに価値を置いてきた

実材の彫刻造形にとつて、相当、革新的であると言える。芸術分野というよりは産業の分野では既に、AIによるイメージ作成と3Dプリンタによる立体化ということは始まっているようだ。

ルネサンス期から芸術は科学と結びついてより新しい創作手法を展開してきた。その最たる芸術家がレオナルド・ダ・ヴィンチである。芸術と科学の結びつきというのは、遠近法などモノの見方を科学的論理的に可視化、表現することに始まり、絵の具などの材料と表現技法、また研究・構想する内容そのものでもあった。この芸術と科学の結びつきというのは、現代のコンピュータ技術によって凄まじい進化とその一般化が進んでいる。

芸術は、制作者の心・技・体で生み出されるものである。彫刻・立体造形は主にかたちを創ることであるが、そこには作者の、そして鑑賞者の精神活動が伴う。生身の人間である制作者たちがどのように社会を感じているか、何を生み出しどのようなに伝えようとしているかが大切なところだと思う。単に古代からの伝統的な制作手法とデジタル技術を活用した手法を敵

対するものとして区別、比較するのではなく、時代、技術の進化として分け隔てなく、自然にありのままにとらえていきたい。

このような時代背景を感じながら、以下、筆者が実見したものを中心に記載した。筆者が実見できなかったもの、知らなかったものについてはご容赦いただきたい。文中の作家に対する敬称も略させていただいたことを併せてお許しいただきたい。

「辰展 たつてん」(三月二日～四月十四日 秋保の杜 佐々

木美術館&人形館)

一実、つだかおりらが出品。

山中環個展 [light...not heavy]

(二月二十二日～二十六日 アートスペース無可有の郷(柴田町))

第七十三回 新現美術協会展

(二月二十三日～二十八日 せんだいメディアアテーク 六階 ギャラリー)

会員として岡田純子、栗田智彦、佐藤淳一、山本泰士、横山信人、推薦作家として姉齒公也が出品。

佐藤淳一展(二月二十四日～三月四日 東北生活文化大学 ギャラリーCORE)

東北生活文化大学美術学部美術表現学科特任教授(前美術学部長)であり彫刻家の退官記念展。佐藤は中学校教員を経て、平成二年に東北生活文化大学家政学部生活美術学科の講師に着任し、その後、助教授を経て教授となった。家政学部から東北唯一の美術学部への改組では、多大な尽力をした。彫刻シンポジウムに携わり、盛岡、阿蘇、仙台、岩手町、エジプト、モンテネグロ等国内外で作品制作と展示を行った。特に平成七年には仙台国際彫刻シンポジウムを自ら企画・運営し、海外の彫刻家を招聘。東北生活文化大学での公開制作、同年に開催された国際ゆめ交流博覧会会場での参加作家の作品展示、仙台市数箇所への参加作家の作品設置を行い、彫刻による国際交流に貢献した。

本展は、平成八年以降の代表作と令和五年の新作により構成。石を素材とした生動シリーズの作品は、手彫り手磨きを重視する氏の仕事らしく、深み、存在感があり、力強かった。作品のいくつかには、動物を題材に人間の心をユーモラスに表現し作品もあった。石及び鉄溶接の作品群をギャラリー内、及びその前庭の野外空間にも展示し、充実した個展であった。

伝承彫刻五基目の作品「三月」の設置（三月三日 気仙沼市陣山復興祈念公園）

気仙沼市は二〇二一年三月十一日の開園以来、これまでに市民有志の検討委員会が発案したイメージを具象化し、伝承彫刻として「海へ」、「ごめんね」、「よかったね」、「水をくみに」の四基を設置した。今回の五基目の作品「三月」は、陶製で高さと幅が各三十センチ。母子が愛おしそうに抱擁する姿を表現している。全五基の制作は、秋田公立美術大学教授で彫刻家の皆川嘉博が手けた。



野外展示作品（佐藤淳一展より）

第十八回 KAJIMA 彫刻コンクール（三月十三日～四月五日 鹿島 K ビル・アクリウム（東京都））

松岡圭介の「memento-iris-」が奨励賞を受賞。

林範親個展「記憶・風景」（四月二日～七日 仙台アーティストランプレイス）

第七十四回 モダンアート展（四月三日～十六日 東京都美術館）

阿部弘子が会員出品。



皆川嘉博「三月」（提供：河北新報社）

第八十五回 河北美術展（五月二日～八日 東北福祉大学ギャラリーミニモリ）

河北賞「白の時代—Periodo Bianco」松岡圭介（仙台市）

東北放送賞「冬將軍」及川学（登米市）

宮城県芸術協会賞「宇宙の憂鬱」杉崎那朗（新潟市）

東北電力賞「ここから一步」堀宏美（仙台市）

東北福祉大学賞「私を偽造する」柴田祐佳（仙台市）

同展覧会の顧問として、佐藤淳一（仙台市）、亀井陽逸（登米市）、招待作家としてイクコクサカ（仙台市）が出品。



松岡圭介「白の時代—Periodo Bianco」
（提供：河北新報社）

スギサキマサノリ 彫刻展（五月二十八日～六月二日 晩翠画廊）

後藤洋一展 天から降りてきた模様造形（七月十日～十七日 中本誠司現代美術館）

登米市出身在住のガラス造形作家。氏のガラス造形は、自作の石膏型を用いてガラスを鑄造するパート・ド・ヴェールという技法で作るものや、選り取ったガラス片を窯で溶融して作るもの、サンドブラストなどである。基本を学び、それを破っていく自由な発想を重視した作品創作を展開している。それは割れたら捨てられるガラスを再生させることでもあり、東日本震災以降も割れたガラスを再び生き返らせる創作を続けてきた。ガラスの焼成時に南三陸の砂を入れたところ、たくさん泡立ちが生じたという、無数の気泡が美しい「南三陸砂紋皿」や、包装材の気泡緩衝材を石膏で型取りし、パート・ド・ヴェールでその模様をガラスに移した「プチプチ流れ皿」が特に良い作品だった。

氏はガラス以外の素材も扱うが、木の幹が裂けた断面に着色し、まさに炎のように表現した作品は力強い。会場でのシンキング・ボウルの生演奏がある中、イキイキとした作品空間を見せていた。

「みちくさ」展（八月十一日～十七日 旧観慶丸商店（石巻市）
彫刻、絵画、イラスト、服などなどバリエーションに富んだ
九名のグループ展に彫刻の清水直土が参加。

Art to You! 障がい者芸術世界展 IN SENDAI 2024

（八月二十九日～九月一日 せんだいメディアテーク一階オー
ブンスクエア）

十回目となる今回は、同展で初の世界展として作品の募集
エリアを日本国内から世界に呼びかけた。

全世界から千四百二十三作品の応募がよせられ、一次審査
を通過した百三十五作品（うち海外十九点）が会場に展示さ
れた。海外からは、八カ国（フィリピン、台湾、大韓民国、



後藤洋一「プチプチ流れ皿」

ウクライナ、アメリカ、メキシコ、中国、シンガポール）の
出品があった。

彫刻・立体作品の受賞は、以下の通り。

大賞・内閣総理大臣賞 「いえ」 たくちゃん（宮崎県）

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ賞「ユリマチノクマ」

板垣 登樹（秋田県）

楽天イーグルス賞 「りんご」 コレール（宮城県）

仙台育英学園インターアクト部賞 「恐竜」 菊池 宗晃（岩
手県）

第百八回二科展（九月四日～十六日 国立新美術館）

宮城県の齊藤充輝が入選。

ちばふみ枝個展「いくつかの波間」

（九月五日～二十三日 Gallery of The Fine Art Laboratory
（武蔵野美術大学二号館GFA1））

第八十七回新制作展（九月二十日～三十日 国立新美術館）

高家理が野外展示に「ひとひら」を会員出品。

第十三回せんだい21アンデパンダン展 2024（九月二十五日～
十月六日）

以下の八会場で開催された。中本誠司現代美術館、GALLERY ECHIGO、仙台アーティストランプレイス、ギャラリーチフリグリ、むかでや画廊、Gallery TURNAROUND、のりっぱ／野外展示、野外パフォーマンス 1Day センダイフォーラスお客様駐車場。

彫刻・立体では、中本誠司現代美術館とむかでや画廊に清水直土が出品。Gallery TURNAROUNDで菊地市千が折る手をかたどった陶芸「ちいさいのり」を出品。

第六十一回宮城県芸術祭彫刻展・彫刻公募展

(九月二十八日～十月一日 センダイメディアテーク六階ギャラリー)

出品者は公益社団法人宮城県芸術協会彫刻部会員のうち以下の通り。翁観二、佐藤淳一、赤井靖武、小関俊夫、永倉香名子、阿部弘子、及川茂、大槻俊之、亀井陽逸、早坂修、相澤オサム、姉齒公也、イクコクサカ、海野健治、木村民男、佐々木莉央、しょうじこずえ、新藤睦子、高平将人、中村たみ子、野地節子、花淵一明、保崎裕子、山中ミサ子、渡邊摩里。招待作家は仙台市出身在住の松岡圭介。

宮城県芸術祭賞 姉齒公也 「宝を育てる」

宮城県知事賞 花淵一明 「switch」

花淵は本年より宮城県芸術協会彫刻部の新会員となった作

家。木理の美しい木の板に配管とスイッチが組み込まれている。スイッチを入れることで作品の何かが動作することはない。作者はスイッチがあつたら、思わず押してしまうという人間の衝動を誘発することが狙いという。木の生かし方、造形の丁寧さに作家の取り組みの真摯さとセンスを感じる作品である。



花淵一明「switch」



姉齒公也「宝を育てる」

河北新報社賞 海野健治 「男の首」

菅野美術館賞 山中ミサ子 「育む」

同協会の創立六十周年記念事業として、写真部との合同企画で彫刻部会員のアトリエを写真部会員が訪れ、アトリエでの制作風景写真を撮影。それを写真パネル及びモニターで公開した。



海野健治「男の首」



山中ミサ子「育む」

普段それぞれの作家がどのような環境で創作活動をしているのかが垣間見え、一般の鑑賞者、会員間でもとても新鮮で有意義な機会となった。またもう一つドイツ・トリフタン文化芸術協会とのオンライン交流をテスト交流を含め三回実施し、その録画を編集し、会場にて放映した。

彫刻公募展の受賞は以下の二点。

宮城県芸術協会賞 佐藤 さおり 「吾子」

じっくり丁寧に取り組んだことが完成度から感じられる好感の持てる作品。



佐藤さおり「吾子」

奨励賞 畠山 東洋子 「記憶」

紙を層状の箱に組み立て、奥行きを視覚で味わう作品。空洞を目で通りながら、紙の色からくる涼やかさも感じられる作品。繊細で五感で味わう彫刻となっていた。

「建築文化週間学生グランプリ2024」二次審査（九月二十九日 建築会館ホール）

栗原市の東北職業能力開発大学校二年の渡部真央と坂下賢哉、福山杏の三人が出品した作品「灯籠草」が最優秀賞を受賞。同賞の受賞は東北で初めての快挙だった。十月に銀座通り周辺で開催される「銀茶会」のなかで展示され、実際に茶会で使用された。

コンペティションのテーマは「嬉笑（きしょう）」で、三人は「ホオズキの柔らかな曲線が嬉笑を生むのではないか」と考えて設計。広さ二畳の空間に竹を二層のドーム状に組み、ホオズキの葉と実を表現した。

栗原市は三人の功績をたたえ、十一月二十日に「輝く日本一くりはら大賞」を贈った。



東洋子「記憶」

嵯峨卓 鍛金の仕事展（十月一日～六日 晩翠画廊）

第三十九回石巻市美術展

（十月六日～十四日 マルホンまきあーとテラス（石巻市））
最高賞の市美術展賞にちばふみ枝（石巻市）、市長賞に佐藤さおり（利府町）、奨励賞にしょうじこずえ（石巻市）が入賞した。

失われた風景を求めて～片桐宏典の彫刻とドローイング展～

（十月十八日～十一月三日 implexusartgallery（盛岡市））

【ミチノモリ】Music, Reading, Art and Soupi

（十月二十六日 ギャラリー由季野（川崎町））

和紙造形作家 渡邊摩里が出品。

高橋健太郎個展 呼吸する庭

（十一月二十六日～十二月一日 仙台アーティストランプレイス）

クッションのような形に手彫りで彫刻した八十キロの白御影石、チェーンソーで穴が開くほどにうすく幹をくり抜くように彫り込んだ長さ三メートルの杉の木、直径六十センチの鉄板を叩いて造形した三つの抽象的な造形物が空間に配置さ

れたインスタレーション。三点ともそれぞれ異なる素材で、造形もざっくりと素朴なようであり、醸し出される空気感は繊細に感じられる。石と木と鉄の三点に、作者の呼吸が宿っているようで、心地良い空間となっていた。



「高橋健太郎個展 呼吸する庭」
より（提供：河北新報社）

過去に制作した形を粘土で再制作して、乾燥していない粘土そのままで展示している作品も複数あり印象的だ。一つ一つの作品について、プロセスをセルフモニタリングのように体感し、味わいながら作っており、なおかつ、その時の思考を記述して残している。そこに出来の良し悪しという評価、思い入れ、思惟を入れずに事実を記述している冷静さが興味深かった。空間・什器設計／制作ユニットの建築ダウナーズによる会場デザインもとても良かった。

椎名勇仁 可塑園…ねん土的思考

（十一月二日～令和七年一月十三日 せんだいメディアテーク
六階ギャラリー）

一九七三年岩手県花巻市出身の作家。東京藝術大学大学院修了、二〇一〇年度宮城県芸術選奨新人賞を受賞。初期の活動で、自作の粘土作品をハワイのキラウエア火山などの溶岩で焼成する火山焼を行う作家として注目を集めた。今回の展示では、火山焼以前の初期作品から最近の仕事まで、作家の創作を網羅した回顧展とも言える作品点数の多い展覧会。

清水玄太 石彫展 ―続 祈るふつうの人―

（十一月九日～二十四日 ぎやらりー由芽（東京都））



「椎名勇仁 可塑園：ねん土的思考」
より（提供：河北新報社）

令和六年度宮城県芸術選奨授賞式

(十一月二十九日 宮城県行政庁舎十一階 第二会議室)

美術(彫刻)部門で小田原のどかが芸術選奨新人賞を受賞。彫刻、評論を行なっている。筑波大学大学院人間総合科学研究所博士後期課程修了で芸術学博士。大学在学中から氏は、全国各地のグループ展に参加してきたほか、個展も多数開催しており、群馬青年ビエンナーレ二〇一五で優秀賞、二〇一八年 ALLOTOMENT トラベルアワードで大賞を受賞するなど、作品は様々な企画や美術展で高評価を得ている。

令和五年度は、「小田原のどか つなぎプロジェクト成果展 2023『近代を彫刻／超克する―津奈木・水俣編「序」』の開催や、企画展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となり得てきたか?―国立西洋美術館六十五年目の自問・現代美術家たちへの問いかけ」に参加した。ほか、彫刻に関する著書『モニュメント原論…思想的課題としての彫刻』(青土社、二〇二二)、『近代を彫刻／超克する』(講談社、二〇二一年)二冊の著作、ほか共著・編集するなど幅広い活動を見せた。

氏はこれまでに見えていなかった彫刻美術制度上、文化史上の様々な問題を浮上させ、提示している。

能城ちおん個展「蛾たちとわたし」

(十二月八日～十四日 ギャラリーストークス(東京都))

第七十四回 新現美術協会展

(十二月二十日～二十五日 せんだいメディアテーク 六階 ギャラリー)

会員として姉菌公也、岡田純子、粟田智彦、佐藤淳一、山本泰士、横山信人が出品。

青野文昭個展「世界の欠片を持って歩む」

(十二月十八日～令和七年一月十二日 galleryTURNAROUND)

保坂俊彦 蛇の流木アート

(十二月～令和七年二月下旬 制作・展示 東松島・野蒜海岸)

彫刻家で東松島市の地域おこし協力隊員でもある保坂俊彦が一週間かけて制作。像は高さ三メートルで、住民約十人と海岸で拾い集めた流木約千本を使って作られた。目はカプセ



保坂俊彦 蛇の流木アート
(提供：河北新報社)

ルトイの空カプセル、舌は海岸に漂着した漁網で表現し、重厚感ある大蛇となった。干支に絡んだ制作は、前年の龍に続いて二回目とのこと。作家の地域の人々が良い年を迎えられるようにとの願いが込められている。

おわりに

制作者としても、生活者としても、わたしたちを取り巻く環境は、便利になる一方で必ずしも生きやすいとは限らない。二〇一九年以降のコロナ禍については、一段落着いたが、ウクライナとロシアの終わらぬ戦争、それによるエネルギー不足、食糧不足、経済への影響等々。そのような心理的、物質的、経済的影響を感性鋭い作家たちは何かしら感じ取って、作品に反映していると思う。人々は誰もが豊かで平和な世界を望んでいるはずだ。今年も各作家の創作活動はそれぞれに有意義で充実していたと感じる。世界も日本国内も大きな変化点にある今、これからの表現活動にもさらに注目していきたい。

日くさ 下か 育いく 子こ

(宮城県芸術協会運営委員・河北美術展招待作家)

工芸

令和六年の宮城県工芸界の最も輝かしい功績といえば、七宝作家の高橋通子が第七十三回河北文化賞を受賞したことだろう。東北の発展に貢献した個人や団体を顕彰するこの賞を、県の工芸界の重鎮であり、長年にわたって県の七宝作家を先導してこられた高橋が受賞したことは、誠に喜ばしい限りである。

一度絶えた「省胎七宝」の技法を復活させ、各地の講習会や中国の大学でも指導にあたり、後進の指導に尽力した。その高橋の功績の成果を裏付けるように安藤令子が第七十一回日本伝統工芸展で会長賞を受賞した。

安藤は高橋の愛弟子で、氏の指導の下、長年にわたって七宝の技術・感性を受け継いできた。作品のタイトルは「律」。「銀有線七宝」というユニークな技法が特徴である。銀線を模様として生かす斬新な表現が高く評価された。作品のテーマは「迷路」であり、制作には三か月を要したという。

ピンセットを繊細に扱う熟練の作業が輝く図柄であった。今後も七宝作家の高橋に続き、更なる作家の活躍に期待したい。

では、その他の県内の工芸の主な動きを、月ごとに焦点を当てて振り返りたい。

一月には、第七十回日本伝統工芸展仙台展（主催…日本工芸会、宮城県教育委員会、河北新報社など）が仙台三越で開催された。陶芸、漆芸、染織、木竹工など七部門の入賞・入選作品、重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品約三百点が展示された。伝統を受け継ぎ、新たな表現を目指した逸品揃いの作品であった。工芸展は優れた伝統工芸の保存と後継者の育成を目指す国内最大規模の公募展である。小学生にもその魅力を伝えようと、子ども鑑賞会が同時開催された。

令和六年元日、突然、日本を揺るがすような大地震が能登半島を襲った。大きな困難を乗り越え、伝統工芸展に入選した石川県の輪島塗や九谷焼の作家の作品は、来場者に大きな感動を与えたのではないだろうか。被災した作家と、その制作環境の一日でも早い復興をお祈りしたい。

宮城県からは次の発表があった。

●橋本昌彦 「塩釉長方皿」(陶芸)

●鈴木元子 「乾漆蒔髹箱」「春光」(漆芸)

●本間潔 「櫟拭漆盛皿」「萌」(木竹工)

●安藤令子 「七宝鉢」「律」(七宝) 【日本工芸会会長賞】

●種澤有希子 「青い花」(七宝)

●鍋田尚男 「モザイクガラス兜鉢」「春の夕」(ガラス)

藤崎本館六階美術ギャラリーでは、昨年に引き続き、宮城県芸術協会工芸部会員二十九人による「宮城の工芸」展が開かれた。一般に、工芸展というと公募展に展示するような大作のみだと思われがちだが、工芸本来の普段使いできる食器や、使う楽しさを求めた花器などを中心に約三百点が展示された。同時に、同協会華道部とのコラボによる生け花は、華やかで豊かな雰囲気を感じ上げ、実際に使うことで工芸の魅力を強くアピールした。陶芸、染織、木竹工など七部門の入賞作品と重要無形文化財保持者らの最新作を加えた十九人が入選した約三百点が展示された。

仙台市在住の陶芸家の小鯖美保子が晩翠画廊で個展を開いた。芸術性と用途のバランスを追求した素直な器作りには、好感が持てる内容であった。

宮城県仙台城南高等学校の生徒は、卒業研究として、東北の伝統工芸や文化を題材に手ぬぐいを制作した。高校生の新鮮な感覚が伝統工芸に生かされた製品は、ファッションのアクセントにも使えるものとして好評を得た。こうした高校生による伝統工芸への取組みは、工芸の存続が危惧される現在の状況に、新鮮な風をもたらし、活力を生むものだと大いに歓迎したい。

四百年以上の歴史がある「丸森和紙」で卒業証書を作ろうと、丸森町立丸森小学校の六年生が手すきの紙作りに取り組んだ。児童二十三人が紙の原料の説明を受け、自分たちの卒業証書の紙を制作した。こうした活動は、いわゆる芸術家の活動ではないが、工芸作家を育てるためには、その基礎となる体験を通じ、子どもの頃から関心を持たせる機会こそが最も大切なのではないだろうか。時間をかけて伝統工芸の担い手を育て上げる取組みが望まれる。

二月になると、第六十六回全日本こけしコンクールが、白石市のホワイトキューブであり、入賞作品六十七点が発表された。最高賞の内閣総理大臣賞には、新山真由子の弥治郎系の伝統こけし選ばれた。河北新報社賞は、鳴子系の岡崎斉一が受賞した。今回は、伝統・新型・創作の各こけし、木地

玩具、応用木製品の五部門に、七百九点、延べ百六十人から出品があった。

六月に入り、第四十八回東北現代工芸美術展が、せんだいメディアテークで開催された。この展覧会は、東北六県在住または出身者を対象とする造形作品の公募展である。染織、陶芸など二十九の応募があり、入賞に八点、入選に二十一点が選ばれた。

一般の入賞・入選者と会員・顧問・審査員の作品は次のとおり。

●河北新報社賞

「どちらも武器を置きなさい、花はどこへ行った」(金属)

佐藤良作(宮城県石巻市)

●宮城県文化振興財団賞

「満ちる」(染織) 矢吹綾(青森県弘前市)

●現代工芸賞

「夢の箱」(染織) 今野隆子(宮城県大郷町)

●宮城県知事賞

「萌える」(陶磁) 小泉貞子(青森県八戸市)

●仙台市長賞

「花野饗宴」(陶磁) 井上舞(福島県二本松市)

●奨励賞

「晴音 2024」(染織) 長沢光子(宮城県塩竈市)

「冬霞」(染織) 藤井静江(宮城県石巻市)

「再会(花器)」(陶磁) 吉田孝幸(宮城県大崎市)

蔵王町の人形作家の小室仙子が主宰する球体人形教室の作品展が、白石市の寿丸屋敷で開かれた。球体人形は、関節部分に球状の部品が取り付けられているため、人間のように動かせる特徴がある。関節を曲げられるからこそ、今にも動き出しそうな人形の姿を楽しんでほしいと来場を呼びかけた。

金属工芸作家の新田明子は、絵本作家との二人展を大崎市の吉野作造記念館で開いた。新田はオブジェや花器、アクセサリーなど四十点の作品を展示。鍍金、彫金、鍛金などの技術で柔らかな表現の作品に仕上げた。

仙台市の陶芸家である加藤晋の個展は、晩翠画廊で開かれた。結晶釉と呼ばれる釉薬が黒土の上に花のような美しい結晶を作り、見応えのある作品として観客を魅了した。

七月には、白石市特産の白石和紙を活用した絵手紙を展示する「白石和紙絵てがみ展」が、白石市の寿丸屋敷で開かれた。

市内の小中学生の作品を中心に約五百点が展示された。

「全国焼き物フェア in みやぎ2024」（主催…一般財団法人みやぎ産業交流センター、河北新報社、東北放送）が夢メッセみやぎで開催された。全国の焼き物、漆器、ガラス食器の産地から参加者の作品が並んだ。

県内の工芸品を展示・販売する「匠の杜クラフトフェア in 県庁」（主催…宮城県）が県庁一階県民ロビーで開催された。十四事業者が出展。県が伝統的工芸品に指定する綿織物の若柳地織（栗原市）、台ヶ森焼（大和町）などが出展された。

八月には、宮城県柴田町の和紙人形作家の大槻由紀子による作品展が、町内のレンタルスペース「麴や」で開かれた。色鮮やかな和紙七、八枚を重ねて作った着物をまとった、高さ三十センチメートルの和紙人形三十一体を展示。制作に三年をかけ、和紙とは思えないほど緻密で立体的な作品が並んだ。

仙台市太白区の秋保工芸の里には、「梶の森 小竹孝 埋もれ木細工美術館」がオープンした。令和五年の春に引退した埋もれ木細工職人の小竹が、友人の協力を得て、自宅の工房をリニューアルした。

青葉山公園緑彩館では、仙台的伝統工芸や文化財の魅力に触れる「せんだい技フェス」が開催された。仙台七夕まつりの吹き流しに使われた和紙を切り抜く「紋切り」や、弥生時代の稲刈り道具「石包丁」、木製バーツに金箔を貼り付けるアークセサリーなど、九種類の体験メニューが用意され、人気を集めていた。

古くなって傷んだものを美しく再加工する漆の技術を知ってもらおうと、「時絵工房うるしまる」が主催する漆工芸作品展が、東北電力グリーンプラザで開かれた。工房を営む時絵師の渡辺栄一と、その工房の教室に通う生徒二十三人の手がけた作品が展示された。

九月は、英国出身のジェームス・オベが晩翠画廊で個展を開いた。氏は昭和五十七年に来日し、平成三年には柴田町に「雷窯」を築窯した。氏のレインボー柄の作品にはファンも多い。

宮城県田尻さくら高等学校で、「こぎん刺し」の体験授業があった。青森県津軽地方に伝わる刺し子には、日本人の豊かな感性や伝統文化のすばらしさを学ぶことが目的で、ファッション造形基礎の授業を選択する生徒や履修生十八人が参加した。

十月、参加者が絵付け、陶芸家が焼成した茶碗で抹茶を楽しむ空間アートイベント「野点」が、大河原町の白石川公園で行われた。

県内の伝統的工芸品を展示・販売する「みやぎの伝統工芸品のある暮らし展」（主催：宮城県）が、東北電力グリーンプラザで行われた。七事業者が出展し、石巻市特産の雄勝石の割れ肌と黒色を生かした食器類、堤焼の器などが並んだ。

大崎市鳴子温泉郷の伝統的工芸品「鳴子漆器」に新たな需要を生み出すプロジェクトに、ローカルイノベーションスクール（LIS）が取り組んだ。LISは市内のデザイン会社により運営され、地域課題を教材に受講生が解決に取り組む。このような伝統工芸に新たな息吹を吹き込む取組みに、これから大いに期待したい。

宮城県岩沼市の陶芸家である島見美由紀は、晩翠画廊で個展を開いた。杜のみやこ工芸展では二度の受賞歴がある実力者。蝶や草紋などをモチーフにした優れた作品が並んだ。

十一月には、第五回杜のみやこ工芸展が開幕した。河北工芸展を継承し、宮城県芸術協会が主体となっている本工芸展

には、陶磁、染織など十三種別の入賞二十九点、入選百十七点と、審査員らの作品を合わせて百六十五点が展示された。また、同協会会員の作品四十八点が並ぶ、宮城県芸術協会工芸会員展が同時開催された。

浅野治志（筆者）は、青葉区のライフスタイル・コンシエルジュで個展を開いた。一日から三十日までの丸々一か月間、長い会期の個展であった。個展テーマを「トンボの描いた空の軌跡から」とし、色絵の技法を中心に染付・彩磁の作品のほか、令和五年に、中国慈溪市博物館国際青磁アートビエンナーレ展で銅賞を受賞したトロフィーを含む、約五十点を展示した。

十二月には、村田町のガラス工芸作家の志賀英二・まつたさゆり夫妻の個展が、青葉区のギャルリ・アルブルで開かれた。花器やグラス、オブジェなどの作品約三百点が展示された。

宮城伝統こけし組合連合会は、四年振りとなる小学生への授業を行った。仙台市立沖野小学校の四年生七十一人を対象に、「ろくろ」での絵付け体験など、児童の興味をそそるような内容で、伝統の工芸文化への関心を高める内容であった。

以上、大まかにではあるが、一年間の工芸の活動をまとめた。
なかには工芸とは何か、手芸との違いは何か、など考えさせ
られるものも少なくなかった。

大きな問題として言えることは、制作者や出品者の減少で
ある。しかし、存続が危惧される工芸界にも、新たな息吹を
感じられた。子どもに向けた教育活動にも焦点を当てて記録
させていただいた。少しでも未来の工芸界への播種に繋がれ
ばと、希望する次第である。

浅^{あさ}野^の治^{はる}志^{ゆき}

(宮城教育大学名誉教授・宮城県芸術協会理事)



七宝作家 高橋通子（提供：河北新報社）



安藤令子 七宝鉢「律」



橋本昌彦 塩釉長方皿



鈴木元子 乾漆蒔醬箱「春光」



本間潔 櫛拭漆盛器「萌」



種澤有希子 省胎七宝器「青い花」



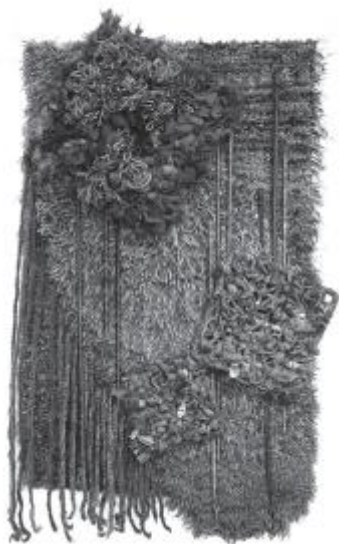
鍋田尚男 モザイクガラス兜鉢「春の夕」



杉山智一 創作仙台筆筒「りんご飴」



山口幸雄 風の路



安倍由夏 深緑の季



及川曜子 細雪



武藤洋子 春日和



大沼明子 hotaruishi



佐瀬たか子 省胎七宝器「連菱」



松葉滋樹 夢幻泡影



横田美和 絢着物「春嶺」

書

新型コロナウイルス感染症のニュースから五年が経過した。徐々にはあるが、以前の日常に戻りつつある。それでも、「復活！」と力強く言えないのが本音か。

そのような状況の中、令和六年一月二十六日、文化庁から、無形文化遺産保護条約関係省庁連絡会議において「書道」をユネスコ無形文化遺産登録に向け再提案することが決定された旨の発表があった。

数年来、書道に携わる者たちを中心に、様々な形でその後押しをしてきたことが実ったと喜んでいるところだ。ユネスコ無形文化遺産登録となるまでは、ユネスコへの正式提案から評価、審議を経ていくことになるそうだが、さらに盛り上げていきたいものだ。

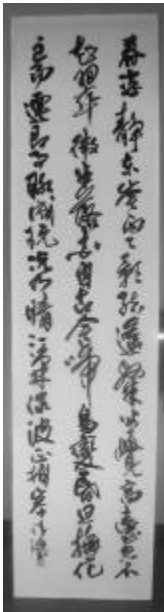
さて、県内に目を転じると、今年も、公募展、社中展とそれぞれに活発な活動が見られた。県内書道界をけん引してくださる指導者の下、ベテランから若手まで社中の色を出した、あるいはそれにとらわれない作品が発表された。また、県内での展示はなかったものの第四十回読売書法展においては、大浦清漣氏が読売新聞社賞を受賞されるなど役員、公募とも

活躍があった。

一方、個展としては、書の部門で宮城県芸術選奨を受賞した一関京子氏の「一関京子書展―のあとさき―」は、白い世界に淡墨の美しさが映える、心地よい空間が印象的だった。また、「書」をベースに、「紙と墨」にこだわらない表現を用いる作品展も開かれ、「書」の広がりを感じさせた。

芸術に限らず、すべての分野において、若い力の台頭は、その分野を底上げする大きな力となる。門外漢の者でも、棋界で活躍する藤井聡太棋士、一力遼棋士の活躍は見聞きしたことがあるだろう。筆者が注目したいのは、高校生の活躍だ。令和六年度で七十三回を数える県高等学校書道展といった伝統ある展覧会での発表はもとより、近年話題の、書道パフォーマンスは高校生の書道への誘いの力となっているものと感じている。令和六年十月二十日に開催された、第四回全国高等学校書道パフォーマンスグランプリ地区大会では、昨年全国大会で優勝した仙台育英学園高等学校を含む四校が出場し熱戦が繰り広げられ、県内のイベントなどにおいても幾度もその活躍が報じられたところだ。

筆者は彼らの活躍を見るにつけ、この新しい胎動を学校生活で終わらせることなく、一生を通じた友とできるようなものにしてほしいと思いを巡らせる。県内の大学に目を転じれば、いくつかの大学においても、それぞれの活動を展開している。伝統文化の継承が大変困難な時代にあつて、子どもたちの生涯のよすがとなるように学校、業界の垣根をこえて、関係者が手を携えることができればと念願するところである。



大浦青蓮
第40回読売書法展



聖ウルスラ学院英智中高書道部パフォーマンス
(藤崎) (提供：河北新報社)



書道パフォーマンスの作品を披露する白石高書道部員 (イオンモール名取) (提供：河北新報社)

◎令和六年度宮城県芸術選奨受賞者

一 関京子

令和六年三月には、「一関 京子書展 ―…のあとさき―」を開催し、展示空間やテーマに沿った作品群とその説明等において、従来とは異なる書展を提案する示唆に富むものと高く評価された。

◎第十一回日展 (令和六年度) 入選者

小日向慶可 畠山翠香

主な書道展

◎第七十一回河北書道展

前期…九月六日～十日 後期…九月十三日～十七日

会場…TFUギャラリーミニモリ

主催…(株)河北新報社、(公財)河北文化事業団

特別協賛…日本航空(株)

応募点数七百六十二点、一般と会友に分けて審査が行われた。入賞・入選作と特別顧問をはじめ審査会員など、九百五十九点が展示された。巡回展は、九月二十五日から二十九日に大崎市民ギャラリー緒絶の館で開催。主な受賞者は、次のとおり

【一般】

河北賞

菊地青巖 木下陽月 浅野黄扇 及川美樹子

菅原峰子 鳴海博明 菅井美朱

宮城県知事賞 二階堂和枝

仙台市長賞 及川雪歩

宮城県教育委員会教育長賞 宮川玲春 小泉潤

仙台市教育委員会賞 筒井保子

宮城県芸術協会賞 阿部葉柳

JAL賞 池田勝一

東北福祉大学賞 宮本春紅

東北電力賞 山口美笙

東北放送賞 菊田昌園 木村陽子

藤崎賞 鎌田花歩

奨励賞 大山香雨 緒方由紀子 萱場鳳僊

【会友】

河北会友賞

輕部奏月 高橋奎媛 高野天音

会友秀逸賞

渡辺青瑛 岡崎幸子 田村紅沙 齋藤雅貴 佐藤靖子

菊地裕琴 南浦洋州

【委嘱作家】

委嘱作家特別賞

菅原紫雲 大友紅蓉 天野白扇 畠中成山

委嘱作家俊英賞

渡邊由紀子 笹木蒼風 和泉とし子

◎第七十五回毎日書道展東北仙台展

会期…九月二十日～二十五日

会場…せんだいメディアテーク

青森県・岩手県・宮城県の三県からの出品のほか、全国巡回の作家による漢字、かな、近代詩文書、大字書、篆刻、刻字、

前衛書の七部門の作品約八百四十点が展示された。高校生らによる書道パフォーマンスも行われた。

県内の入賞者

会員賞

鈴木英晴 一條紅蕭

毎日賞

阿部桃鶴 佐藤和華 大友四峰 山内松吾 丸藤紫苑

阿部俊吾 中塩朱華

秀作賞

佐茂明祥 本郷谷恵 神作朱雀 齋藤恭子 穴戸雲水

高橋奎媛 金沢泉明

佳作

井上美鶴 宮本圭華 門真祥扇 庄司咏艸

菅原滯花 遠藤光葉 大友章平 齋藤順平 鈴木龍仁

波部千秋 深畑紅華 山崎智寿 近藤桜紅 西條松雲

薩日内秀蓮

U 23 毎日賞 細川和紗

U 23 新鋭賞 新原彩織

U 23 奨励賞 椎野友美 芳賀真桜

◎第四十一回産経国際書展東北展

会期・九月十三日～十八日

会場・せんだいメディアテーク

八月に開催された本展の上位入賞者に加え、東北在住者の入賞、入選作品など計二百十一点が展示された。

県内の入賞者

伊達政宗賞 酒井雅代

審査会員優秀賞 石上千曄

産経準大賞 澤口貴美江

産経新聞社賞 手代木龍也

特選 山下美紀

秀作 菅野英子 菅野浩子 土井聡 屋代清漣

U 23 特選 佐藤かのん

U 23 秀作 町美沙季 八木澤登

◎第六十一回宮城県芸術祭

会期・十月十二日～十五日

会場・せんだいメディアテーク

第六十一回宮城県芸術祭は、協会設立六十周年の記念事業として進められた。

入賞者

宮城県芸術祭賞 岸本清舟

宮城県知事賞 渡辺無象

仙台市長賞 井上紫玉



畠中成山「潭影千峯倒」
(提供：河北新報社)



天野白扇「堀井杏苑の詩」(提供：河北新報社)

書道部における記念事業は、
席上揮毫（揮毫者 加納鳴鳳、門間翠葉、千葉四帆）
カレンダー作成体験（指導 佐藤象雲、渋谷青龍、柳由美子）

社中展・グループ展・個展ほか
（二月）

◎創立九十周年記念東北書道新春展（会長 後藤青峰）
会期…一月十二日～十七日
会場…せんだいメディアテーク



県芸術祭 60 周年記念事業 席上揮毫会

昨年創立九十周年を迎えたが、新型コロナウイルス感染症の動向を踏まえ、一年延期の記念事業となった。会員百六十四人が出品。小中学生の作品も合わせ七百十一点が展示された。

◎桃源書展（主宰 田村政晴）

会期…令和六年一月二十七日～三十日

会場…せんだいメディアアテーク

隔年で開催されている社中展で十六回を数える。近代詩文、現代書を中心として五十五点が展示された。古典を身に付けた上で自由に書く、読めて楽しめる作品が多数出品された。

◎第九回宮城一先会書展（主宰 門間翠葉）

会期…一月二十七日～二十九日

会場…せんだいメディアアテーク

かなの爽やかさ、漢字の力強さが感じられる多彩な作品が並んだ。

◎第七十七回県・仙台市小中学校児童生徒書初め展覧会

主催…県連合小中学校教育研究会書写研究部会

会期…一月十七日～十九日

会場…アエル

恒例小中学校児童生徒書初め展。毛筆・硬筆併せて七二四〇点が展示された。

（二月）

◎仙萩展

会期…二月二日～七日

会場…せんだいメディアアテーク

会員二十八名の作品による、淡墨での表現を中心とした大作から小品まで多彩な作品が展示された。

（三月）

◎第十回翔雲会書展（主宰 建部恭子）

会期…三月十六日～二十日

会場…せんだいメディアアテーク

近代詩文や少字作品を中心とした八十点が展示された。空海が最澄に宛てた手紙「風信帖」を十九人で合作した臨書作品も出品された。

◎相馬亮・相馬美希二人展

会期…三月二十六日～三十一日

会場…晩翠画廊

尚綱学院大学教授で画家の相馬亮氏と河北書道展等墨象作家として活躍している妻の美希氏の二人展。亮氏の鉛筆画と美希氏の書作、合わせて約三十点が展示された。

◎一関京子書展―のあとさき―

会期…三月三十日～四月三日

会場…せんだいメディアテーク

東日本大震災後に書き溜めた計約三十点が展示された。寒さや海、別れ、日常の大切さなど震災に通じる題材を選び、被災者に思いをはせて書いた。真つ白い世界に、淡墨の文字が浮かび上がるような会場効果を醸し出していたのが印象的だった。

(四月)

◎ふる里ありがとう展

会期…四月六日～七日

会場…大張まちづくりセンター

丸森町出身で横浜市在住、戸清信氏と水墨作家藤崎千雲氏による作品展。令和元年台風十九号豪雨で被災した丸森町を元気づけようと開催された。

(五月)

◎二〇二四みやぎを魅せる書展Ⅱ (実行委員代表 渋谷青龍)

会期…五月二日～六日

会場…せんだいメディアテーク

三十代から六十代の五十九人による、漢字、かな、近代詩文書、墨象、篆刻などの作品。縦三メートル横二メートルの大作が目立つ。「春」テーマに取り組んだ。

◎第六十九回全国公募東北書道展

主催…東北書道会

会期…五月十七日～二十二日

会場…せんだいメディアテーク

漢字、かな、篆刻・刻字の三部門による一般部、高校生と大学生の学生部、幼稚園児から中学生までの教育部の入賞・入選作品、審査員などの作品約千五百点が展示された。

◎第三回蒼原社現代書展 (主宰 尾形澄神)

会期…五月三十一日～六月三日

会場…せんだいメディアテーク

蒼原社会員が過去五年間に発表した中から秀抜した作品が展示された。

(六月)

◎自然体展二〇二四 (主宰 大塚耕志郎)

会期…六月十一日～十六日

会場…晩翠画廊

大塚氏の指導する七歳から八十代までの四十五人の作品展。

(七月)

◎第六十九回全国公募図南書道展 (会長 八乙女青峰)

会期…七月二十六日～三十一日

会場…せんだいメディアアテーク

漢字やかな、調和体、少字の各部門に三百点が展示された。

◎第六十五回筆祭り恵風書道展

主催…龍峰書院

会期…七月二十六日～二十九日

会場…せんだいメディアアテーク

新型コロナウイルスによる中断を経て、5年ぶりの開催となつた社中展。

(八月)

◎玄穹社選抜書展（主宰 千葉蒼玄）

前期…八月一日～十五日 後期…八月十六日～三十一日

会場…硯上の里おがつ

玄穹社の選抜会員の作品で、「書道芸術院展」などで発表された作品も含め約四十点が展示された。漢字、近代詩文書、墨象などバラエティーに富んだ作品が並んだ。

◎第五十一回宮城野書道展（会長 佐藤象雲）

会期…八月二日～六日

会場…せんだいメディアアテーク

一般部及び教育部合わせて約三百点が展示された。中国の古典を基礎とした伝統書中心の作品が会場を引き締め、教育部では子どもたちの楽しさあふれる作品が心を和ませる。

◎宮城野書人会展 併催 学生書道展（会長 尾形澄神）

会期…八月十六日～十九日

会場…せんだいメディアアテーク

漢字、かなの伝統書から、近代詩文書や墨象などの前衛書まで幅広い作風の作品が展示された。

(十月)

◎第五十四回宮城書芸院書展（会長 加納鳴鳳）

会期…十月三日～六日

会場…大崎市民ギャラリー緒絶の館

近代詩文や漢字など七十五点を展示。縦二百四十センチ、横九十センチの二作からなる加納氏の作品など大きな作品が多いことが本年の特徴。幼稚園児から中学生までの作品を展示した教育部も併催。

◎東北書道秀拔展

会期…十月十八日～二十二日

会場…せんだいメディアアテーク

役員推薦で約百人を選抜。掛け軸（茶掛け）仕立てで仕上げた、漢字、かな、篆刻、調和体の作品百六十六点が展示された。

◎伝統の墨美 第四十八回素心書道会書展

主催…素心書道会書

会期…十月二十六日～二十八日

会場…せんだいメディアアテーク

漢字、かなの伝統書中心の作品で、掛け軸作品では、バラエティーに富んだ作品が並んだ。併せて学生部展開催。

◎第六十三回洗心書道展（会長 中塚仁）

会期…十月三十一日～十一月三日

会場…東京エレクトロンホール宮城

幼稚園児から九十代までの会員の漢字やかななどの作品約二百点が展示された。特別企画として内藤以貫や中林梧竹ら宮城ゆかりの書家を紹介するコーナーも設けられた。

（十一月）

◎第七十三回宮城県高等学校書道展覧会

主催…宮城県教育委員会他

会期…十一月八日～十三日

会場…せんだいメディアアテーク

漢字、仮名、仮名交じり書、篆刻、刻字、大字の五部門で、最高賞の推薦四十二点をはじめ、特選、金賞、入選の三百六十一点が展示された。

◎第十七回河北小中学生書道展

主催…株式会社河北新報社

会期…十一月二十二日～二十六日

会場…TFUギャラリーミニモリ

最高賞河北賞を含む上位賞十九点、金賞七十六点、銀賞六百五点、銅賞六百四点の千三百四点が入賞。応募された三千六百二十八点の全作品が展示された。

◎第六十回記念日院書道会展

会期…十一月二十九日～十二月三日

会場…せんだいメディアアテーク

掛け軸仕様の漢字作品が中心だが、それぞれの取り組みの結果多様な作風の作品が出来上がった。阿部海鶴遺墨展、第七十二回全国小中高児童生徒徒川開書道展併催。

一年を通観し、改めて各位の取り組みに敬意を表したい。それぞれが回を積み上げながら、次を模索されている様子がかがえる。

設立から六十周年を迎えた宮城県芸術協会では、文芸部と書道部のようなコラボレーションの試みがなされた。多くのかかわりを作る中で、新しい出会いがあり、新しい力を育むことに繋がっていくことを期待したい。

最後に、紙面の都合で、掲載しかねた記事が多くあること、敬称を略させていただいたことご容赦願いたい。

加藤 松軒
かとう しゅう けん

（宮城県芸術協会書道部副部長）



第 54 回宮城書芸院（提供：河北新報社）



第 63 回洗心書道展（提供：河北新報社）

写真

はじめに

二〇二四年の元旦。ふと見ていたテレビの画面に「石川県能登地方を震源とするマグニチュード七・六の地震が発生」というテロップが盛んに表示され、ただならぬ事態を知らせた。輪島市、志賀町では震度七、七尾市や珠洲市、穴水町、能登町でも震度六強を観測。気象庁は二〇一一年の東日本大震災以来となる大津波警報を発表し、石川、富山など広い範囲に津波が到達し東日本大震災のことを思い出した。また、輪島市や珠洲市は、県庁所在地の金沢市からも離れていて、小さな集落が山あいになんて点に在しているため、集落につながる道路が土砂崩れなどでふさがれて一時、「陸の孤島」となり現在もなお苦しい状況は続いている。

事件は続く。翌る日の一月二日。午後五時四十七分頃、羽田空港で、新千歳発羽田行き日本航空516便（エアバスA350-900型機、乗客乗員三百七十九人）と、海上保安庁羽田航空基地所属の「みずなぎ一号」（ボンバルディアDH C八型機、乗員六人）が滑走路上で衝突、炎上した。日航機

側は全員脱出したが、海保機は機長を除く五人が死亡した。海保機は能登半島地震の被災地に支援物資を届けるため、新潟空港へ向かう予定だった。

海外でも地震が続く。台湾東部の花蓮県沖を震源とする地震が四月三日にあり、花蓮で最大震度六強、宜蘭県で震度五強、台北市で震度五弱などを観測した。日本でも沖縄県与那国町で震度四、石垣市、竹富町で震度三を観測し、与那国島で三十センチの津波を記録した。

今年アメリカの選挙戦も話題となった。十一月五日に投票された米大統領選は、二〇一七年から二〇二一年に大統領を務めた共和党のドナルド・トランプ氏が、民主党のカマラ・ハリス副大統領に勝利。米大統領が退任後に再び咲くのは百三十二年ぶり二人目となる。また中国では、広東省深圳市で九月十八日、深圳日本人学校に歩いて登校していた日本人の男子児童（十歳）が、四十四歳の中国人の男に刃物で刺され、十九日未明に死亡した。事件は約十万人に及ぶ現地の邦人社会に大きな「動揺」を与えた。事件の背景には、愛国主義が強まり、SNSで反日的な書き込みが広がっているこ

ともあると指摘される。

さらに韓国でも、尹錫悦（ユンソンニョル）大統領は十二月三日夜、野党が政府高官の弾劾訴追案提出を繰り返していることなどを理由に、政党活動を禁止し、報道機関の活動などを制限する戒厳令の一種「非常戒厳」を宣布した。四十五年ぶりだった。

スポーツでは、第三十三回夏季五輪パリ大会が七月二十六日に開幕し、八月十一日まで十七日間にわたって熱戦が繰り広げられた。日本は海外開催の夏季五輪で過去最多となるメダル四十五個（金二十、銀十二、銅十三）を獲得した。国・地域別の金メダル数では米国、中国の四十個に次ぐ三位で、総数でも六位だった。三十二競技三百二十九種目に約一万一千人が出場し、日本選手団も海外開催の夏季五輪では最多となる約四百人が出場した。

米大リーグ・ドジャースの大谷翔平選手が九月十九日、メジャー史上初の「五十本塁打、五十盗塁」を達成した。ナショナル・リーグの本塁打王と打点王の二冠に加え、最優秀選手（MVP）にも選出されるなど圧倒的な輝きを放った。

円安が続く中、日本銀行は七月三日、二十年ぶりとなる新紙幣の発行を始めた。肖像は、一万円札に日本資本主義の父といわれる実業家の渋沢栄一、五千円札には女子高等教育の先駆者の津田梅子、千円札には細菌学者の北里柴三郎が採用さ

れた。新紙幣には、偽造を防ぐため、傾けると肖像が立体的に動いて見える「3Dホログラム」を世界で初めて採用。額面の数字を大きくし、触って種類が識別できるマークを紙幣の種類によって違う位置に配置するなど、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを目指した。

今年是有名人の訃報も多かった。漫画家の鳥山明、世界的指揮者の小沢征爾、俳優の西田敏行など。能登半島地震の大きな災害で始まったこの一年。事件・事故や異常気象が人々に不安を与えた一方で、東北の多彩な祭りや四季折々の風景、スポーツ選手の活躍は我々の心を豊かにしてくれた。

様々な写真の「決定的瞬間」は新聞や雑誌、SNS等に登場した。ジャンルも事件、政治、国際、スポーツ、社会……と、実に様々な瞬間を報道はとらえ、カメラ・アイはその一瞬を撮影した。毎年、河北新報本社の一階で、今年のニュースを振り返る河北新報社の写真展が開催されており、今年も十二月の半ばから、一年間を振り返る「二〇二四年報道写真展」をみた。記者やカメラマンの活躍が約二百三十点の写真パネルで展示され一年を振り返った。今年も激動の一年であった。それでは今年度の全国の写真展の概況を振り返りたい。

国内の写真展の概況

長く続いたコロナ禍により、展覧会の入場方法も事前予約

式に慣れてきた様だ。昨今はミュージアムに行く事も敷居が低くなり、多くの世代がスマホで手軽に予約をして出掛けるシステムが拡大してきている様にも思う。予約制の展覧会入場は大変合理的だが、どうしても自分で予約した「時間」の為に「時間」に追われる事が多くなった様にも感じる。

さて、国内の展覧会であるが、まずは、東京国立近代美術館での「中平卓馬 火・氾濫」展だろう。日本の写真を変えた、伝説的写真家、中平卓馬の約二十年ぶりの大回顧展である。六十年代末から七十年代半ばにかけて、実作と理論の両面において大きな足跡を記した写真家の展開を再検証した展覧会。初期から晩年までの約四〇〇点の作品・資料や充実したカタログは、国立のミュージアムの展覧会ならではのと言える。

それから、日本の写真史に大きな足跡を残した写真家といえば、やはり木村伊兵衛であるだろう。「没後五〇年 木村伊兵衛 写真に生きる」が、東京都写真美術館で開催された。木村伊兵衛は広告宣伝写真や歌舞伎などの舞台写真、カラーフィルムによる滞欧作品、秋田の農村をテーマにするシリーズなど、実にさまざまな被写体を捉えた数多くの傑作を残した。今回はそれら没後五〇年をまとめる写真に加えて、近年発見されたニコンサロンでの木村伊兵衛生前最後の個展「中国の旅」(一九七二―七三)の展示プリントの特別公開も行われた。

また、同じく東京都写真美術館でのアレック・ソスの展覧

会「部屋についての部屋 (A Room of Rooms)」には、初めて出版されたシリーズであり、初期を代表する〈Sleeping by the Mississippi〉から、今秋刊行予定の最新作〈Advice for Young Artists〉まで出品された。これは単にソスの業績を振り返るのではなく、選ばれた出品作品のほぼすべてが屋内で撮影されているように、「部屋」をテーマにこれまでのソスの作品を編み直す独自企画である。「ポートレイトや風景、静物などを定期的に撮影しているが、最も親しみを感じるのは室内の写真だ」と作家は述べている様に、ソスの作品に登場するさまざまな部屋や、その空間にたえずむ人々に意識を向けることで、果たして何が見えてくるのか。ソスは、国際的な写真家集団、マグナム・フォトの正会員であり、生まれ育ったアメリカ中西部などを題材とした、写真で物語を紡ぎだすような作品で、世界的に高い評価を受けてきている。

それから、三菱一号館美術館での、「再開館記念『不在』——トゥールーズ・ロートレックとソフィ・カル」も話題となった展覧会だった。新型コロナウイルス感染症の広がりによって、二〇二〇年の展示が中止になってから四年。その「不在」を経て、三菱一号館美術館は現代フランスを代表する美術家ソフィ・カルとの協働を実現。この展覧会では、ソフィ・カルの多くの作品に通底する「不在」をテーマに、作家自身や家族の死にまつわる『自伝』や、額装写真の前面にテキストト

を刺繍した布が垂らされ、その布をめくると写真が現れる『なぜなら』など、テキストと写真を融合した手法で構成された代表的なシリーズを紹介した。

最後に「坂本龍一音を視る時を聴く」は、故坂本龍一の大型インスタレーション作品を包括的に紹介する、日本では初となる最大規模の個展「坂本龍一音を視る時を聴く」を開催。本展では、生前坂本が東京都現代美術館のために遺した展覧会構想を軸に、坂本の創作活動における長年の関心事であった音と時間をテーマに、未発表の新作と、これまでの代表作から成る没入型・体感型サウンド・インスタレーション作品一〇点あまりを、美術館屋内外の空間にダイナミックに構成・展開した。これらの作品を通して坂本の先駆的・実験的な創作活動の軌跡をたどり、この類稀なアーティストの新しい一面を広く紹介した。

それでは、県内の状況を見ていきたい。

《展覧会》

【一月・三月】

○日本棋院百周年 報道写真展

会期…一月九日～二月十六日

会場…河北新報社本館一階ロビー（仙台市青葉区）

主催…日本棋院、共催…新聞囲碁連盟・河北新報社

一九二四年の創立から百周年を迎えるにあたり、囲碁の名

場面を撮影した写真展が開催された。仙台市出身の有力遼棋聖が初めて七大タイトルを手にした瞬間や杭州アジア大会での団体銅メダルを獲得した時の写真などあわせて二十三点が並んだ。

○「細倉を記録する寺崎英子の遺したフィルム」展

会期…令和五年十月三十一日～一月二十二日

会場…せんだいメディアアテーク（仙台市青葉区）

栗原市鷺沢の旧細倉鉾山の暮らしを、閉山が決まった一九八六年からおよそ十一年にわたり撮影してきた故・寺崎英子の作品展が、令和五年中の会期を延ばし一月まで開催された。約六百点の写真が寺崎さんの詠んだ短歌・俳句や遺した撮影ノートなどともに並んだ。

○特別展「なつかし仙台5くいつか見た街・人・暮らし」

会期…令和五年十一月二十五日～四月十四日

会場…仙台市歴史民俗資料館（仙台市宮城野区）

仙台市の明治期以降の街並み・人・暮らしを紹介する特別展が開かれた。明治、大正、昭和初期、戦後、現代における仙台的写真やフィルムに記録された映像資料などから「杜の都」とそこにある生活の移り変わりをたどった。

○「第38回障害者による書道・写真全国コンテスト」作品展

会期…令和五年十二月十六日～一月二十八日

会場…松山酒ミュージアム（大崎市）

「第38回障害者による書道・写真全国コンテスト」の県大会
出品作の展示がおこなわれ、書道百七十九作品、写真二十作
品の力作が並んだ。

○第31回宮城県高等学校写真展

会期…一月八日～十三日

会場…せんだいメディアアテーク（仙台市青葉区）

主催…宮城県高校文化連盟

県内四十三校の生徒が撮影した写真三百六十点が展示され、
このうち十六点が入賞作品に決められた。風景、家族、学校
生活の様子などがみずみずしく活写された力作が揃った。入
賞作品のうち金賞五作品は令和七年の全国高等学校総合文化
祭で県代表として出品される予定。

○「南相馬のコウバ」写真展

会期…一月十八日～二十八日

会場…仙台アーティストランプレイス

ディレクション…小池宏明（小池宏明建築設計事務所）、写真：
佐藤早苗（sanasphotoworks）、会場デザイン…貝沼泉実（KAI
ARCHITECTS）、グラフィック…佐々木享（Toh Design）、
音楽…秩父英里（作曲家・鍵盤奏者）

建築家小池宏明の南相馬（福島県）の工場（コウバ）のり
ノベーションのプロジェクトに帯同した写真家、佐藤早苗の
写真を軸に、仙台を拠点に活躍するクリエイターたちの協力

で展示空間を構成した。

○よもぎだ棚田写真展

会期…二月三日～十七日

会場…J R 東北新幹線くりこま高原駅（栗原市）

主催…中山間地域蓬田集落協定

若柳地区上畑岡蓬田の中山間地域の魅力を発信するため、棚
田を舞台にしたフォトコンテストが開催された。今回で四回目
となる写真展には市内外八人から二十点の作品が集まった。

○大沼英樹出版記念写真展「幸福の種蒔き桜」

会期…三月五日～十日

会場…晩翠画廊（仙台市青葉区）

仙台市在住の写真家大沼英樹の写真展が晩翠画廊で開催さ
れた。大沼は二月に自身の写真集『幸福の種蒔き桜』を刊行。
出版を記念し、写真集に収めた東北の農村に根付く桜と人々
の様子など約三十点の写真を展示した。

○「七ヶ浜震災の記憶展」

会期…三月二日～十日

会場…みんなの家（七ヶ浜町）

企画…七ヶ浜町教育委員会

七ヶ浜町にある「みんなの家」で、東日本大震災の被害の
状況や復興の様子を写真で紹介するパネル展が開催された。
写真は町職員や町民が撮影したもの。九日と十日には震災伝

承団体のワークショップも開かれ、震災の記憶を伝えた。

○企画展「星空と路―3がつ11にちをわすれないために―」

会期…三月七日～四月二十一日

会場…せんだいメディアアテーク（仙台市青葉区）

東日本大震災から十三年となる中、これまでの道のりを市民の記録した写真や映像で振り返る企画展が開催された。同館では、市民とともに震災と向き合い考える「3がつ11にちをわすれないためにセンター（わすれん！）」を震災二ヶ月後に設立。毎年、センターの主催で記録と記憶を伝えている。

【四月―六月】

○写真展「細倉を記録する寺崎英子の遺したフィルム」

会期…四月一日～七月二十八日

会場…細倉メインパーク（栗原市鷲沢）、

くりでんミュージアム（栗原市若柳）

故・寺崎英子（前項参照）の写真展が、鉾山ゆかりの栗原市内の二施設で開催された。施設は坑道跡を活用した施設「細倉メインパーク」と鉾石輸送を担ったくりはら田園鉄道の歴史を伝える「くりでんミュージアム」の二つ。それぞれ施設に因んだ人々や線路撤去時の写真など五百八十三枚を展示している。

○桜井洋次作品展「ちよっと森において―森の仲間の写真展」

会期…四月十九日～二十一日

会場…せんだいメディアアテーク（仙台市青葉区）

一九九〇年代から船形山麓の自然を撮り続け、令和六年三月に急逝した大和町の写真家桜井洋次の作品展が開催された。桜井が主宰していた「森の時間」写真倶楽部のメンバーが企画した。生前作品展のために準備されていた十二点を含む、計三十四点の写真作品が会場に並んだ。

○「HTT写真三人展 Vol.3 樋口徹・高橋力・伊藤トオル」

会期…四月九日～二十一日

会場…Gallery TURNAROUND（仙台市青葉区）

仙台市のベテラン写真家三人組―樋口徹、高橋力、伊藤トオル―によるグループ展が開催された。「仙台コレクション」も主宰する伊藤は高橋と、樋口の広告スタジオで写真を学んだ縁があり、今回の写真展が企画された。

○「仙台コレクション2024」

会期…四月九日～二十一日

会場…イグーネ荒井（仙台市若林区）

二〇〇一年から仙台の変わりゆく風景を写真記録で伝え残す活動をする、写真家集団「仙台コレクション」の写真展。仙台市街地の風景を淡々と撮影記録した一万枚の作品群の中から、モノクロ写真百七十六枚が選ばれ展示された。

○早坂美名子・志摩勝彦作品展「光と影 二人展」

会期…四月十七日～二十九日

会場…JR小牛田駅 美里町総合案内所（美里町）

美里町のカラーカウンセラー早坂美名子と、同町の写真家志摩勝彦の作品展が開催された。陰影を生かした作品を共通の制作テーマとし、早坂十五点、志摩十点の作品が一堂に会した。

○佐々木徳朗写真展「暮らしをウツス」

会期…四月十日～六月二日

会場…リアス・アーク美術館（気仙沼市）

気仙沼市水梨地区在住の写真家佐々木徳朗の写真展が開催された。七十年にわたり古里の姿を一生活者として丁寧に記録した作品から、未発表作も含めた約百五十点が展示された。二〇〇七年からおこなわれている同館のシリーズ企画「食と地域の暮らし」展の一環として開催され、地域における時代の移り変わりを伝えた。

○パネル展「3・11伝承ロード・写真で見る復興10年の歩み」

会期…四月二十六日～五月三十日

会場…せんだい3・11メモリアル交流館（仙台市若林区）

東日本大震災で津波被害を受けた岩手・宮城・福島の三県の震災前や被災、復興の様子を写真で紹介するパネル展が開催された。被災した十三カ所の航空写真を時系列に展示し、

それぞれの街の移ろいを伝え教訓を継承した。

○KESENUMA 街なかフォト写真展

会期…四月二十五日～五月二十四日

会場…東北電力 気仙沼電力センター、七十七銀行 気仙沼支店、角屋、男山本店、ミヤカン（全て気仙沼市）

東日本大震災前後の気仙沼市の街並みや港町の四季の変化を写真で伝える展覧会が気仙沼市の五カ所の会場で開催された。同市の写真家かとうまさゆきと、かとうが主宰する写真教室の生徒の作品合わせて百十八作品が並んだ。復興支援としてキヤノン仙台支店が写真の印刷に協力をした。

○企画展「まちのきおくをあつめる、かたる―築港の記憶―」

会期…四月二十九日～六月九日

会場…塩竈市杉村惇美術館（塩竈市）

昭和二十年代から三十年代の塩竈市のまちの様子や記憶を伝える企画展が開催された。同展は「まちのきおくをあつめる、かたる」という写真及びエピソードを収集するプログラムの一環で、今回は昭和時代の塩竈の暮らしの心臓部であった「築港」についての記憶を取り上げた。音声エピソードを中心に、当時の写真十七点を展示した。

○企画展「季節で感じるくりはら」

会期…四月二十七日～七月二十八日

会場…栗駒山麓ジオパークビジターセンター（栗原市）

企画…栗駒山麓ジオパーク推進協議会

栗原市内に点在する見所を例に、春夏秋冬の写真から地域の魅力を再発見する企画展が開催された。計二十八枚の写真をテーマごとにパネルにして展示。気候や文化、生き物などそれぞれのジャンルから「くりはらの1年」を紐解いた。

○#みんなのくりでん写真展

会期…四月十日～五月二十六日

会場…イオンスーパーセンター栗原志波姫店（栗原市）

企画…NPO法人アズマール

栗原市若柳のくりはら田園鉄道公園で撮影した写真を展示する写真展が開催された。公園を指定管理する法人が企画し、SNSなどの交流サイトで募集をした二百九十一点の写真が展示された。

○企画展「小川晴暘と仏像写真」

会期…五月八日～十九日

会場…仙台アーティストランプレイス（仙台市青葉区）

企画…喫茶Frame

二十世紀前半に活躍した、仏像写真の先駆者である故・小川晴暘の写真展が開催された。奈良の仏像写真を集めた企画展で、仙台市の愛好家が保存していたプリント十枚を額装して展示した。聖林寺や中尊寺、東大寺のいずれも国宝の仏像・観音像などを写した写真が公開されその魅力を伝えた。

○令和6年おおがわら桜まつり写真コンクール作品展示

会期…五月十七日～二十六日

会場…大河原町にぎわい交流施設（大河原町）

主催…大河原町観光物産協会

おおがわら桜まつりの期間中に「大河原町の桜」をテーマに撮影された写真のコンクールが開かれ、出品された作品の展示がおこなわれた。町内外から八十三点の写真が集まった。

○山田なつみ個展「Camera Mia - 私の部屋（カメラ）」

会期…六月八日～十六日

会場…ビルドスペース（塩竈市）

角田市の写真家山田なつみの個展が開催された。二〇二二年から二〇二四年までに発表した新作と過去作品を展示。子育ての十年で撮影した十五点の写真が並んだ。九日には社会学者の国広陽子とのギャラリートークも開催された。

○第13回フォト・バイオグラフィ「道」

会期…六月十四日～十九日

会場…せんだいメディアアテーク（仙台市青葉区）

主催…医療法人社団初心会

認知症患者やその家族の人生を、聞き取った生活歴、それを踏まえた詩と現在の患者の写真でまとめる展覧会が開催された。写真は写真家の小田島万里、詩は詩人の原田勇男がそれぞれ担当した。三年ぶり十三回目の開催となる同展には今

回九名のフォト・バイオグラフィが集まった。

○「1951・まちなか写真展」

会期…六月二十二日～令和七年一月十四日

会場…石巻市街

主催…特定非営利活動法人石巻アーカイブ

一九五一年の石巻地方を当時の米軍医がカラーフィルムで撮影した貴重な資料が残っている。市内複数の、写真に写る当時の場所や近い場所に写真を展示し、市民や来訪者に回遊しながら観覧してもらうイベントがおこなわれた。当時の写真と震災後の写真を解説を加えたA1版パネル二十六枚として展示した。

【七月―九月】

○「登米写真大学 武川ゼミ」開校

開校日程…六月三十日～八月十日（前期）

十一月二日～十二月七日（後期）

場所…登米市

登米市の風景を撮影し市の魅力を発信することを学ぶ「登米写真大学 武川ゼミ」が開校した。登米市南方町出身の写真家武川健太から撮影技術を学ぶ。登米町の教育資料館を主会場とし、生徒らは観光名所に赴いてカメラの技術を学びながら交流を深める。計十三講座が実施された。

○高砂淳二写真展「PLANET OF WATER」

会期…七月十二日～三十日

会場…藤崎百貨店本館七階催事場（仙台市青葉区）

石巻市出身で、二〇二二年に世界最高峰の自然写真賞を受賞した写真家高砂淳二の写真展が開催された。水の惑星地球の美しさが百点近くの写真で表現された。高砂による仙台での写真展は初開催で、期間中の四日間はトークショーとギャラリートークも開催された。

○子供たちが撮った震災前の石巻 橋本照崇「めだか展」、ふたたび。

会期…九月十一日～十六日

会場…マルホンまきあーとテラス 市民ギャラリー（石巻市）

東日本大震災前の一九九七年から二〇〇七年にかけて、石巻市内の小学生など当時の子供たちが撮影した約千点の写真が作品展として展示された。写真は石巻市で一九九六年から二〇〇九年に写真家橋本照崇主宰で開かれた写真教室「めだか展・はくたちわたしたちの青空写真教室」で撮影されたもの。当時の撮影者や家族が探せるよう名前や学校名も掲載した。

○第六十一回宮城県芸術祭

会期…九月二十八日～令和七年三月二十九日

会場…せんだいメディアテークなど（仙台市青葉区）

第六十一回県芸術祭が開幕し、様々なジャンルの芸術展が

おこなわれた。写真の部では九月二十八日から十月一日の間「写真展・フォトサミット in Sendai 2024」として展示がおこなわれ、公募四部門の入賞・入選作品百八点と県芸術協会員らの作品あわせて百八十二点が展示された。

【十月―十二月】

○写真は建築・まちをうつせるのか

会期…十月四日～八日

会場…東北工業大学一番町ロビー

主催…東北工業大学生活デザイン学科 畠山雄豪ゼミ

共催…thedesignandresearchoffice、東北大学 個研究室

建築やまちは社会と常に呼応し変容する。そのような建築やまち、そこにいる人、空気、をいかに撮るか。その課題に必ず直面する。これまで写真家、学生、研究者、設計者などさまざまな立場の人ともに「記録すること」について考察を深める研究会を行なってきた。今回は「写真」を通して建築とまちとの向き合い方を展示し、そこから共に考えていく展覧会。

○第十二回写真塾ぶらう写真展

会期…十月二十六日～三十日

会場…せんだいメディアアテーク（仙台市青葉区）

主催…写真塾ぶらう

蔵王町在住の写真家細田満夫が主宰する「写真塾ぶらう」の写真展が開催された。二〇一三年から開かれている写真塾には十三人が所属している。同展は十二回目の開催で、「慈」をテーマに、自然を切り取った作品約七十点が並んだ。

○八嶋真子写真展「静寂の居場所」

会期…十一月十九日～二十四日

会場…仙台アーティストランプレイス（仙台市青葉区）

仙台市の写真家八嶋真子の写真展が開催された。八嶋は公募展「フォトサミット in Sendai 2024」で河北新報社賞を受賞。個展は前年に続いて二回目の開催となる。青のイメージを大切にした写真が並んだ。

○特別展「匠の技」

会期…十一月二十八日～十二月一日

会場…リアス・アーク美術館（気仙沼市）

気仙沼市の愛好家でつくる写真集団「鼎」による展覧会が開催された。約三十年前にメンバー八人が市内の職人たちの姿を撮影した写真を六十七点展示。表具師、船大工や現代では見られなくなった鍛冶、かまど職人など、まちの産業を支えた人々の様子が写された。同館が芸術・創作活動の発表の場として開催する「新！方舟祭」の一環でおこなわれた。

○かんのさゆり作品、東京の企画展で展示

会期…十月十七日～令和七年一月十九日

会場…東京都写真美術館（東京都）

東京都写真美術館でおこなわれた企画展「現在地のまなざし 日本の新進作家 vol.21」に仙台市泉区の写真家かんのさゆりの作品が並んだ。作品は宮城・福島の子の市町村で撮影した連作「New Standard Landscape」。画一的になっているという市街地の風景を四十八点の写真で伝えた。

○地域とアヴァンギャルド―戦後前衛芸術の聖地／仙台市太白区太子堂

会期…十月十九日～令和七年一月十九日

会場…せんだいメディアアテーク（仙台市青葉区）

仙台市の前衛芸術家「ダダカン」こと糸井貫二の企画展「地域とアヴァンギャルド」が開催された。晩年まで生活と創作活動を続けた太白区太子堂の居宅「鬼放舎」に関連する写真と資料、代表とされる路上ハプニング「殺すな」の写真などを展示。前衛芸術と市民生活の交点に着目し、「ダダカン」が過ごした地域の歴史の一端を紹介した。

○2024年報道写真展

会期…十二月十六日～十二月二十七日

会場…河北新報社本館一階ロビー（仙台市青葉区）

河北新報社の記者が全国で撮影した報道写真の展示がおこなわれた。災害、事故、スポーツ、行事といった様々なジャンルの写真約二百三十点が一堂に会され、一年のニュースを

振り返った。

《その他》

○故・寺崎英子写真集刊行委員会 日本写真協会学芸賞受賞

栗原市鶯沢の細倉鉦山に暮らす人々を捉えた、故・寺崎英子の写真集『細倉を記録する寺崎英子の遺したフィルム』を手がけた寺崎英子写真集刊行委員会が日本写真協会学芸賞を受賞した。寺崎の貴重なフィルムを写真集にまとめその価値を高めた功績が評価された。

○地域誌「石巻学」第九号 刊行

石巻市に河口のある北上川への地域住民らの思いが載る「北上川」を特集する地域誌「石巻学」の第九号が刊行された。同市出身の写真家橋本照崇が河口から源流まで三度にわたり歩いて撮影した写真や北上川への思いを語ったものなどをはじめとした、地域住民らの地域に根ざした話題が取り上げられている。

《おわりに》

「建築」と「写真」。このふたつの領域は非常に近い起源を持っている。「部屋」を意味するラテン語 camera は、写真術の最初の装置「カメラ・オブスクーラ（camera obscura／暗い部屋）」の語源でもある。そしてデジタルが当たり前となった今

でも、私たちは写真機のことを「カメラ」と呼び続けている。この言葉の由来が示すように、建築と写真は、起源においても感覚においても、常に隣り合う存在であり続けてきた。

令和六年の末、前述した「南相馬のコウバ」展の「解説パネル」を執筆した。展示のきっかけは、旧知の建築家が福島県南相馬市で手がけた工場のリノベーション・プロジェクトであった。そこに帯同した写真家の視点を軸に、仙台を拠点とする複数のクリエイターが協力し、展示空間が構成された。この展覧会は、単なる写真展ではない。伝えたいのは、南相馬に根づく「暮らし」や「家族」、そしてそこに流れる「空気が」そのものだ。写真はそれらを伝えるためのメディアに過ぎないが、展示方法（インスタレーション）には非常に工夫が凝らされており、写真が空間構成の中でただの情報以上の存在として立ち上がっていた。この時、私は「建築」と「写真」が互いに補完し合いながら、新たな表現を可能にする、相性の良いメディアであることを実感した。

その後、四月に入って間もなく、「建築と写真」を再考する勉強会に誘われ参加することになった。そこにはプロの写真家、建築家、大学教授、学生など、多様な立場の人々が集い、それぞれの視点から建築と写真の関係について語り合っていた。月に一度の対話の場は、やがて写真展の企画やブックデザインへの構想へと発展していく。写真家が空間を語り、建築

家が光や気配を語る。立場を越えたコメントが自然と交わされ、異分野の交流が活発に生まれる場であった。また、実際に街へ出て写真を撮るワークショップを通して、私たちは「建築」と「写真」の関係性を身体的に体感する機会を得た。空間に立ち、光を読み、フレームを切り取る。その過程で、「建築を撮る」とはどういうことかを見直すようになる。ただ外観を記録するのではなく、そこに流れる時間や気配までも写し取る——そうした行為が、写真における「建築」の捉え方を更新していった。

しかしながら、このように豊かで開かれた関係性も、「建築写真」という言葉で括られた途端に、ある種の硬直を伴ってしまうように思う。多くの建築写真は、竣工直後の空間を、美しく、冷静に、密閉された時間の中で記録する。それはまるで、魂を封じ込めるかのような、写真の黎明期に信じられていた神秘性の名残さえ感じさせる。だが、建築とは本来、人が住み、使い、変化させていくものである。時間の風化や生活の痕跡こそが、建築の本質を形づくっていく。写真家がそれらを「空気ごと」写し取ろうとするように、建築もまた、固定された構造体ではなく、時間とともに揺らぎ続ける「生きた空間」ではないだろうか。

AIが表現領域にも深く浸透し始めた現在、「建築」も「写真」も、これまでもとは異なる地平を見せようとしている。そ

うした転換期において、このふたつのメディアが再び接続し直され、互いに影響し合いながら新たな表現や記録の可能性を探る営みは、未来においても、きっと興味深く、意義あるものとして残り続けるだろう。

清^し

水^{みず}

有^{もち}

(せんだいメディアアテーク企画・活動支援室長・写真史)



写真は建築・まちをうつせるのか

会期：10月4日～10月8日

会場：東北工業大学一番町ロビー



地域とアヴァンギャルドー戦後前衛芸術の聖地／仙台市太白区太子堂

会期：10月19日—令和7年1月19日

会場：せんだいメディアテーク7階 ラウンジ、スタジオ a

文芸

二〇〇五年三月に県内の詩人六十二名で設立された宮城県詩人会が、今年二十周年を迎えた。その二十周年記念のイベントが、今年で創刊四十周年を迎える詩誌「霧笛」との共同で気仙沼市において開催された。イベント名は「湾と街と畔道」のポエジーもしくは詩の可能性を探る。「霧笛」は一九八四年八月、西城健一氏ら同人二人が創刊。以来、「詩に関心のある人が集う『気仙沼における詩の広場』であり続け」（千田基嗣編集責任者・談）、港町のたたずまいをまとう文芸誌として、地域文化を支えてきた。四十年の歴史の中で、会員にとって最も印象的な出来事はやはり東日本大震災という。全員が被害者であり、被災地で暮らす率直な心情を詩作を通じて伝え続けている。「詩は心の区切り。詩を書いて心を清算してきた」（西城健一「霧笛の会」代表）というように、深い傷を受けても言葉にすることによって得られる力、生活の中で詩を綴り続けることの意義を踏みしめた。

期待の若手俳人に贈られる田中裕明賞（主催…ふらんす堂、第十五回）を浅川芳直（名取市）が『夜景の奥』（東京四季出版）で受賞した。句作について「誰にでもできる単純なこと

を誰もまねできないほど練り上げていければと思う」と語り、更に若い世代にも俳句に親しんでもらえるよう努力したいと語る。

また、多賀城市の災害公営住宅で募った川柳コンテスト（主催…NPO法人東日本ネットワーク手にぎり隊、防災をテーマにした「未来につながる川柳コンテスト」（主催…気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館）、デイサービス施設での日々を詠った「コスモス川柳グランプリ 夏の陣」（主催…コスモスケア）などが行われた。生活の中で感じる気持ちを表現し、生きがいにつなげてもらおうと、あるいは防災を考えるきっかけにしてみようという試みだ。記憶を整理し、記憶を未来につなげていく、そして気持ちを整理し、気持ちを発信していく言葉の力への信頼は続く。

第七回仙台短編文学賞の応募総数は、三百八十二篇。実行委員会の土方正志代表は、「東日本大震災を正面に据えた作品が減る一方、社会のシリアスなテーマを文学という枠の中で表現する小説が目立つようになってきた」と語る。大賞の「川町」（千葉雅代・作）は、生まれ育った仙台を舞台に地元に対

【優秀賞】田淵秀明（仙台市）、引地雪子（白石市）

（エッセー）

【最優秀賞】菅野和子（仙台市）

ジュニア部門

（詩）

【優秀賞・宮城県詩人会賞】小松美月（宮城教育大学附属中二年）

【優秀賞】影澤潤（宮城教育大学附属中二年）

（短歌）

【最優秀賞】崎野寛太（宮城県古川黎明中二年）

【優秀賞・宮城県歌人協会賞】河西晃宏（仙台市立高森中三年）

【優秀賞】平間翔太（岩沼市立岩沼中一年）

さとうあんな（仙台市立東長町小二年）

（俳句）

【最優秀賞】阿部竜希（岩沼市立岩沼中一年）

【優秀賞・宮城県俳句協会賞】目黒星渚（岩沼市立岩沼中一年）

【優秀賞】中川海愛（岩沼市立岩沼中一年）

河崎恵悟（仙台市立吉成小四年）

（川柳）

【最優秀賞】花見優果（富谷市立日吉台中二年）

【優秀賞・宮城県川柳連盟賞】加藤有馬（岩沼市立岩沼中一年）

【優秀賞】平見啓太（仙台市立八木山中三年）

宮城県芸術協会主催の文学散歩では、十月三日に涌谷町の

句碑を巡った。昭和五十八年九月、当時の町長が「涌谷町を俳句の里にしたい」と宣言して「奥州涌谷金俳句大会」を開催した。この大会を記念し、大会二年生から町内に句碑を建立する事業が始まった。大会は平成二十七年に終了したが、句碑十八基が立つ。その内十七基を訪ねる旅となった。

「地元に限差した本の出版にも力を入れ、本を売るだけではなく、地域文化を育む場だった」（佐藤正実「風の時編集部」代表）「金港堂」本店（仙台市青葉区一番町）が四月末日をもって閉店した。

新聞関係の選者は、河北新報歌壇は、花山多佳子、本田一弘。同俳壇は、高野ムツオ、西山睦。同柳壇は、雫石隆子。朝日新聞宮城版みちのく花壇は梶原さい子。同俳壇は渡辺誠一郎。同柳壇は木田比呂朗。読売俳壇は、高野ムツオ。

各部門

（詩）

第二十五回白鳥省吾賞（栗原市主催）

【最優秀賞】

一般の部「雪虫」大沼昭彦（兵庫県）
小・中学校の部「小さな命」中村咲彩

（栗原市立築館小六年）

第六十五回晩翠わかば賞（仙台市・仙台文学館主催）

「『あたりまえ』を生きていく」小野寺海翔

(登米市立上沼小 六年)

第六十五回晩翠あおば賞(仙台市・仙台文学館主催)

『私』取扱説明書」岡崎千紗(仙台白百合学園中二年)

あきは詩書工房主催の三賞受賞者については次のとおり。

第四回秋吉久美子賞 木崎善夫(大阪府)

第四回いがらしみきお賞 まちだちづる(大阪府)

第九回YS賞 柊(宮城県)

○活動

ポエトリ・カフェみやぎ／オフィス汐講演会(宮城県詩人会・

オフィス汐共催)月一回開催

「菅原克己の詩を歌う」三月二日(日立システムズホール仙台)

「詩人・石川善助をたずねて」四月二十七日～六月三十日

(仙台文学館)

「タイポグラフィカルをがたかめのすけ」→金属活字による尾

形亀之助「障子のある家」再現展(回生・曲線など主催)

七月二十二日～二十九日

○詩集

『脳神経外科病棟505』清岳こう(七月十五日 思潮社)

『宮城の現代詩2024』

○詩誌

「ACT」「a's」「回生」「風花」「風の暦」「ココア共和国」「仙

台文学」「想音窟だより」「THROUGH THE WIND」

「次の、明後日」「とんでんかん」「霧笛」「ササヤンカの村」

〈小説・散文・絵本〉

第七回仙台短編文学賞(三月九日)

選考委員は伊坂幸太郎(仙台市)

【大賞】「川町」千葉雅代(仙台市)

【仙台市長賞】「ポリエステル伝導」湯谷良平(埼玉県)

【河北新報社賞】「声の場所」郭基煥(仙台市)

【プレスアート賞】「S市の秘密」水戸洋子(東京都)

【東北学院大学賞】「擬態」浅井楓(仙台市)

第十一回新潮ミステリー大賞

「悪徳を喰らう」二礼樹(東京都在住・宮城県出身)

日本自費出版文化賞特別賞(小説部門)

「風は海から吹いてくる」遠藤源一郎(仙台市)

○小説・散文

『暗獄怪談 或る男の死』鷺羽大介(竹書房怪談文庫)

『母の願い 優輔と亜矢子 震災の中で』佐藤さとし

(幻冬舎メディアコンサルティング)

『Spring』恩田陸(筑摩書房)

『忘れられない日本人―民話を語る人たち』小野和子

(PUMPQUAKES)

『遠い町できみは』高遠ちとせ（ポプラ社）

『風は海から吹いてくる』遠藤源一郎（北の杜編集工房）

『ジンが願いをかなえてくれない』行成薫（光文社）

『ミチノオク』佐伯一麦（新潮社）

『エイ・エイ・オー！』ぼくが足軽だった夏』佐々木ひとみ

（新日本出版社）

『常盤団地の魔人』佐藤厚志（新潮社）

『臨床のスピカ』前川ほまれ（U・N・E・X・T）

『大観音の傾き』山野辺太郎（中央公論新社）

『かりそめの星巡り』石沢麻依（講談社）

『僕たちの青春はちょっとだけ特別』雨井湖音（東京創元社）

○童話・絵本

『烏少年』ひろ

『風のみたもの』杳沢小波・フジコ・ヘミング

『絵本 湾』千田基嗣（詩）・山本重也（絵）

○文芸誌

『仙台文学』「波動」「新生」（東北新生園）「みちのくふだん記」

（随筆中心）「みちのく春秋」（詩と随想）「麦笛」

〈短歌〉

令和六年度宮城県芸術選奨新人賞（文芸）沼沢修（仙台市）

第七十一回宮城県短歌大会（六月十一日）

主催…河北新報社・宮城県歌人協会

会場…仙台文学館

【河北新報社賞】

パーマかけ春色の服選びおりデイサービスにデビューの母は

小西一枝（東松島町）

【宮城県歌人協会賞】

振り向かず保母のもとへと進む子の十歩の自立見送りし朝

星和子（石巻市）

第五十一回東北短歌大会（十月五日）

主催…河北新報社・日本歌人クラブ・宮城県歌人協会

会場…東京エレクトロンホール宮城

【河北新報社賞】

朝採りの茄子と胡瓜を刻む音に力籠もりて母の夏来る

結城晋太郎（山形県）

【日本歌人クラブ賞】

きょうの鬱きのうの躁もまることが今の母なりまることが愛す

加藤隆枝（秋田県）

【宮城県歌人協会賞】

明かり消す窓に街の灯広がりてコーラスの余韻夜気に溶けゆく

青柳春子（仙台市）

第二十五回原阿佐緒賞（大和町・大和町教育委員会主催）

半壊の蔵よりすくふ奥能登のろみを絞る陸奥の蔵人

遠藤幸子（群馬県）

第三十五回宮城県短歌賞・歌人の集い（十一月二十四日）

主催…宮城県歌人協会

会場…東京エレクトロンホール宮城

【宮城県短歌賞】

「降り積む雪」高橋純一

○歌集

『銀のちろり』遠山勝雄（角川書店）

『顔あげて』古川陽子（六花書林）

『忍冬―短歌をうやまいながら―』上林節江（飯塚書店）

『青葉の闇へ』斎藤梢（柘書房）

『柘榴』大友圓吉（いりの舎）

○歌誌

「音」短歌会宮城支部「個性の杜」短歌人宮城「短歌とぼす」

「地中海宮城」長風宮城支部「橡の木短歌会」波濤みやぎ

「北杜歌人」歩道宮城支部「まひる野宮城」群山

〈俳句〉

第十五回田中裕明賞（ふらんす堂主催）

浅川芳直（名取市）

第四十五回角川春樹賞（河主催）

小野寺みち子（仙台市）

第三十三回波新人賞

今野勝正（波）

第四十八回宮城県俳句賞

「春雨」平山北舟（仙台市）

準賞に「蒼海」堀之内久子（利府町）、「銀漢」渡辺柊子（鷹の二作）。

第五十四回宮城県俳句大会（四月二十九日）

主催…河北新報社・宮城県俳句協会

会場…東京エレクトロンホール宮城

兼題の部

【河北新報社賞】

水音の出でゆくばかり雪解村

平山北舟（仙台市）

【宮城県知事賞】

流れつく花束一つ三月来

遠山典子（松島町）

【宮城県俳句協会賞】

春月は砂漠の街へ抜ける穴

小田島渚（仙台市）

席題の部（席題Ⅱ靴）

【宮城県俳句協会賞】

糺や音を立てずに来る軍靴

伊藤一男（仙台市）

百歳の兄の靴買ふみどりの日

浅沼真規子（仙台市）

佐藤鬼房記念第六回塩竈市ジュニア俳句コンクール

【佐藤鬼房賞】

かなしい日さくらとともに去って行く

川村旺己（塩竈市立玉川小五年）

【ジュニア俳句大賞】

稲妻はいつも視界の外にある

笠原彩音（東京学芸大附属小金井中三年）

大崎地域俳句大会（十月六日）

主催…大崎地域俳句大会実行委員会

会場…大崎市図書館

【宮城県俳句協会会長賞・首都圏大崎連絡協議会長賞】

葉來山は藁にほのごと秋うらら

横山洋（涌谷町）

【宮城県知事賞】

野の花を露ごと活けて供華となす

丸山千代子（仙台市）

第三十一回「壺の碑」全国俳句大会（十月十四日）

主催…「壺の碑」俳句大会実行委員会

会場…多賀城市文化センター

【神野紗希特選第一席】

クリームとソーダのあはひものあはれ 森本香子（三重県）

第七十回松島芭蕉祭並びに全国俳句大会（十一月十日）

主催…松島町・宮城県文化振興財団・宮城県俳句協会

会場…松島町文化観光交流館

招聘選者は夏井いつき。

【松島町長賞・夏井いつき特選第一席】

肉喰って今日翁忌を参列す

本木朱実（大和町）

ジュニアの部

【宮城県俳句協会会長賞】

青空の真下にわたし桃の花 久能和佳（福島大附属小四年）

夏草の香りがざわけチャリとばす 木川田勇吹（登米中二年）

○句集

『鵜ノ尾岬』小泉展子（二月二十五日 朔出版）

『メーデー』柏原日出子（八月十五日 文學の森）

『くちびる』鈴木わかば（十二月一日 東京四季出版）

『ぼそ道 第五十号』栗原市俳句協会（三月一日 小野寺印刷所）

『支部三十二周年記念誌 波みやぎ』（十一月一日 千葉印刷）

○俳誌

『駒草』『小熊座』『滝』『飛行船』『しろはえ』『鷹みやぎ』『冬

林檎』『花野』『むじな』

〈川柳〉

第五十一回宮城県白石川柳大会（四月十四日）

主催…宮城県川柳連盟

会場…白石温泉薬師の湯

題は「たつぷり」「サイン」「点」「約束」「洗う」。

【宮城県川柳連盟賞】

たつぷりと朝の湯飲みに注ぐ海

鎌田京子（仙台市）

【川柳宮城野社賞】

忘れたいのに画鋏の跡が残ってる

高橋一本柳（仙台市）

第七十三回東北川柳大会（九月二十九日）

主催…河北新報社・川柳宮城野社

会場…東京エレクトロンホール宮城

【河北賞】

美しい雛だ母に染められて

大石一粹（秋田県）

【川柳宮城野社賞】

幕引きはあつけらかんと風になる

滝尻善英（青森県）

第五十一回河北川柳投句者大会（十一月十日）

主催…河北新報社・川柳宮城野社

会場…東京エレクトロンホール宮城

事前出題は「芋」「掴む」「ムード」。特別課題は「心」。

席題は「印象吟（新聞）」。

【河北新報社賞】

世界一夢を掴んだ岩手の子

さとう喜美（名取市）

【川柳宮城野社賞】

いもの子を洗った海が還らない

楠本敏子（仙台市）

【宮城県川柳連盟賞】

眼差しの心の奥を掴みとる

三浦実千恵（仙台市）

○柳誌

「川柳宮城野社」

篠^{しの}

沢^{ざわ}

亜^あ

月^{づき}

（宮城県芸術協会理事）

洋楽

令和六年一月一日には、能登半島地震が発生した。音楽活動をしている者たちが被災地支援をするという動きは、東日本大震災の際と同様に、チャリティコンサートや公演の際に支援金を募るという活動が、県内の各地域や様々な機会に行われた。

仙台国際音楽コンクールはこれまでに八回開催されている。近年、特に仙台市内などで過去の入賞者の活躍が目覚ましい。令和七年には、九回目のコンクールが開催されるが、その準備についての報道が目立っている。このコンクール関係の報道だけではなく、宮城県内の音楽活動について、プロの演奏会、クラシックのみならず、さまざまなジャンルの音楽、そして、広く市民の音楽活動を取り上げている河北新報は県民の情報源として重要な働きをしている。令和六年の記事として、特に西本幸弘、三宅進など仙台フィルハーモニー管弦楽団団員にインタビューし、演奏会の聞きどころについての情報を提供していることは注目される。

一・オーケストラ

(二) 仙台フィルハーモニー管弦楽団

(以下「仙台フィル」と省略)

令和七年を「進」時代として位置づけている仙台フィルは、様々な角度からコンサートシリーズを企画し始めた。日中に開催する「名曲トラベル」、「オーケストラ・スタンダード」の後継企画に該当する「オーケストラ・ザンマイ」、アニメ音楽などを中心に取り上げる「エンターテインメント定期」という多様な聴衆のニーズに合った曲目を提供しようという動きがあった。また、定期演奏会のチケットの売れ行きが好調だったことも見逃せない。

定期演奏会のトピックとして、桂冠指揮者のバスカル・ペロ、就任二年目の太田弦がそれぞれ第三百七十一回、第三百七十三回の定期演奏会に登場したこと、仙台国際音楽コンクールの入賞者の内、スベトリン・ルセフ、中野りなを協奏曲のソリストに迎えたこと、宮城フィルハーモニー管弦楽団の発展に貢献した芥川也寸志、片岡良和の作品をプログラムに取り上げたことなどが挙げられる。

(二) その他のオーケストラ

坂本龍一が音楽を通じた復興を目的として創立した「東北ユースオーケストラ」は、宮城県で三月二十四日、東京都では三月三十一日に坂本の追悼演奏会を行った。なお、二月四日には団員の有志が気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館で演奏をした。

アマチュアオーケストラの仙台市民交響楽団は、創立三十五周年記念演奏会を十月二十四日に東京エレクトロンホール仙台で開催した。指揮は小林研一郎、ピアノ独奏は牛田智大でグリーグのピアノ協奏曲などが演奏された。

二. 器楽・室内楽

(一) 室内楽

「ミュージック・フロム・パトナ」は、令和五年度最後の演奏会として二月八日に西沢澄博がプロデュースした「ふくらむ」と題した会において、十二名による管楽器アンサンブルで、落語家の六華亭遊花の語りによってモーツァルトの「フィガロの結婚」などを演奏した。

令和六年度は、それぞれ四月二十五日「こうさする」、七月五日「うまれる」、十一月七日「あふれる」というタイトルの演奏会が年内に開催された。

NHK交響楽団首席クラリネット奏者・伊藤圭のリサイタル

ルは、三月二十九日に宮城野区文化センターパトナホールで行われた。共演者のピアノは倉戸テルであった。

日本音楽コンクール・ホルン部門第二位に入賞した経歴を持つ、ホルン奏者の庄司雄大は、三月二十三日に日立システムズホール仙台・交流ホールでリサイタルを開催した。この企画は、オペラシティ文化財団のシリーズ企画B↓C（ピートゥーシー・バツハからコンテンポラリーへ）のサテライト公演である。

吉岡知広が企画し仙台銀行ホールイズミティ21が会場となっている「イズミノオト」は七月七日にシューマンをテーマ作曲家として開催した。

戸田敦・西沢澄博デュオコンサートは十月二十八日に仙台銀行ホールイズミティ21で行われた。ピアノは小平圭亮。

吉岡知広チェロリサイタルは、十二月九日に宮城野区文化センターパトナホールで行われた。ピアノはジョンファン・キムで、プーランクのチェロソナタなどが演奏された。

(二) ピアノ

北端祥人ピアノリサイタルは、三月三日に日立システムズホール仙台シアターホールで行われ、後半はショパンのピアノ協奏曲第一番（五重奏版）が演奏された。

伊藤恵は、チャリティーリサイタルを四月七日に東北大学

百周年記念会館川内萩ホールで開催した。

山川充、岩田真由美によるデュオ「マ・コルド・ダルク」は五月十九日に太白区文化センターでリサイタルを行い、没後百周年のフォーレの作品などを取り上げた。

ピアノストの高橋麻子が企画・出演するコンサートシリーズ「音楽の旅」は、九月二十一日に宮城野区文化センターパトナホールで行われ、シューマンの「交響的練習曲」などが演奏された。

三、声楽・合唱

(一) 声楽

仙台オペラ協会は、さまざまな歌劇の独唱を集めたコンサート「春のインテルメッツォ」を二月二十五日に日立システムズホール仙台で開催した。

九月十五、十六日には、仙台オペラ協会第四十八回公演が東京エレクトロンホール宮城であり、ヨハン・シュトラウス2世のオペレッタ「こうもり」を取り上げた。指揮は末広誠、演出は渡部美沙子、オーケストラは仙台フィル。

小野綾子は、一月二十八日にリサイタルを名取市文化会館中ホールで行い、ヘンデルのオラトリオ「時と悟りの勝利」をプログラムとして取り上げた。

鈴木麻由子は、リサイタル「紫陽花のころに」を六月十九

日に宮城野区文化センターパトナホールで開催した。ピアノは小平圭亮で、R. シュトラウスの「四つの最後の歌」などが演奏された。

早坂卓は、リサイタル「ドイツ、歌曲の対話」を八月十日に宮城野区文化センターパトナホールで開催した。

年内で引退を宣言した井上道義は、九月二十九日に名取市文化会館でプッチーニの「ラ・ボエーム」の指揮をした。これが彼にとっての東北での最後のタクトとなった。

(二) 合唱

「男の合唱まつりinみやぎ」は、一月七日に日立システムズホールで開催され、約四百人が出演した。

宮城三女OG合唱団定期演奏会は、二月十一日に太白区文化センター音楽ホールで平成二十九年以降七年ぶりに開催された。指揮は桑折金三、ピアノは及川久美子。

仙台放送合唱団第五十八回定期演奏会は、五月十日に日立システムズホール仙台コンサートホールで開催された。指揮は佐藤淳一、ピアノは飯塚由美。

混声合唱団「萩」は、第三回東京公演を六月二日に紀尾井ホールで行った。指揮は、池辺晋一郎と末光眞希、ピアノは石垣弘子で故岡崎光治のオペラ「鳴砂」などが演奏された。

第七十六回宮城県合唱祭は、五月十一、十二日に日立システ

ムズホール仙台で開催された。兵庫県合唱連盟の有志も参加し、宮城県合唱連盟のメンバーと共演した。

グリーン・ウッド・ハーモニー第七十回記念定期演奏会は、六月十六日に東北大学百周年記念会館川内萩ホールで開催された。指揮は、前大阪音楽大学長の本山秀毅で、J. S. バッハのモテット「イエスよ、私の喜びよ」などがプログラムとして取り上げられた。

「みんなで歌う第九の会・第三十八回演奏会」が十二月一日に岩沼市民会館であった。指揮は水戸博之、オーケストラは仙台フィル。

四．作曲

五十八回目の公演となる「東北の作曲家2024」は、三月二十一日に宮城野区文化センターパトナホールであり、近藤碧、西條秀斗、松邑直樹ら八名が出品した。

「未来の作曲家コンサートin東北2024」は、八月十八日に仙台市戦災復興記念館・記念ホールで開催された。演奏は、チェロが吉岡知広、ピアノは田中絢子で二十三作品が披露された。

宮城教育大学名誉教授の吉川和夫は「緋国民楽派第十七回作品演奏会・吉川和夫個展」を十月十日に東京都墨田区のすみだトリフォニーホールで開催した。

全音楽譜出版社は、小山和彦作曲の『ピアノ・ビレッジ』1、2を十一月十五日に発行した。

五．コンクール

(一) 仙台国際音楽コンクール、および関連企画

第九回のコンクール概要が発表された。開催日程は令和七年五月二十四日～六月二十九日で、会場は日立システムズホール仙台となる。セミファイナルとファイナルの指揮は、バイオリン部門が広上淳一、ピアノ部門は高関健で、オーケストラは仙台フィルとなる。

組織体制は、運営委員長は植田克己、審査委員長は、堀米ゆず子（バイオリン部門）、野平一郎（ピアノ部門）。なお、仙台市は十一月二十九日に世界四十三の国と地域から過去最多の六百三十八人の申し込みがあったと発表した。

当コンクールに関連する企画としては、第八回の優勝者、ルウオ・ジャチン（ピアノ）、中野りな（バイオリン）の演奏によるCDがフォンテックより発売された。審査委員長を努めた野島稔（令和四年死去）への敬意と感謝により二つのコンサート、三月三十日は「もっと教えて野平一郎先生」と三月三十一日は中野りなとルウオ・ジャチンによるデュオリサیتالが日立システムズホール仙台で開催された。

(二) その他のコンクール

一月六日開催の「こども音楽コンクール東北大会」(主催：東北放送など)で塩釜第三中学校吹奏楽部は、中学校器楽部門・重奏の部で最優秀となり全国大会(録音審査)に進んだ。演奏曲目は會田瑞樹への委嘱作による。

四月二十一日開催の第六十八回全東北ピアノコンクール予選では八名が本選へ進んだ。五月二十六日に仙台市宮城野区文化センターで本選があり、亀山歩が文部科学大臣賞を受賞した。

六月二日は、第三十九回宮城県管打楽器ソロコンテスト(主催：宮城県吹奏楽連盟、河北新報社)が中新田バツハホールであった。最高賞の宮城県吹奏楽連盟会長賞は、仙台市八軒中学校の佐々木りこ、河北新報社賞は、石巻市万石浦中学校の鈴木詠介らがそれぞれ受賞した。

第七十七回全日本合唱コンクール全国大会が、さいたま市で十月二十七日に開催され、仙台市仙台第一中学校が、中学校部門混声合唱の部の第一位の文部科学大臣賞に輝いた。

全日本合唱コンクール小学校部門は、福島県郡山市で十一月十七日に開催され、聖ドミニコ学院小学校合唱団が小学校部門で五大大会連続金賞を受賞した。

十月に全国ギターコンクールが神奈川県鎌倉市であり、大河原商業高校と大河原産業高校の合同ギター部が最優秀賞に

輝いた。

第三十六回宮城県合唱アンサンブルコンテスト(主催：宮城県合唱連盟)は、十二月二十一、二十二日に日立システムズホール仙台で開催され、計五十六団体が出場した。その中で、仙台第一中学校、聖ウルスラ学院英智高等学校、ジュニア&ユースコーラス“Raw Ore”の三団体が河北新報社賞を受賞し、全国大会に進んだ。

(三) 受賞、その他

仙台市出身の打楽器奏者、會田瑞樹は、イタリア国際打楽器コンクルールのビブラフォンクラシック部門C(二十七歳以下)で最高位の第二位を受賞した。審査は動画によって九月から十一月に三回行われた。

宮城県芸術協会音楽コンクールは、従来からあるピアノ部門、弦楽器部門バイオリン部に加えて、新たに弦楽器部門チェロ部と声楽部門を創設した。令和七年二月から三月にかけて日立システムズホール仙台で開催する。

六. イベントなど

「県民ロビーコンサート」のネーミングライツを杜の都信用金庫に売却した。四月一日から一年間で十五年連続となる。開催は県庁一階で毎月一回、主な出演は、三月二十一日が聖

ドミニコ学院小学校合唱団、四月二十四日は仙台フィル。

仙台市制施行百三十五周年記念コンサートは、七月一日に仙台銀行ホールイズミティ21であり、仙台フィルハーモニー管弦楽団などが出演した。曲目はショパンのピアノ協奏曲第一番などで、ピアノ独奏はヨナス・アウミラー（第八回仙台国際音楽コンクール第二位）。

街中で障害がある人もない人も一緒に楽しむ「とっておきの音楽祭」が六月二日に仙台市中心部で開催された。

震災からの復興関係のイベントとして開催されている「第九回仙台・子供の夢ひろば『ボレロ』」は、八月三、四日に、日立システムズホール仙台で行われた。ピアニストの小山実稚恵の企画で、小山はオーディションを通過した子供たちと共に演じた。

第三十三回定禅寺ストリートジャズフェスティバルは九月七、八日の両日に仙台市中心部の公園や商店街などにステージが設けられ、二日間の人出は約七十万人に上った。

第十八回仙台クラシックフェスティバル（せんくら）が十月四日から六日にかけて開催され、日立システムズホール仙台、仙台銀行ホールイズミティ21、太白区文化センターで七十九公演が行われた。今回はベートーベン交響曲第九番の第四楽章の演奏が復活した。

七. その他

仙台銀行ホールイズミティ21は、令和四年から休館して大規模改修工事にかかっていたが、四月にリニューアルオープンした。

気仙沼市がピアニストの小原孝（神奈川県川崎市出身）に「みなと気仙沼大使」を委嘱。小原は五月二十三日に市役所を訪問した。

石巻渡波地区は東日本大震災の津波で被災したが、七月七日に同地区に野外音楽堂が完成した。

ロックバンドの“MONKEY MAJIK”は仙台城跡のPRアンバサダーに就任した。

白石市ホワイトキューブは十月十一日に復旧工事が完了し、市制施行七十周年記念式典と市民吹奏楽団のコンサートが開催された。

小山和彦

（作曲家・宮城学院女子大学教授）

邦楽・芸能

古典芸能

令和六年の古典芸能の公演について、開催状況を「雅楽」「能楽（能・狂言）」「歌舞伎」「文楽」の順に報告する。

雅楽

仙台市青葉区の大崎八幡宮で八月十二日の夜、御鎮座記念祭の後に「雅楽の夕べ」が開催され、東京の雅楽団体の伶楽舎により、今様「白薄様」、管絃「太食調音取」「合歡塩」、神前舞楽「青葉の舞」、管絃「輪鼓禪脱」、御神楽「其駒―人長舞」、舞楽「還城楽」、退出音声「長慶子」が演奏された。平成二十三年以来、御鎮座記念祭の翌日に東日本大震災からの復興を祈念して行われてきた雅楽に親しむイベントは残念ながら開催されなかった。

塩竈市の鹽竈神社の舞殿で、四月二十日に「しおがまさま神々の花灯り」、九月二十日に「しおがまさま神々の月灯り」の一環として、巫女舞や雅楽の演奏が行われた。

能楽

白石市の碧水園能楽堂で、一月七日に新年恒例の「舞台清め式・舞台びらき」が行われ、子ども能楽教室、白石皐風会、白石喜多会高砂を謡う会が、箏曲や日本舞踊、詩吟や平曲などと共に演奏を披露した。

二月十日に白石市の碧水園能楽堂で「碧水園能喜多流公演」が開催された。佐藤寛泰の「お話し」の後、石田幸雄・中村修一による狂言「清水」、佐々木多門のシテ、塩津圭介のツレによる能「山姥」が上演された。終演後には初の試みとして市内中学生を対象に舞台裏を見学し舞台上がってみるバックステージツアーが開催された。

三月十日に能―BOXで仙台市能楽振興協会の「第十七回謡曲大会」が開催され、喜多流・宝生流・観世流・金春流の計十一団体が日頃の稽古の成果を披露した。

東京都在住の観世流能楽師八田達弥と森田流笛方寺井宏明による「能楽の心と癒やしプロジェクト」は、三月十一日に石巻市かわまち交流センターと、「がんばろう！石巻」看板前で行われた東日本大震災追悼3・11の集いで、「羽衣」を奉納、

同日早朝には看板前で舞囃子「融」を奉納した。

四月十四日に大崎市岩出山の旧有備館および庭園で「春の有備館伝統芸能祭」が開催され、岩出山大蔵流謡曲保存会と喜田流仕舞の会が出演した。

五月十八日に電力ホールで「第二十六回仙台青葉能」が開催された。人間国宝の友枝昭世のシテによる喜多流能「鬼界島」、人間国宝の野村万作

らによる和泉流狂言「佐渡狐」、佐々木多門のシテによる喜多流能「源氏供養」が上演された。

六月八日に白石市の碧水園能楽堂で「観世流能楽公演 蜷燭能」が開催され、小島英明のシテによる「葵上」と野村萬斎らによる「成上り」が上演された。五月二十六日には、小島秀明による事前講座も開催された。

七月二十七日に栗原市の栗原文化会館アポロプラザで「第二回栗原能」が開催され、仕舞「殺生石」「大江山」「鶴」と、野村萬斎らによる狂言「蚊相撲」、小島英明のシテによる「土蜘蛛」が上演された。市内在住の小中学生は無料で鑑賞することができた。三月二十四日には事前講座として「ふれあい能楽セミナー」が栗原市一迫ふれあいホールで開催され、小



「能楽の心と癒やしプロジェクト」による
笛と舞(2024年3月11日 於:石巻市)。

島英明が能の歴史や舞台構造、能面や装束、楽器などについて解説を行った。

山中逞晶による「こどものための能講座」は能BOXで八月四日から八月十一日まで実施された。謡と仕舞の稽古を五回受けた参加者が八月十一日に発表会で稽古の成果を披露した。毎年参加するリピーターも多く、夏休みの定番行事となっている。

九月十四日に登米薪能が登米市登米町の伝統芸能伝承館「森舞台」で開催され、登米謡曲会の会員により、能「羽衣」と狂言「末廣かり」と仕舞が上演された。

十月六日に仙台市青葉区の瑞鳳殿経ヶ峯西側広場特設ステージで「第十二回瑞鳳殿秋の能楽」が開催され、東北大学喜多会、

仙台華月会、みちのく明生会、仙台金春会・金春花修会が独吟や仕舞を披露した。

十一月六日に能BOXで仙台市能楽振興協会による「令和六年囃子と仕舞の会」が開催され、東北大学喜多会、仙台囃子の会、金春花修会、仙台康謡会、仙台喜宝会、仙台金春



「登米薪能」での「羽衣」(写真撮影・提供:
佐藤崇)

会などの団体が日頃の稽古の成果を披露した。

十一月二十三日に日立システムズホール仙台のシアターホールで「第二回 仙臺能」が開催され、大藏彌太郎のシテによる狂言「長光」、金春安明のシテ、金春憲和のツレによる能「松風」等が上演された。

令和六年度の能「BOX」の「能のおけいこ体験講座」は、金春流（四月から八月）、喜多流（四月から六月及び七月から九月）、宝生流（六月と七月）で、それぞれ六回の講座が開催された。



「令和6年囃子と仕舞の会」（写真提供：仙台市能楽振興協会）

歌舞伎

三月三十一日に東京エレクトロンホール宮城で「中村勘九郎・勘太郎・七之助・長三郎 陽春歌舞伎特別公演二〇二四」が二回公演の形で開催された。役者のトークコーナーと、「鶴亀」「舞鶴雪月花」が上演された。

十一月十日に東京エレクトロンホール宮城で「宮城県民会館開館六十周年記念公演」と銘打ち、「松竹大歌舞伎」の公演が開催された。中村隼人による歌舞伎の説明の後、『双蝶々曲

輪日記』より「引窓」と、『新古演劇十種』より「身替座禅」が上演された。長年、夏の歌舞伎公演はこの会館の定番公演で多くの観客を集めていたが、今回は周年記念公演であるにもかかわらず、客席の入りが少なく、その原因が気にかかった。

文楽

毎年秋に行われる「人形浄瑠璃 文楽」の公演は、十月十五日に東京エレクトロンホール宮城で開催された。昼の部は『二人三番叟』と『絵本太功記』より「夕顔棚の段」と「厄ヶ崎の段」が、夜の部は『近頃河原の達引』より「四条河原の段」「堀川猿廻しの段」が上演された。

その他

三月三日に仙台市青葉区の吉成市民センターで「沖縄三線 フェスティバル」が開催され、主に仙台市内で活動する九つの愛好団体が演奏を披露した。

六月十五日に気仙沼市民会館で「立川志の輔独演会 おかえり気仙沼二〇二四」が開催された。東日本大震災後の復興支援に対する感謝の意を込めて実行委員会が結成されて企画を行った独演会で、全国の落語ファンを含め約千人の観客が集った。

十月四日に仙台市青葉区の仙台市福祉プラザでみちのく講

談愛好会主催の「第十回みちのく講談会」が開催され、宝井
講談修羅場塾生の発表に加え、指導者の宝井琴星とその門下
の宝井琴鶴、宝井魁星が口演を披露した。

小^お塩^{しお}さとみ

(宮城教育大学 教授)

民俗芸能

民俗芸能は年中行事で演じられるだけでなく、舞台公演や地域おこしのイベントなどでも演じられる。本稿では令和六年の民俗芸能公演や大会などについて概観し、紙面の許す範囲でそれ以外の活動を報告する。

一月七日に白石市古典芸能伝承の館「碧水園」で舞台開きが行われ、箏や尺八、日本舞踊などと共に、白石市指定民俗文化財である榊流大町神楽が参加した。

二月十日に仙台市教育委員会主催「第三十六回民俗芸能のつどい」が日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）シアターホールで開催され、泉区大沢の田植踊、福岡の鹿踊・剣舞、太白区秋保湯元の田植踊、塩竈市の塩竈神楽が披露された。



「第36回民俗芸能のつどい」大沢の田植踊（写真提供：仙台市教育委員会）

二月十一日に栗原市の栗原文化会館大ホールで「くりはら神楽まつり」が開催された。令和五年八月に栗原市内の十一の神楽団体により栗原市神楽保

存伝承協議会が結成されたことを記念した催しであった。

三月三日に南三陸町歌津の寄木漁港において、「東日本大震災令和六年三・一一追悼演奏」が開催され、石巻市雄勝町の黒船太鼓保存会や登米市の津山創作太鼓など九団体が演奏を行い、最後に宮城県太鼓連絡協議会の統一曲「鼓音」を全員で演奏した。

三月二十四日に大崎市鳴子温泉鬼首地区の伝統芸能発表会が鬼首リフレッシュセンターで開催され、鬼首神楽保存会が神楽を披露した。伝統芸能発表会は鬼首地区公民館が令和三年に始めたもので、今回が四回目である。

四月十四日に大崎市岩出山の旧有備館および庭園で「春の有備館伝統芸能祭」が開催され、上野目神楽鶏舞伝承クラブと真山神楽保存会が出演した。伝統芸能の発表の場をつくることを目的に大崎市教育委員会が企画したもので、市民や観光客など百人以上が芸能を楽しんだ。

四月二十九日に岩手県一関市の厳美中学校体育館で「第五十一回岩手県南宮城県北神楽大会」が開催され、登米市東和町の岡谷地神楽が優勝、登米市石越町の長下田神楽が三位となった。

五月五日に丸森町の蔵の郷土館斎理屋敷で「丸森こども太鼓まつり二〇二四」が開催され、丸森ばやし保存会、丸森夢太鼓、角田市小田地区の子どもとくら太鼓、柴田町の奥州柴

田一番太鼓などの団体が演奏を披露した。

五月十八日・十九日に「第四十回仙台・青葉まつり」が開催された。初日の開祭式典では仙台祭木遣音頭が六十九年ぶりに演奏された。四十回を記念して観光姉妹都市の徳島県徳島市の阿波踊りと歴史姉妹都市の愛媛県宇和島市の「牛鬼」と呼ばれる山車が参加した。すずめ踊りは百二十七祭連が参加し、すずめ総踊りでは、新型コロナウイルス感染防止のために中止していた観客の飛び入り参加も復活した。

五月十九日に栗原市金成の延年閣で南部神楽伝承推進協議会の神楽公演が開催された。南部神楽伝承推進協議会は、岩手県南と宮城県北の五つの南部神楽団体により結成され、今回の公演では、宮城県からは鶯沢神楽と長下田神楽が出演した。

六月八日に「第十八回神楽共演石越大会」が登米市石越体育センターで開催され、石越町の長下田神楽、赤谷神楽、登米町の岡谷地南部神楽、豊里町の上町法印神楽、栗原市の鶯沢神楽など十団体が参加した。

六月八日・九日に仙台市で「東北絆まつり」が開催された。東北六魂祭から名前を変えて二巡目の最初の開催で、東北各県の祭りの芸能がパレード形式で披露された。また初日に西公園会場で「宮城の伝統芸能ステージ」が開催され、秋保の田植踊と川前剣舞が上演された。

六月十五日に「第三回神友会」が栗原市みちのく風土館野外特設ステージで開催され、中野神楽、城生野神楽、栗原神楽、川北神楽の四団体が神楽を披露した。

六月十六日に栗原市一迫の山王史跡公園あやめ園で「第三十六回みちのく鹿踊り大会」が開催され、栗原市一迫の早川流清水目鹿踊保存会、早川流真坂鹿踊保存会、大崎市松山の会津流松山獅子躍保存会、南三陸町の行山流水戸辺鹿子躍保存会などの団体が参加した。

六月二十三日に栗原市一迫の山王史跡公園あやめ園内特設ステージで「第三十四回あやめ祭り神楽大会」が開催され、栗原市の鶯沢神楽保存会、平形神楽保存会、川北神楽保存会、登米市の赤谷神楽保存会が出演した。

六月三十日に登米市の伝統芸能伝承館「森舞台」で「第一回とめ伝承芸能まつり」が開催された。地域文化の魅力を伝え、民俗芸能の継承者を育成することを目的に登米市地域伝承文化保存支援推進会議が主催したもので、登米市の加茂流館神楽、嵯峨立神楽、岡谷地南部神楽、上町法印神楽と石巻市の雄勝法印神楽が出演した。

七月十四日に栗原市の栗原文化会館大ホールで「第二回くりはら神楽まつり」が開催された。城生野神楽、南部笹流大平神楽会など栗原市神楽保存伝承協議会の九団体に加え、招待団体として栗原市栗駒の中野神楽、一関市の達古袋神楽、

登米市の赤谷神楽保存会が参加した。

七月二十七日・二十八日に仙台市の宮城野通で「第二十回夏まつり仙台すずめ踊り」が開催され、二日間で約六十五団体が踊りを披露した。

七月二十七日・二十八日に登米市迫町で「登米市絆祭り」が開催された。登米市が翌年に合併二十周年を迎えるにあたり旧九町の一体感を作ろうと企画され、米川の水かぶり、登米秋祭りの山車、長谷観世音虎舞、綱木之里大名行列などの伝統芸能パレードが行われた。

七月二十八日に女川町海岸広場で「第五十七回おながわみなと祭り」が開催され、「海上獅子舞」には八団体が参加した。また二団体が陸上演舞のみ参加した。他にも女川潮騒太鼓轟会や江島法印神楽の上演が行われた。

九月一日に石巻市河北総合センタービッグバンで「第四十五回石巻地方神楽大会」が開催され、雄勝法印神楽、皿貝法印神楽、神取・給人町法印神楽、後谷地法印神楽、北上女川法印神楽、和渕法印神楽、女川町の江島法印神楽保存会の七団体が出演した。

九月一日に登米市の水の里ホール・Abetisou（登米祝祭劇場）で第十八回登米市民俗芸能大会が開催され、山ノ神神楽、長谷山打囃子、笹流加賀野神楽、上町法印神楽など登米市内の十七の民俗芸能団体が参加した。

九月十五日に「登米秋まつり神楽大会」が登米市の伝統芸能伝承館「森舞台」で開催され、石越町の長下田神楽保存会、登米町の岡谷地南部神楽と、一関市萩荘の達古袋神楽会が出演した。

九月二十八日に「第十七回くりはら万葉祭く火と土のまつり」が風の沢ミュージアム（裏の広場）で開催され、上野目神楽鶏舞伝承クラブの子供達による鶏舞、鶯沢鹿踊保存会による八鹿踊りが上演された。

九月二十九日に登米市の伝統芸能伝承館「森舞台」で「第二回とめ伝承芸能まつり」が開催された。第一部では市内の小中学生による「とよま囃子木遣り」「狼河原流田植踊」「長下田神楽・鶏舞」が、第二部では栗原市の城生野神楽による「曾我兄弟箱根権現詣の場」が、第三部では市内の民俗芸能団体である柳生心眼流兵法、岡谷地南部神楽、赤谷神楽が演技を披露した。

十月十二日・十三日に「第二十七回みちのくYOSAKOIまつり」が開催された。仙台市内の七会場（市民広場・勾当



「第2回とめ伝承芸能まつり」にゲスト出演した城生野神楽（於：伝統芸能伝承館「森舞台」）

台公園他）で全国から集まった百十二チームが踊りを披露した。

十月十九日に栗原市若柳の平野神社で「第四十四回平野神社奉納神楽大会」が開催され、城生野神楽、鷺沢神楽保存会、栗原神楽、長下田神楽、赤谷神楽などの団体が参加した。「曾我兄弟根権現詣の場」を演じた城生野神楽が二年連続で優勝した。

十月二十八日に仙台市の榴岡公園芝生広場にて「れきみん秋祭り二〇二四」が開催され、大沢の田植踊、上谷刈の剣舞、生出森八幡神楽、雄勝法印神楽、岩手県花巻市の早池峰岳神楽が披露された。

十二月一日、村田町中央公民館で、「村田町郷土民俗芸能発表会」が六年ぶりに開催され、菅生神社神楽、足立稲田姫神社神楽、小泉熊野神社神楽、本郷布袋踊、関場田植踊、関場七福神舞、小谷やすとこ、菅生地区の児童による菅の芽神楽が出演した。

民俗芸能の団体の多くが後継者不足を課題としている。このような状況下で、ジャンルの垣根を超えて民俗芸能の後継者の育成や情報発信を行うために、仙台市は五月に「仙台民俗芸能保存継承協議会」を設立した。仙台市内の二十三の保存会のうち、十五の保存会が協議会に参加し、交流サイト（S

NS）の運用や市民向け体験会の開催、動画による伝承などの活動を行う。

仙台市青葉区の青葉山公園にある仙臺緑彩館で仙台すずめ踊り連盟が、定期公演を試験的に実施した。四月から令和七年三月までの計十九回、一日三回、三十分程度の演舞を行った。石巻市北上町の女川法印神楽保存会が、東京の明治安田クオリティオブライフ文化財団から「令和六年度 地域の伝統文化助成」の対象に選ばれ、神楽面の購入及び修繕費用の助成を受けた。贈呈式は六月二十七日に石巻市北上公民館で行われた。

前年に引き続き民俗芸能に関わる門戸を広げ継承方法を考える「仙台げいのうの学校二〇二四」が七月から令和七年三月まで実施された。「川前の鹿踊」と「生出森八幡神楽」の保存会の協力を得て、前年のプロジェクト「卒業生」有志が民俗芸能の魅力の発信を行った。

仙台市若林区の仙台3・11メモリアル交流館で、十月から翌年二月まで、企画展「ザンザコザン荒浜磯



企画展「ザンザコザン荒浜磯獅子踊 百年の空白と十の謎」（仙台3・11メモリアル交流館）のチラシより

獅子踊 百年の空白と十の謎」が開催された。大正十一年（一九二二）を最後に踊られなくなってしまった荒浜磯獅子踊に関して、使われていた獅子頭や、昭和三十年代に保存のために録音した音声、当時を想像した漫画などが展示された。また、関連企画として、十月二十日に「講座 宮城の郷土芸能解説入門」が同館で開催され、十一月三十日には若林区のアクアイグニス仙台において、若林区の「くろしお太鼓」、宮城野区の「中野小太鼓」、青葉区の「川前鹿踊」と岩手県普代村の「中野流鶉鳥七頭舞」の実演会が催された。

小^お塩^{しお}さ^さと^とみ

（宮城教育大学 教授）

三 曲

コロナも一段落し箏や三絃、尺八など邦楽の世界も落ち着きを取り戻した感がある。恒例の演奏会が開かれ、会場に聴衆が戻り、落ち着いて日本の伝統音楽の三曲を鑑賞する姿が日常に見られるようになったということで大変喜ばしいことである。

特筆したいのは三月に開かれた仙台三曲協会主催の子供の邦楽コンサートである。第十回目を迎えた今年は出演した子供が六十七名と過去最高を記録。会場も大いに盛り上がりを見せた。次代を担う子供たちが舞台上で一生懸命練習した曲をお客さんに聴いてもらい、終わって拍手をもらう感動を味わってもらったことがこの会の目的である。今回、出演者が多かったのは普段の学校での授業のほかに夏休みなどで体験教室を開き多くの子供たちに教えてきた箏の先生方の不断努力が実を結んだものと言える。願わくば将来にわたって箏に親しむ子供が増えればと思う。

箏だけでなく尺八にも熱心に学校で教えている人がいる。都山流の庄子為山氏である。彼は自分の出身校だけでなく広く学校に出かけ、小・中学校にプラスチックの尺八を何十本も持ち込み丹念に教えている。その成果もあり難しいと言われている尺八を鳴らす子もいて子供たちに喜ばれている。

学校への三曲の普及を目的にした団体が仙台三曲サポーター会で二十年前から活動している。これを活用した学校がある。県北の加美町立東小野田小学校でみやぎ生協の学習ガイド講師派遣を見て連絡し、全学年の箏・尺八の鑑賞・授業体験が実現した。校長先生も事前に打ち合わせの時に渡した尺八を生徒の前で見事に吹き鳴らし生徒の喝采を浴びた。曲の中に語りが入り、生徒が代わる代わる曲の中で語るなど楽しい参加型の授業が好評であった。この会の積極的な活用が待たれる。また特筆すべきは宮城県芸術協会の六十周年記念行事としてせんだいメディアアテックで開催されたオーブニングに参加し、箏・尺八の合奏とお花活けのコラボが実現。「六段の調」の演奏が河北新報に掲載された。この他三曲の茶音頭とお茶のコラボや洋舞とのコラボが披露され観客に喜ばれた。

宮城県芸術協会における三曲の立ち位置が重要性を増し推進役としての役割を担っている。原動力は執行理事である佐藤皖山氏の存在が大きい。ご子息の将山氏も尺八のプロで邦楽部の副部長として活躍。またご夫人の佳世子氏やご息女の亜美さんも箏、十七絃で活躍。まさに一家を挙げて芸協の行事に協力されている。今後の活躍が期待される。

演奏会では隔年に開催される「杜に吹く風」が代表である関野由美子氏の出身地である岩沼の市民会館大ホールで開催された。この会は十八年前に宮城県在住の尺八と箏の演奏家

に声をかけ立ち上げた会で六回目を迎えた。日本にはこんなにも美しい音が奏でられる楽器がある。これを伝えたい一心で取り組んできたという。それに応える現代作曲家は水川寿也氏である。彼の美しい旋律はまさに杜に吹くやさしい風を思わせる。二年間温め励んできた曲の香りが感じられる演奏会であった。

第三十七回都山流尺八演奏会は仙台市戦災復興記念ホールで開催された。いつも尺八本曲、古曲、新曲を取り混ぜ全十曲演奏された。印象的な曲は藤原道山作曲の「E.N」。七名の尺八で演じられた真剣さは聴く人に伝わり、暑さの夏に練習を重ねた努力が報われた。また「春の海・21」は水野利彦の編曲で十七絃の低音が響くかと思えば尺八のソロが有名なメロディを奏で最後は全力でみんなが盛り上げて曲を終わるというダイナミックに編曲されながら名曲の味を壊さない工夫にとんだ「春の海」となった。

最後に七十七銀行を脱サラして尺八のプロになって注目された平澤真悟氏は自身のリサイタル「和洋響鳴Ⅱ」をはじめ他の楽器とのコラボなど多彩な活動が続いている。仙台での尺八プロの自立を願う。

一月

十九日 三曲鑑賞・箏体験授業

三月

十六日

会場…仙台市荒町小学校（四年生 百名）
講師…加藤歌峰瑠、内田歌嵯繭、榛沢一翠
第十回子供の邦楽コンサート

主催…仙台三曲協会

会場…仙台福祉プラザふれあいホール
演奏者…小・中・高生 六十七名

六月

二日

コンサート

会主…山田一邦

会場…日立システムズホール仙台
演奏者…水野箏曲学院仙台スタジオ 会員一同

八月

十一日

たけくま和楽団ライブ×2

会場…仙台銀行ホールイズミティ21
演奏者…上原真佐輝ほか

十月

六日

宮城県芸術協会六十周年記念演奏会

主催…公益社団法人宮城県芸術協会
会場…せんだいメディアアテーク一階オーブンスクエア

十二日

第三十七回都山流尺八演奏会

主 催…都山流宮城県支部

会 場…仙台市戦災復興記念館 記念ホール

演奏者…宮澤寒山ほか

十一月

六～七日 尺八・箏体験授業

会 場…仙台市立台原中学校（三年生百二十名）

講 師…庄子為山、佐藤秀洗

十四日～十七日 尺八体験授業

会 場…仙台市立館中学校（三年生六十名）

講 師…庄子為山

十六日

和洋響鳴Ⅱ

会 場…仙台市太白区文化センター楽楽ホール

演奏者…平澤慎吾

二十四日

杜に吹く風

会 場…岩沼市民会館大ホール

演奏者…関野由美子ほか

二十六日

三曲鑑賞・体験授業

会 場…加美町立東小野田小学校（二年～六年生

百八十名）

講 師…宮澤寒山、加賀煌山、林映子、斎藤弘子、

本間典子

十二月

一日 第六十六回三曲定期演奏会

主 催…仙台三曲協会

会 場…トークネットホール仙台

演奏者…渡辺悦子ほか

三日 三曲鑑賞・体験授業

会 場…仙台市立鶴谷東小学校（四年生・六年生

六十名）

講 師…宮澤寒山、加賀煌山、林映子、本間典子、

斎藤弘子、渋谷幸子

四日～六日 尺八体験授業

会 場…仙台市立郡山中学校（三年生二百三十四名）

講 師…庄子為山

十日

箏体験授業

会 場…仙台市立荒町小学校（四年生百名）

講 師…加藤歌峰瑠、内田歌嵯繭

十六日

箏体験授業

会 場…仙台市立幸町小学校（六年生六十六名）

講 師…加藤歌峰瑠、内田歌嵯繭

十七日

三曲鑑賞・体験授業

会 場…仙台市立西中田小学校（六年生六十六名）

講 師…田村雅楽徽、曾根美登利、吉崎喜寿静、

二十日

箏体験授業

宮澤寒山

会場…仙台市立幸町小学校（四年生六十名）
講師…加藤歌峰瑠、内田歌嵯爾



宮城県芸術協会 60 周年記念イベント
「アートのちから」（提供：河北新報社）



三曲鑑賞・体験授業（加美町立東小野田小学校）

宮

澤

寒

山

（仙台三曲サポート会会長）



「杜に吹く風」（岩沼市民会館）



三曲鑑賞・体験授業（仙台市立西中田小学校）

長 唄

およそ四百年前上方で発祥した三味線音楽は、地唄と共に江戸では歌舞伎に共存する長唄として発展した。以来、江戸庶民の一番身近な音楽として現代に引き継がれているが、東北ではなかなかお江戸のように身近に感じられない現実がある。さらにコロナ禍で三年余り長唄活動の自粛を余儀なくされ厳しい運営状況が続いてきた。

そのような中でも、十一月十七日、トークネットホール仙台小ホールで開催した宮城県芸術祭長唄演奏会では、会員の様々な努力により無事に公演を終えることができた。また、多くの来場者から温かい拍手や激励の言葉をいただき、これからの活動に大きな励みとなった。

今後も伝統を大切にしながら精進を重ねてまいりたい。

第六十一回宮城県芸術祭 長唄演奏会

十一月十七日

トークネットホール仙台

演奏曲目

一、鶴亀 合同演奏

一、特別企画「三味線で描く江戸の四季」

三味線文化譜 宗家六世家元 杵家弥七

- 一、巽八景
- 一、娘七種
- 一、俄獅子

「ひろがれ三味線プロジェクト」

「長唄とピアノと朗読と」と題し、六月二十一日に仙台市福祉プラザふれあいホールにて演奏会を行った。これは「ひろがれ三味線」プロジェクトの一環で、三味線・長唄音楽の魅力を広く多くの人に知っていただくことを目的とした活動である。

来場者からはピアノと三味線のコラボレーションに大変興味深く、楽しく鑑賞することができたとの声が多く聞かれた。これからも三味線の「ひろがり」を目指し、様々な活動を展開していく予定である。



第 61 回宮城県芸術祭 長唄演奏会

一、「元禄浮世風情」(ピアニスト・作曲家 榊原光裕氏のオリジナル作品)

ピアノと三味線のコラボレーション他
一、「吉原雀」



「ひろがれ三味線」プロジェクト



白石市伝統芸能フェスティバル

七月十四日、白石市古典芸能伝承の館「碧水園」にて白石市伝統芸能フェスティバルが開催され、古典芸能長唄団体と

して参加した。

今回は格式ある能舞台で杵家会東北支部会員が縁起の良い曲目「鶴亀」を演奏した。



白石市伝統芸能フェスティバル

杵^{きね}家^{いえ}弥登孝^{やとたか}
(宮城県芸術協会邦楽部長唄運営委員)

民謡

宮城県民謡の米節の歌詞に「米という字を分析すれば八十八度の手がかかる」米は我らの親じゃもの」とあるように、かつての米作りはさまざまな作業をこなし、朝暗いうちから夜暗くなるまで長時間、腰を曲げて働いていた。田んぼから獲れる大事なお米。しかし令和六年のコメ事情は少し様子がいつもと違うようだ。

そのような中、行われた令和六年の民謡活動を紹介する。

◎県内各地で実施されている保存会活動、民謡コンクール及び普及活動、演奏会、公演会等。

東北民謡の祭典IN栗原

【主催】民謡祭典実行委員会

【会期】六月二日

【会場】栗原文化会館

東北の若手民謡歌手が唄を披露する第五回コンサート。東北各地で活動する民謡歌手、舞踊家らが出演した。

出場者二十名参加 来場者八百名

第四十回秋の山唄全国大会

【主催】涌谷町

【会期】十一月十日

【会場】涌谷町勤労福祉センター

「秋の山唄」は涌谷方面一帯の山林原野で農作業をしながら唄われたもの。この唄をうたうことにより、崑岳山の山の神に五穀豊穡を祈った。優勝者は崑岳山崑峯寺に山唄を奉納する。全体で百七人の参加があった。

〔一般の部〕

優勝 滝口里奈（山形県）

準優勝 桜井由香（寒河江市）

〔寿年の部〕

優勝 阿部信治（仙台市）

準優勝 高橋秀明（大崎市）

〔少年少女の部〕

優勝 鈴木こはく（山形県）

準優勝 外久保穂（岩手県）

第三十八回お立ち酒全国大会

【主催】大和町観光物産協会

【会期】十一月十一日

【会場】まほろばホール

嫁ぐ娘への親心を唄った民謡「お立ち酒」は、大和町宮床地区で生まれ、昔から婚礼の席には欠かせない唄として愛唱されており、伝統的な唄として歌い継がれてきた。百二人が出場した。

優勝 松本莉奈（福島県）
準優勝 柴田敏美（利府町）
第三位 佐藤林作（仙台市）



第三十八回お立ち酒全国大会（提供：河北新報社）

第三十九回さんさ時雨全国大会

【主催】 宮城県民謡道連合会

【共催】 第三十九回さんさ時雨実行委員会

【会期】 十一月二十四日

【会場】 大崎市岩出山文化会館「スコレハウス」

「さんさ時雨」は格調高い祝い唄として全国的に知られる宮城県を代表する民謡。この民謡を正しく継承・普及させ、先人から歌い継がれて来た唄を次世代に引き継ぐことを目的とする。東北六県、北海道、その他全国から百十三人の参加があり、正しい唄の継承が浸透している。

〔一般の部〕

優勝 佐藤美玖（山形県）
準優勝・山田丈志（角田市）

〔熟年の部〕

優勝 阿部信治（仙台市）
準優勝 相澤操子（仙台市）

〔年少の部〕

優勝 宇都宮結乃（多賀城市）
準優勝 外久保穂（岩手県）

（報告者 藤本和夫）

後藤桃水翁を偲ぶ民謡まつり

【主催】 後藤桃水翁を顕彰する会

【会期】 十二月七日

【会場】 野蒜市民センター

民謡育ての親「後藤桃水翁」の生誕地である東松島市の野蒜市民センターで十二月七日に開催された。テーマは「来場者と出演者を結ぶ民謡の心」と題し、第一部の会員の唄声から第五部の民謡界の大御所の唄声まで、会員や民謡歌手約三十人が出演し、民謡の価値を高めた育ての親である桃水翁に思いを巡らせた。ほぼ満席の観客が、それぞれの風土に根差した民謡の独特な唄声にうっとり魅了され満足顔で感銘



後藤桃水翁を偲ぶ民謡まつり

を受けていた。

令和七年は桃水翁誕生百四十五年の節目にあたり、東松島市市政二十周年記念事業として「後藤桃水翁を偲ぶ民謡まつり」を十月五日に東松島コミュニティセンターで開催する計画となっている。

（報告者 大山 道保）

少子高齢化においては、どの分野でも苦勞しているように感じることを昨年も書いたが、各民謡コンクールの少年少女の出場者が減ってきているように感じる。色々な分野の方々に、この問題についてお話を伺い参考にしたいと今年は強く感じる年になった。

二代目 藤本 和夫
(民謡・端唄・小唄・現代楽三味線演奏者)

演 劇

コロナ禍の終息から八カ月が過ぎ、「コロナ禍で、自由な公演ができないフラストレーションの中、温められてきた企画が続々と孵化した」前年を経て、残ったものは、演劇を取り巻く状況が一層、厳しさを増したということかもしれない。

具体的には、コロナを経て強化せざるを得なくなった衛生管理のコストが、公演の必要経費を押し上げた結果、公演を躊躇する団体がいくつも見られた。また、コロナ禍で離れた観客が元のように戻ってくることはなく、少ない観客での公演が続くことになった。

このような課題を解決する試みとして、いくつかの合同公演が行われた。

『ちょいゲキBOX』（主催：Team HaClose）は、一月十一日～十四日、せんだい演劇工房10・BOX box 1で開催された。各団体、四十五分というルールの下、りこりた『夜と踏切』（作・演出：名塚かずや）、放課後RUNWAY『my song』（作：樋口ミユ、演出：小濱昭博）、劇団16%『クローゼット』（作・演出：メ梨ライヒ）、TeamHaClose『冥途の諧謔』（作・演出：武田らこ）、三桜OG劇団ブルーマー『それどかわゆし』

（作・演出：三桜OG劇団ブルーマー）の五作品が上演された。

また、劇団無国籍と三角フラスコは、一月十九日～二十一日、せんだい演劇工房10・BOX box 1で合同公演を行い、劇団無国籍『ほの暗いお仕事』（作：益岡礼智、演出：国久暁）、三角フラスコ『暗がりにはうる』（作・演出：生田恵）を上演した。

この二つの企画から、若手の劇団も活動歴の長い劇団も、同じように単独での公演が難しくなっている状況が伝わってくる。

そんな状況の中で、着実に観客を掴んでいるのは、渡部ギユウと高橋菜穂子が運営する一般社団法人「東北えびす」である。飲食店を会場に朗読劇を上演し、食事と演劇とを楽しむ「仙臺まちなかシアター」のシリーズや、新劇団「東北えびす」の立ち上げ、演劇クラブのプロデュース公演『無頼の女房』の上演など、次々と企画を繰り出しながら、一つ一つが丁寧に作られており、その水準の高さが観客の獲得につながっていると思われる。

『無頼の女房』（作…中島敦彦、演出…渡部ギユウ）

会期…七月十九日～二十一日

会場…せんだい演劇工房10 BOX box 1

仙臺まちなかシアター

芝原弘プロデュース『カチカチ山』（作…太宰治）

会期…八月十七日

会場…くさかんむりカフェ

親子の居場所Over 共同運営『蛙のゴム靴』（作…宮沢賢治）

会期…八月二十二日

会場…Cafécraft

『伝える・繋ぐ・そして未来へ』仙台市東部沿岸地域のくらしと物語Ⅰ～』

会期…九月十六日

会場…アクアイグニス仙台 グリーチネディアクアパッツァ
アンティーク着物よし銀コラボ企画「着物にまつわるエッセイ&トークイベント」『着物は誰でも楽しめる！』

会期…九月二十八日

会場…SENDAIKOFFEEO.

菊池佳南プロデュース『殺人リレー』（夢野久作『少女地獄』より）

会期…十月二十五日・二十六日

会場…日本料理華の縁

フォーチュンシアタープロデュース『葉桜／岸田國士、女優／福永武彦』

会期…十一月十七日

会場…和醸良酒〇たけ

『蜜のあわれ』（作…室生犀星）

会期…十二月五日

会場…鹿落堂

東北えびす旗揚げ公演『わが町、えびす温泉物語』玉子の恋編Ⅰ（作…クマガイコウキ、構成・演出…渡部ギユウ）

会期…十月九日～十三日

会場…せんだい演劇工房10 BOX box 1

今年を代表する作品を一つ挙げるとすれば、仙台シアターラボ『セールスマンの死』（原作…アーサー・ミラー、構成・演出…野々下孝）だろう。九月十四日・十五日、せんだい演劇工房10 BOX box 1で上演された作品であるが、構成演劇という美術のクラージュのような手法で作品を作った仙台シアターラボが「物語る演劇」というシリーズを立ち上げた最初の公演である。近代演劇の骨太の物語の上に、同時代性を組み込んだ画期的な演劇世界が構築された。

これと同じように、話題となった作品は、劇団短距離男道ミサイル（年中に改称し、現在は、劇団「MICHINOX」）『黄金黎明伝 TSUNEKIYO X』（作・演出：本田棕）。奥州藤原氏の初代清衡の父・経清の人生を描いた作品。仙台では一月十九日～二十一日、宮城野区文化センターパトナシアターで上演され、二十五日～二十六日、山形県生涯学習センター「遊学館」（山形市）、二月二日～四日、盛岡劇場・河南公民館（盛岡市）、十日・十一日、いわき芸術文化交流館「アリオス」（いわき市）、三月六日・七日、大館市民文化会館（秋田県大館市）、十五日・十六日、八戸ポータルミュージアム「はっち」（青森県八戸市）とツアーを行い、再演は、十月二十三日～二十六日、in→dependenttheatre2nd（大阪市）、三十日・三十一日、宮城野区文化センターパトナシアターで上演された。

その他、話題になった上演は、Team Hacco『せんだい短編戯曲 東西ツアー『人の気も知らないで』（作：横山拓也、演出：武田ら）、三月十六日、海岸公園センターハウス、十七日、ベジ&シアターカフェ アンフルーヴ。チェルノゼム Schalef『銀河鉄道の夜』（原作：宮沢賢治、脚色・構成・演出：小濱昭博）、六月十九日～二十三日、せんだい演劇工房 10-BOX box1。劇団どんちやうの会第71回公演『煙が目にしみる』（作：堤泰之、演出：宇津木浩恵）、六月二十一日・二十二日、登米祝祭劇場小ホール。ナターシャ・プレシコフ『班

女』（作：三島由紀夫、演出：高江智陽）、十月十九日・二十日、せんだい演劇工房 10-BOX box1。演劇企画集団ロンドンバンダ『他人の人生の他人（ひと）』（作・演出：大河原準介）、十一月三十日・十二月一日、エル・パーク仙台ギャラリーホールなどがある。いずれも、継続して公演を続けている劇団の公演が目立った。

単独の公演が難しい状況の中で、話題を盛り上げる手法として、演劇祭の開催がある。仙台市では、いくつもの演劇祭が始まり、終っていったが、今年、三年ぶりに開催された「いのまき演劇祭」は、今回で六回目を迎えている。令和四年に開催したシアターキネマティカを会場に、劇団無国籍（仙台市）『藪の中であくび』十一月三日・四日、コマイぬ（石巻市）『トガハラミ』十一月九日・十日、演劇ユニットサムライスパーク（仙台市）『サムライキサラ』十一月十六日・十七日、Whiteプロジェクト（仙台市）『ニライカナイの風』十一月二十三日、劇団球（東京都）『血-BLOOD-』十一月二十四日、演劇ユニットキキカン（石巻市）『キキカン』十一月三十日・十二月一日の公演が行われた。

同様に、大阪市のインディペンデントシアターが主催し、東北の公募作品が競演する「INDEPENDENT.SND24」が七月四日～七日、せんだい演劇工房 10-BOX box1で開催された。東北の公募作品は、『Prime Number』（出演・脚本：

白川櫻乃、演出…横山真、『あの日のメロディー』（出演…高梨元秀、脚本・演出…谷津智里）、『廻る』（出演…玉崎コウ、脚本…あおきみゆき、演出…芝原弘）、『とつきとか』（出演…古玉稟果、脚本・演出…藤崎友心）、『マニア』（出演・脚本・演出…渡辺ナヲ）の五本。札幌市から選出され、大阪市にも招聘された『みそやだ』（出演…岡田怜奈、脚本・演出…上田龍成）も上演された。

演劇祭に隣接する企画にコンクールがある。

とうほく学生演劇祭2024は、九月七日・八日、せんだい演劇工房10 BOX box1で開催された。どろぶね『宇宙船なら沈まない』、めいメイ『まじころの洞』、東北学院大学演劇部『ひかれ』、宮城大学演劇集団Arco iris『21祭壇』、宮城学院演劇部『青い夏』が参加し、どろぶね（岩手県盛岡市）『宇宙船なら沈まない』（脚本・演出・渡邊愛実）が大賞を受賞し、第10回全国学生演劇祭に出場することになった。

また、第3回『伊達の劇王』短編劇コンクールが、十月二十六日（予選A）、二十七日（予選B）、十一月三日・四日（決勝）、クォータースタジオで開催された。White プロジェクト『SAKURA』、劇団AZ『アマビエ飼育日記』、りこりた『うたかたのしとね』、利府町民劇団ありのみ『コンビニ店員、頑張るー』、三桜OG劇団ブルーマー『ジョ飯トピア』、三角フラスコ『タニシはギスギスしたくない』、若林演劇研究会『子

猫のしろちゃん』が参加し、三桜OG劇団ブルーマー『ジョ飯トピア』（作・演出…くまがいみさき）が優勝し、公演会場使用権等の副賞を獲得した。

仙台市と公益財団法人仙台市市民文化事業団は、十月三十一日、第9回せんだい短編戯曲賞の大賞として、三橋亮太（千葉県）『桃を朝にガブリ』、山村菜月（大阪府）『第三者視点』の二作品を選出したことを発表した。応募総数は二百五十五作品であった。表彰式とリーディング公演は翌年に開催予定である。

多賀城市は、多賀城創建一三〇〇年記念事業の一つとして『The Winter's Tale - みちのおくの国の冬物語』（原作…ウィリアム・シェークスピア、脚本・演出・芸術監督…下館和巳）を、市民参加の企画として、十一月二十二日～二十四日、多賀城市民会館小ホールで上演した。

劇場の自主企画という点においては、シアターキネマテイクのおすすめ自主企画演劇プログラム『FISH BOOK』vol.2。一週目は、菊池佳南の一人芝居、うさぎストライプ『ゴールデンバット』（作・演出…大池容子）二月三日・四日。二週目は、石巻市出身の俳優、脚本・演出家も務める小林四十の凱旋公演、神とイエローケチャップ『BLUE 3 COMEDIES』（脚本・演出・出演…小林四十、出演…水希友香・中村高華）二月十一日・十二日、が興味深い企画であった。

また、宮城野区文化センターの継続企画であるみやぶんワシコインシアターは、以下のラインナップだった。

vol.14 『ホダニエレーガ』（作：片岡力、演出：伊藤み弥）

会期：二月二十三日

恒例となった仙台短編文学賞受賞作品の舞台化。今回は河北新報社賞の受賞作品を舞台化している。

vol.15 『飛び花座 宮城野寄席』（出演：春風亭弁橋・春雨や晴太）

会期：六月十三日。

vol.16 『永訣／あの日のわたしへ手紙をつづる』（演出：高山広、出演：藤沢智子）

会期：十月十九日

vol.17 『異邦人の庭』（作：刈馬カオス、演出：大河原準介）

会期：十二月十九日

真田鰯、横澤のぶの出演で舞台化。

演劇が発展するためには、人材育成が欠かせない。この観点から特筆するべきは、前年十二月に活動を始めた「週末演劇ひろば」であろう。若い演劇人が舞台を経験する機会を増やすという目的を、以下の活動により、順調に達成してきている。

第七回『たちのぼる』（作・出演：山口真由、演出：伊藤全記）

会期：一月七日顔合わせ、二十五日・二十六日稽古、本番
二十七日

会場：KOMOBASendai

第八回『半七捕物帳（一）お文の魂』（作：岡本綺堂、演出：小濱昭博）

会期：三月二十日顔合わせ、二十八日・二十九日稽古、本番

三十日

会場：KOMOBASendai

第九回『殺陣をベースにお芝居を作ってみよう』（作・演出：小濱昭博）

会期：五月十九日顔合わせ、二十三日・二十四日稽古、本番

二十六日

会場：せんだい演劇工房10 BOX box15

第十回『あなたのやってみたいことを舞台にしてみよう』

一人芝居『人と話せなかった僕』（作・出演：藤宮歩喜、演出：小濱昭博）

二人芝居『箱の中のあなた』（作：山川方夫、潤色・演出：小濱昭博）

三人芝居『でたらめ経』（作：宇野浩二、潤色・演出・出演：兼子はる菜）

会期：七月二十日顔合わせ、稽古八月一日・二日、本番三日

会場：せんだい演劇工房10 BOX box12

第十一回「名作戯曲に触れてみよう」(演出…小濱昭博)

『紙風船』『命を弄ぶ男ふたり』(作…岸田國士)

会期…九月十一日顔合わせ、二十六日・二十七日稽古、

二十八日本番

会場…KOMOBASEsendai

第十二回「朗読劇をやってみよう」(演出…小濱昭博)

『ニヤラトホテブ』(作…H.P.ラヴクラウト)『変身(前半)』(作…フランツ・カフカ) 会期…十一月十二日顔合わせ、二十八日・

二十九日稽古、三十日本番

会場…KOMOBASEsendai

また、宮城県内で演劇活動を行うU-25の学生・若手のための若手による企画団体「ひのき舞台」は、ひのき舞台Version2『永い永い賀一正一』(作・演出…真田鯛)を、十一月十六日・十七日、せんだい演劇工房101BOXbox1で上演している。

仙台演劇研究舎は宮城県高等学校演劇協議会の協力を得て、高校生で創る演劇『わたしの星』(作…柴幸男、演出…大河原準介)を三月十七日、聖和学園高等学校 サールナートホールで上演した。学校横断型の公演であり、演劇部のない学校の高校生も参加しての公演となった。

これらの試みが、将来の宮城県の演劇を作っていくのだと

思った。

鈴^{すず}

鴨^{かも}

久^{ひさ}

善^{よし}

(演劇ジャーナリスト)

洋舞

通常の生活がやっと落ち着いてきたと感じる事もつかの間、能登半島地震や海外の地震も聞かれ、心痛む事も多い年となった。この五年間を考えると、若者や子供たちは行動を随分狭められていた事を感じずにはいられない。コロナ禍で、若者はもっともっと踊っていたかったのに、日本や海外でのプロの夢を断念した者も多くいた。子供たちは、景気後退による物価高騰の影響を受け、芸術を続けられない家庭が増え、パндеミック後の余波は大きいとつくづく感じている。

しかし、将来を担う子供たちのためにも、ここで足踏みをしていてはいけない。国内・海外との制作活動も日々広がっている事は肌で感じている。また日本の状況が変わることにより、考え方を変化させていく必要がある事は間違いないとも感じる。一国主義の国が増えていく事は、グローバルな交流が妨げられ、将来の展望にも影響を及ぼすことになるかと考えると、その様な考え方の国が増える事だけは避けたいものだ。

◎バレエ

○パリエ・クラス・ドウ・バレエ

第二十二回発表会

主宰…辻真弓

会期…二月十八日

会場…名取市文化会館大ホール

演目…クララの夢・パキータ・コンテンポラリー作品

○バレエスタジオ アン・ユニベール

第六回おさらい会

主宰…井出和香子

会期…二月二十四日

会場…広瀬文化センターホール

演目…ヴァリエーション集

○橘バレエ学校 仙台教室

スプリングバレエコンサート in SENDAI

主宰…仙台教室（校長・三谷恭三）

会期…五月三日

会場…日立システムズホール仙台シアターホール

演目：小品集

○ MOMIE DANCE STUDIO

発表会2024

主宰：舩江純子、岸田芳子、他

会期：五月五日

会場：仙台市太白区文化センター楽楽ホール

演目：明日への手紙 他

○ Soki Ballet International

スクールパフォーマンス2024

主宰：左右木健一、左右木くみ

会期：五月十九日

会場：仙台銀行ホールイズミティ21大ホール

演目：コッペリア・ディベルティスマン、小品集

○ さくらモダンバレエスクール

第二十三回発表会

主宰：横田百合子

会期：六月三十日

会場：日立システムズホール仙台シアターホール

演目：小品集

○ エトワールバレエ館

第二十八回ガラ・コンサート

主宰：川村美佐子

会期：七月二十一日

会場：広瀬文化センターホール

演目：バキータ、ヴァリアシオン作品集

○ マイダンスシヨップ

第二十六回発表会

主宰：高橋由紀子

会期：七月二十八日

会場：多賀城市文化センター大ホール

演目：小品集

○ バレエクラスニキオ

第三回発表会

主宰：間中康枝

会期：八月十四日

会場：仙台銀行ホールイズミティ21小ホール

演目：くるみ割り人形、小作品集

○ Maya Ballet Studio

第二回発表会

主宰：中村麻弥

会期：八月十六日

会場：日立システムズホール仙台シアターホール

演目：ドン・キホーテ抜粋、小品集

○ クレールバレエアトリエ

四十五周年記念 第二十回発表会

主宰…高橋厚子

会期…八月二十五日

会場…仙台市太白区文化センター楽楽ホール

演目…コッペリア第三幕、ドン・キホーテ第三幕、フェスティバル

○バレエアーティスト

第二回バレエコンサート

主宰…水間正育

会期…八月三十一日

会場…大和町まほろば大ホール

演目…小品集

○第六十回記念現代舞踊協会東北支部

合同公演 東北ダンス展

支部長…川村泉

会期…九月二十九日

会場…東京エレクトロンホール宮城大ホール

演目…明日への新人・小品集

○まりなバレエスタジオフェ・エ・リ

第十三回おさらい会

主宰…小山真利奈

会期…十月十三日

会場…宮城野区文化センターパトナシアター
演目…小品集

○第二十七回みやぎ県民文化祭

会期…十月十九日～二十日

会場…名取市文化会館大ホール

振付…千尋洋子（仙台ノイエタンス研究所）

演目…みんなの未来に向かって他

振付…高橋厚子（クレールバレエアトリエ）

演目…「コッペリア」抜粋・ヴァリエーション

振付…内海裕子（裕バレエアクト）

演目…「くるみ割り人形」抜粋

他出演団体…ステキな仲間（リクリエーションダンス）

ダイヤモンドガールズ（フラダンス）

WINGS☆チア（チアダンス）

舞台部門では名取市内を中心に三十五団体が、舞踊や郷土芸能、演奏、バレエなどで積み重ねた技術や美しさを披露。展示部門は、絵画や書道、写真、生け花など三百二十八点が並んだ。茶席も設けられ、来場者はわびさびの世界も味わった。

○第五十二回洋舞公演

第四十四回ジュニア洋舞公演

主催…宮城県洋舞団体連合会（会長 横田百合子）

会場…東京エレクトロンホール宮城大ホール

会期…十一月十七日

出演団体…石巻バレエ研究所

ClassicalBalletArtsSENDAI

さくらモダンバレエスクール

佐取純子モダンバレエスタジオ

仙台ノイエタンツ研究所

SokiBalletInternational

NanaBalletStudio

藤井サト子バレエ研究所

県内の七団体が二部構成でクラシックとモダンバレエを交互に上演し、洋舞の多彩な魅力を伝えた。

◎県外組織団体の公演

○バレエの妖精とプリンセス

ヨーロッパ名門バレエ団のソリストたち

主催…河北新報社、光藍社

会期…八月九日（二回公演）

会場…東京エレクトロンホール宮城大ホール

出演…ジョージア国立バレエのニノ・サマダシヴィリ他

クラシックバレエの人気作品を集めた、たくさんの作品を楽しむことができるガラ・コンサート。「レ・シルフィード」全一幕を上演するほか、「白鳥の湖」「くるみ割り人形」「眠れ

る森の美女」など、誰もが一度は聞いたことがある作品の名場面集。バレエ鑑賞が初めての方や、ファミリーでも楽しめる公演となった。

◎コンクール

○第十九回ダンスコンペティションin仙台 2024

主催…DCS実行委員会

共催…宮城県洋舞団体連合会

会期…二月二十四～二十五日

会場…日立システムズホール仙台シアターホール

出場者…百二十八人（クラシック部門）

十人（アンサンブル部門）

百二十一人（モダン部門）

審査員長…尾本安代（クラシック部門）

井上恵美子（モダン部門）

○第十一回NBA仙台バレエコンクール

主催…NBAバレエ団

会期…三月二十六日

会場…日立システムズホール仙台シアターホール

出場者…二百十人（クラシック部門）

○第三十八回東北支部バレエ・コンクール

主宰…公益社団法人日本バレエ協会東北支部

会期…三月三十日～三十一日

会場…名取市文化会館大ホール

出場者…百四十人（クラシック部門）

ゲスト審査員…岡本佳津子、山本康介

○第十九回ALL NIPPON D. A. T. E. クラシックバレエコンペティションMYAGI（通称・伊達コンペティション）

会期…四月一日～三日

会場…日立システムズホール仙台シアターホール

出場者…百九十四人（クラシック部門）

審査員…ローランド・ヤーネス（審査委員長）

オリバー・ホークス（ゲスト）

高橋厚子（実行委員長）

中村道子（実行副委員長）

川村美佐子（プレ）

辻真弓（プレ）



第19回伊達コンペティションワークショップ

○第一回スリーピング・ビューティー全日本バレエコンクールin宮城

ルin宮城

会期…十月二十七日

会場…名取市文化会館大ホール

出場者…百四十五人（クラシック部門）

十人（コンテンポラリー部門）

実行委員長…黛香澄

審査員長…夏山周久

◎団体の活動

○仙台スイングクラブ（代表…尾形奈美）

一九三〇年代に流行したスイングジャズの演奏に身を委ね、ペアがダイナミックなステップを踏むスイングダンスが静かなブームになっている。男女メンバー十人ほどが、ダンス練習に励んでいる。日本人のほかさまざまな外国人も参加し、国際交流が広がっている。

○舞踊家や音楽師らが出演する公演「ココカラ先へ」

一月二十一日、仙台市を拠点に活動する和太鼓チーム「Atoa・アトア」の高橋勲雄・高橋亮・土井冬弥と、サーカスパフォーマーYura、ダンサー蔡曉強、バレエダンサー久寿奏恵、シテ方観世流能楽師津村礼次郎、舞踊家森山開次らがそれぞれ演舞を披露した。音楽と身体表現を融合させた

舞台で、地元の良さを広く発信している。

○「DAN DAN DANCE & SPORTS」

二月三日、仙台大の学生らが大河原町のえずこホールでダンスを発表する公演を開催。仙台大と付属校の仙台大明成高の学生や卒業生、地域の団体など計十八グループ計百人が創作ダンスやバレエなどキレのある演技を披露した。体育大学らしく空手といったスポーツの要素を取り入れたダンスもあり、観客約三百人を魅了した。

○「すんぷちよダンス公演「まにまに」

三月二十三日～二十四日、青葉山公園仙臺緑彩館での公演。代表の及川多香子がプロデューサーを務め、構成・演出は仙台市のダンサー・振付家渋谷裕子が担った。公園を訪れるさまざまな人間模様をテーマに、二歳から四十代までの十八人が新作のダンスを披露した。すんぷちよは、二〇〇八年に発足し十四年にNPO法人化した。障害の有無や年齢を問わず、誰もが芸術に触れ、交流を育める空間をつくっている。

○東北ダンスフェスティバル二〇二四

四月六日～七日、勾当台公園市民広場、いこいの広場、野外音楽堂で開催。ヒップホップやチャダンス、すずめ踊り、花笠踊りなど、さまざまなジャンルのダンスが一堂に集結する踊りの祭典。プロ、アマを問わず多種多様な百二十団体一五〇〇人がダンスを披露するほか、「TRF」のSAMさん、

仙台でも活動するパフォーマンส์集団白Aがゲスト出演した。体験できるレクチャーステージも企画。実行委員長の木下一樹ら実行委が主催し、今年で三回目を迎えた。

○「HIGH SCHOOL DANCE COMPETITION 二〇二四」

スモール部門優勝

四月十四日、仙台城南高校のダンス部が、楽しんで踊るをモットーに、二〇二一年以来二度目の全国制覇を果たした。東京・国技館で行われ、二三年生の女性八名で構成し、ヒップホップダンスで挑んだ。振り付けから三曲を組み合わせた楽曲づくりまで全て自分たちで手掛け、踊りの切れや一体感、構成が評価された。夏にある国内最大規模の大会「ダンススタジアム」を目標に練習に励む。

○YOSAKOIソーランとマーチングバンドによる演技

五月十二日、佐沼高吹奏楽部四十四人が、風変わりとも思えるパフォーマンส์で、市内の記念イベントで演奏した。制服姿で荘厳な吹奏楽を演奏した後、そろいのトロピカルピンクの衣装で、一糸乱れぬ力強いYOSAKOIを舞った。マーチングバンドでは昭和のヒット曲「ヤングマン」を披露。二つの演技経験は吹奏楽での表現力向上につながっている。

○「アーリーサマーフェスタ」

六月九日、フラダンスやタヒチアンダンスのダンサーが集

うイベントが、七ヶ浜町の七ヶ浜国際村であった。ダンス教室「マライノア」が主催し、仙台市などの四団体から約百人が参加し、華やかな踊りを披露した。町を盛り上げようと二〇二一年から毎年開催し、七ヶ浜の一大イベントになることを目指している。

○初代フラガール追悼 感謝の舞

六月二十三日、映画「フラガール」のダンサーのモデルで、昨年亡くなった小野恵美子を追悼する公演が、仙台サンブラザホールであった。まな弟子の我妻純子と三戸礼子が初代フラガールの恩師へ感謝を込め、創作の踊りを披露した。

○仙南五町の中学生が鑑賞

七月十八日、仙南地域広域行政事務組合は、子どもたちに生の芸術に触れてもらおうと、大河原町のえずこホールに地元の中学生を招待して公演鑑賞会を開催した。仙台出身の世界的タップダンサー熊谷和徳とフラメンコギタリスト沖仁による特別ライブ「The Tap meets The Flamenco」を七百二十二人が鑑賞し、タップのリズムに乗せた拍手が響き渡った。

○気仙沼ハワイアンフェスティバル二〇二四

八月二四日～二五日、県内外のフラダンス愛好家が集まりパフォーマンスを繰り広げた。東北各地から二十二団体二百十人が参加し、港町は南国ムードに包まれた。気仙沼市

大島の小田の浜海水浴場の砂浜がステージとなった。米ハワイ島から来日したフラダンス指導者のパフォーマンス、ハワイアンミュージシャンによるライブなどもあった。

○音楽やダンス、能登へエール

九月二十三日、視覚障害のある市民らでつくる仙台市のボランティア団体「名もない花たちの会」は、能登半島地震の被災地を支援するチャリティーコンサートを仙台市福祉プラザで開いた。寄せられた浄財を石川県輪島市に寄付した。出演は、ハワイアン六人組バンド「サウス、シー・J・Bバンド」、フラダンス教室「ナプアアリーフラハラウ」。

○子どもたちに芸術との出会いを

十月二十日、仙台市地下鉄国際センター駅「青葉の風テラス」で、子ども向けコンサートやワークシヨップ「青葉山おんがくひろば」が始まった。来年夏二月まで月一度続け、市が駅北側に整備する新音楽ホールと東日本大震災中心部メモリアル拠点の複合施設をアピールした。初回は仙台フィルハーモニー管弦楽団のメンバーらが、チャイコフスキーの名作バレエ音楽「くるみ割り人形」を室内楽で演奏。バレエも上演した。施設を将来担う子どもたちに、芸術との出会いの場を提供し、創造力などを育んでもらうのが目的。

○タップとジャズの夕暮れコンサート

十二月七日、仙臺緑彩館で、米ニューヨークを拠点に活動

するタップダンサー熊谷和徳とジャズミュージシャンが共演。第一部は、タップの世界トップレベルの円熟した足さばきで深い精神性を表現した。第二部は、ボーカリストのオーブリー・ジョンソンとピアノリストのランディ・イングラムが、ジャズの醍醐味が味わえるステージを展開。途中からタップも加わり、会場を盛り上げた。

○芥川賞作家の短編をモダンバレエに

十二月十四日、仙台市の芥川賞作家沼田真佑の短編小説を、舞踊家佐取純子がモダンバレエにした。「幻日／木山の話」に感銘を受けて企画。「ながれも」の幻想的な自然描写から着想を得て、春の月光と桜をイメージした作品を創作した。沼田も出演し、同作の一部をしみじみと朗読した。

◎個人の活動

○熊谷和徳

仙台市出身の世界的なタップダンサー。二月十一日、仙台市地下鉄国際センター駅二階「青葉の風テラス」で、カジュアルな雰囲気のステージ「MYRHYTHM—マイリズム自分だけの音 リズムをかなでる」を開催。カズタップスタジオ仙台の受講生約三十人らも出演。現在、米ニューヨークに居を構え、日本人と行き来して活動している。ニューヨーク大で研鑽をつんで、二〇一四年フローバート賞を日本人で

初めて受賞した。河北新報社オンラインで、動画「リズムダイアリー」を連載し、タップダンスの魅力を伝えている。

○甲川美智子（ローズマリイバレエスタジオ）

仙台育英学園高校二年生で、三歳からダンスを始め十歳からクラシックバレエやコンテンポラリーダンスを学んでいる。中学一年生で日本国際バレエフェスティバルのクラシック・コンテンポラリー両部門で上位入賞し、ロシアへ短期留学をしている。今回、世界的に有名なコンテンポラリーダンス団体で、オーストラリアのシドニー・ダンス・カンパニー（SDC）の研修生として、プロを目指して二年間研鑽を積み、二年後のオーディションを目指す。

○木下玲香（クレールバレエアトリエ）

三歳でバレエを始める。

二〇〇七年、ダンスコンペティション仙台にて第三位、仙台教育長賞を受賞。

カナダのゴープアレエに留学し、Surrey Dance festival セントロ部門第二位。Royal Academy of dance intermediate に合格。

二〇〇九年、Quinte Ballet School of Canada と公立高校に留学、基礎を学び高校卒業。

二〇一〇年、BalletJorgenCanada に研修生として入団。
二〇一二年、Montreal にソリストとして入団。メキシコ・

カナダツアーに参加。
現在、留学の経験を活かし、仙台市の伊達コンペティションの通訳や実行委員、これから留学する生徒たちのサポートを行っている。



木下 玲香 海賊のソロ



メキシコツアーの公演にて

高^{たか}

橋^{はし}

厚^{あつ}

子^こ

(宮城県芸術協会舞踊部部长)

日舞

●日本舞踊界の動向

コロナの落ち着きで、それまで中止や延期をしていた舞踊会が全国各地で開かれるようになった。宮城県内でも大きな舞踊会の開催が相次ぎ活気を呈した。出演者も裏方も観客も、ほぼ制約や制限がなくなり、華やかな雰囲気に戻ったことは喜ばしい。稽古も制約無くコロナ禍以前に戻った。しかしながら、急速に進む少子高齢化の影響がじわりじわりと表面化してきた。教える側も高齢化し教わる側も高齢化している。将来を担う若手の指導者が極端に少ない。教わる側も高齢者が多く、新しく入る人よりやめていく人の方が多い。残念ながら日本舞踊界の将来は決して明るいとは言えない。日本舞踊界が宮城県はもとより全国的に尻つぼみの形になっている。また、折角舞踊会が開かれるようになっても東京・国立劇場をはじめ地方のホール、文化会館が耐用年数を越えての建替えや再開発などで建替えの為閉場となり使えなくなっているのも深刻な問題だ。

●国立劇場の建設見込みたらず

現在の日本舞踊界の大きな問題の一つに「舞台・劇場がなくなっている」という事がある。

東京国立劇場が老朽化にともない建替えのため閉場したが、その後、物価高と人材不足による建築費高騰のため、建設の見込みが立っていない。国立劇場は日本舞踊公演の殿堂で、平成十年代まではほぼ毎日、舞踊や邦楽の公演が行われていた。閉場まで舞台機構や環境が整った「国立劇場の檜舞台で踊る」事は舞踊家の憧れで有り目標だった。宮城県内の日本舞踊家達も流儀の大きな会で国立劇場の檜舞台で踊ってきた。国の劇場の、建設の見込みが立たないという事は、世界に對し日本の文化水準、文化に對する意識の低さをアピールするようなものだ。なぜ予算がつかないのか非常に疑問である。国立劇場の閉場に伴い、實際舞踊会の公演が開きにくくなっているという声を多く聞く。多くの舞台人、文化人による早期建設の署名活動も始まった。舞踊家が目標や意欲を失い、公演数が減れば、おのずと公演を支える裏方職人にも悪影響を及ぼし日本舞踊の衰退に繋がってしまう。一日も早く建替

えの目処がたつて欲しい。

●宮城県内のホール会館の移転、新築

東京エレクトロンホール宮城（宮城県民会館）やトークネットホール仙台（仙台市民会館）、電力ホールと仙台市内の主要三ホールの移転、建替えが迫っている。東京国立劇場の建て替えのための閉場で、舞踊会を開く適切な会場が無くなる事から日本舞踊が衰退するのではと危惧されているが、宮城県でも時期を同じくして同様の不安と心配が起こっている。今年度は「ホールが使えるうちに」という駆け込みでの大きな舞踊会が開催された。

日本舞踊の会は舞台の寸法や花道の代替え設備、出演者はもとより大勢の裏方の楽屋や大道具転換のためのスペースなど、どうしても会場を選ぶ。仙台の主要三ホールの建替えにより舞踊公演が一定期間上演出来なくなり、それが宮城県の日本舞踊の衰退、舞踊人口の減少に繋がるのではないかと危惧している。継続して開催されていた舞踊会が、会場の都合で一旦中断すると、意外に再開する事は難しくなるものだ。数年後に新しいホールが開場しても日本舞踊の会が果たしていくつ開催されるか危機感をもっている。

●これからも日本舞踊が広がるためには

日本舞踊人口を維持し、更に広げていく為には、若い人、子どもたちに是非日本舞踊を習って欲しいところである。しかしながら、赤穂浪士の討ち入り事件も知らない今の若い人が、自分から「日本舞踊を習おう」とはならないだろう。親の世代である五十歳代、四十歳代ですら歌舞伎や日本舞踊などが身近なものでは無く疎遠なので、子どもに習わせようともなりにくい。かつて生活に密着していた着物や三味線音楽、畳に正座などの日本文化も戦後の生活の西洋化で、いまや一般的には遠い異次元の「特別な」ものになってしまっている。費用面においても、日本舞踊は「月謝が高い」というイメージがあり、舞台出演費も全てがプロによる贅沢な総合芸術ゆえに高額になってしまい、祖父母達から「踊りだけは習わせるなと言われた」という声もよく聞く。たとえ関心があっても習わせようかと思っても、子どもは高額な塾へ通い、スマートフォンにもお金が掛かる。賃金も物価高に見合うほど上がっているとは言えない。かつて日本国民が総中流と言われ経済的余裕があったが、現在は格差が広がりがすぎている。習い事にさく時間もお金も余裕が無くなってきている。そして「迅速な結果」が求められる現代において、日本舞踊は正反對のすぐに結果が出ない修行の世界。踊りを習っても進学や就職の役には立ちがたい。

今や日本舞踊に携わり愛好する人は「絶滅危惧種」になりつつある。

この状況下で日本舞踊の伝統を後世に繋いで行くためには、今にも増して、日本舞踊を知らない人、間違った理解をしている人達に対し「真の日本舞踊の魅力」を伝える努力が必要だ。踊る楽しさ、見る楽しさを伝えてゆく地道な活動が必要だ。一般の人達への「露出」がもっとも必要であろう。そして学校教育で日本の文化を本腰で取り上げて貰いたい。授業の中に西洋音楽の時間や英語の時間があるのだから、日本の文化を教える授業を盛り込んで貰いたいと思う。

筆者の経験で恐縮だが、仙台市内のさる小学六年生の伝統文化の授業に外部講師として歌舞伎と舞踊の話をさせて貰った。小学生にも分かりやすいように、見得の体験や、隈取り、黒衣、踊りの引き抜きなどを説明した。小学生達は目をきらきらさせて話を聞いてくれて、様々な興味の視点から「歌舞伎に行ってみたい」「踊りの会を観てみたい」「引き抜きを実際見たい」「生の三味線を聞きたい」と感想を言ってくれた。この体験から小学生に教育の中で、日常でなくなってしまった日本文化を知って貰う、専門家による授業が絶対必要であると痛感した。学校の教員の先生方は日本文化の専門家でもなく愛好家でもないで、授業を要項に沿ってノルマ的に消化するだけ

の事が多いらしい。それでは子どもたちに「日本文化愛や魅力の熱量」が伝わらない。知らないこと、体験したことのない人が魅力を伝えることは難しい。

小学生に、そして教員の皆様にこそ『専門家による授業』を受けて貰い、本当の良さ、楽しさを知って貰う事が、これからの日本舞踊、いや日本の伝統文化全般に必要なのではないだろうか。舞踊協会をあげて県や文部科学省に働きかけて貰う事を切望したい。

そして日本舞踊界の構造改革。「善い風習、習慣として残さなければならぬもの」「時代に合わせ変えなければならぬこと」といった時代に合わせた改革からも逃れられないと感じている。非常に難しい事だが考え方もやり方も、しきたりも慣習も変えるべき所は変え、変えてはいけない所は守る。大局を見て大鉦を振るうことも微細に見て修正することも必要に応じて行わなければならないだろう。江戸時代から育んできた日本舞踊。宮城県の舞踊家、指導者、愛好家には踊る楽しさに加えて精神性や礼儀、日本の総合芸術としての魅力を消すことなく次代に繋いで貰いたい。

●宮城県内外での舞踊公演の記録

○（公社）日本舞踊協会宮城県支部第三十五回各流舞踊公演

会期…令和六年六月九日

会場…仙台電力ホール

地唄 鐘が岬 支部長 藤間寿和枝

地唄 ゆき 副支部長 吉村花照

長唄 女伊達 水木歌惣

長唄 俄獅子 水木和歌那

長唄 鷺娘 水木歌那夕

長唄 新曲浦島 若柳佳つ尋

長唄 喜三の庭 花柳寿美衡

清元 幻お七 若柳梅京

長唄 雨の四季 特別出演 藤間宝園

長唄 今藤政貴・杵屋栄八郎 藤間恵都子

清元 清元梅寿太夫・清元志寿造 ほか計二十一番

鳴物 望月太喜右衛門

二年に一度催され、県内の各流派を代表する指導者、実力者が踊る宮城県の日本舞踊の祭典。東京の一流の地方の演奏で華やかで格調高い舞踊が次々上演され約一千名の観客を魅了した。

○第四回宮城県各流子ども舞踊大会

会期…令和六年八月十日

会場…仙台市福祉プラザ ふれあいホール

主催…(公社) 日本舞踊協会宮城県支部

共催…宮城県扇の会

(公社) 宮城県芸術協会七社中 十八名参加

日本舞踊を次世代に継承し、子供達の活動の場を広げる主旨で始まった「子ども舞踊大会」。今年も猛暑の中、お稽古を重ね十八人の子どもたちが、舞台でいきいきと成果を披露した。家族や友達に日本舞踊を見て貰う貴重な機会である。日本舞踊の将来のために継続して貰いたい。

○藤間流藤盛会東北支部舞踊公演

会期…令和六年九月十五日

会場…電力ホール

主催…藤間流藤盛会東北支部

長唄『四季の山姥』 藤間香園

長唄『藤娘』 藤間宝園

清元『夕立』 藤間緑音

義太夫『猩々』 藤間緑曄

清元『卯の花』 藤間紋楽

ほか計十二番

前回公演から実に三十年振りの開催。

東北各地で活躍の藤間流の重鎮、実力派の舞台。仙台でも活躍している東北支部支部長・藤間いく子が『たぬき』飄逸に踊る。古典の醍醐味を余すところなく見せる見応えのある舞台だった。

○二世宗家家元花柳寿輔五十回忌 三世宗家家元花柳寿輔十三回忌 追善舞踊会

会期…令和六年九月二十二日

会場…電力ホール

五世宗家家元花柳寿輔・家元後見人二世花柳ツルが出演。花柳東北会を中心に全国から第一線で活躍している花柳流の舞踊家出演。二十二番の、古典の大物が番組に並んだ。宮城県支部役員の花柳寿美衡が事務局の中心として会を取り纏め『角田川』『薫る寿』に出演。長唄、常磐津、鳴物も東京の名手が出演し、家元追善に相応しい大舞台となった。

○第四回双葉那会

会期…令和六年十月六日

会場…電力ホール

会主…水木和歌那

水木歌那夕

故水木歌那女門下で東京水木会理事として活躍している水木和歌那と水木歌那夕が、東京水木会理事長の水木佑歌の特別出演を得て盛大に双葉那会を開催。水木歌周門下、水木歌那女門下も出演し計二十一番の賑々しい会になった。会主の和歌那・歌那夕は特別出演の佑歌と『元禄花見踊』を披露。桜花爛漫の元禄絵巻を華麗に見せた。



長唄 元禄花見踊 水木佑歌 水木和歌那
水木歌那夕

○柳糸会 四十五周年記念舞踊会

会期…令和六年十一月十日

会場…電力ホール

会主…若柳政世／杵屋勝澄弥

若柳諒

清元『お祭り』

若柳彩月

長唄『雨の四季』 会主 若柳政世

長唄『紅葉狩』 会主 若柳諒

賛助出演 若柳吉優

新内『宝船』 特別出演 若柳宗樹

会主若柳政世がこれまでの集大成と開いた四十五周年の会。正派

若柳流代表の若柳宗樹が特別出演し、古典舞踊に長唄の演奏発表まで計十五番。子どもからベテランまで熱演の大舞台となった。会主政世は江戸前の粋を体現。軽妙に『雨の四季』を踊り、諒は江戸時代の芝居味のある古風な『紅葉狩』をたっぷりと古怪に踊って見せた。



長唄 紅葉狩 若柳諒 若柳吉優

○第十二回チャリテイリサیتال 若柳梅京華舞台

会期…令和六年十一月十七日

会場…白石市碧水園

主催…若柳梅京後援会

地域の文化の牽引者として八面六臂の活躍を見せる若柳梅

京が地元白石市碧水園の能楽堂で

踊る毎年恒例のリサیتال公演。

今年は長唄『七福神』と京都から

三曲の名手、小池典子を迎え地唄

舞の難曲『ゆき』に挑戦した。超

満員の観客が見守る中、長唄『七

福神』を素踊りで大きく品格をもっ

て踊る。眼目の地唄『ゆき』は錦

絵の様な美しい形にせつない女心

をのせて梅京の世界を作った。引

きつけられる見事な舞台だった。

○歳末たすけ合い 第六十一回各流舞踊大会

会期…令和六年十二月一日

会場…電力ホール

主催…(公社) 日本舞踊協会宮城県支部

共催…宮城県扇の会

出演…『鶴亀』

藤間宝園・藤間寿和枝社中『七福神』

若柳梅京社中『粋』

水木和歌那社中『島の千歳』

吉村花照社中『都々逸』『五月雨や』『二人が仲』



地唄 ゆき 若柳梅京

『六段くずし』

若柳尋寿賀社中『俄獅子』

花柳寿美衡社中『梅は咲いたか』『河水』『紅葉の橋』

水木歌惣社中『菊づくし』

花柳登代尋社中『さんさしぐれ』『八戸小唄』

『御所車』

水木歌泰社中『お祭り』

ほか計二十社中出演

七百名の観客が師走のひとつとき日本舞踊を堪能した。収益と募金は「NHK歳末たすけ合い」と「宮城県社会福祉基金」、「仙台市社会福祉協議会」へ贈呈された。

大^{おお}須^す賀^か 豊^{ゆたか}

(日舞名取・歌舞伎大向弥生会会員)



水木歌那夕社中



ご挨拶

茶 道

令和五年五月、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが二類相当から五類に移行してから、感染状況が落ち着きをみせ始め、令和六年には日々減少が続いた。

茶会やイベントも再開され、各流派の活発な活動がみられた。宮城県芸術祭茶会は十月輪王寺において、八流派により開催され、多くの客で賑わった。

令和七年五月には「杜の都大茶会」が再開される予定があり、喜ばしいことである。

コロナ感染症拡大前の体制に戻るのなかなか難しいことであろうが、各流派の益々のご活躍を祈っている。

○第二十八回杜の都大茶会

（公社）宮城県芸術協会茶道部（加入十一流派）と（株）河北新報社との共催の「杜の都大茶会」はコロナ禍のため今年も中止となった。

○茶の湯文化にふれる市民講座（表千家同門会宮城県支部）

第九回茶の湯文化にふれる市民講座が、三月三日仙台市福祉プラザにおいて開催された。「千利休の書を楽しむ」手紙か

らみる真筆のすがた」の演題で、講師愛知東邦大学客員教授の増田孝氏による貴重な講演であった。利休直筆の軸を間近で拝見することもでき、とても有意義な講演会となった。

○大崎「雛まつり茶会」

三月三日、大崎市古川の祥雲閣で「雛まつり茶会」があった。新型コロナウイルス禍を経て四年ぶりの開催だった。市内外から一二〇人以上が集まり、早春の茶会を楽しんだ。

○上巳の茶会

仙台市青葉区の片平丁小学校の児童が中心となり、日本伝統文化を楽しむ「上巳の茶会」が三月二十八日、同区の瑞鳳寺であった。一九一四年から続く桃の節句を祝う「上巳の会」の一環で、訪れた地域住民に煎茶をもてなした。

○鹽竈神社観桜茶会

五月三日、鹽竈神社において開催された。表千家・表千家宮城県青年部・大日本茶道学会・織田流煎茶道による茶席は

大勢の客が訪れ大盛會であつた。

○武家の茶の湯樂しむ 仙台「石州流」全國大會

全國の武家に伝わる茶道の流派「石州流」の愛好者が集う第三十一回全日本石州流茶道協會全國大會（協會主催）が九月八日、仙台市青葉区の國際センターで開かれ、全國から約一五〇人が集まり流派の理解を深めた。

○七ヶ国八人日本文化を学ぶ

國際協力機構（JICA）の研修事業で来日しているアンゴラやカンボジアなど七ヶ国八人が九月十一日、白石市白川公民館を訪れ、日本文化を学び、研修では茶道の作法を体験した。

○宮城県芸術協會60周年記念「アートのちから」

十月六日、仙台市青葉区のせんだいメディアテークで行われ、華道や茶道、書道、邦楽・洋楽などの表現者たちが分野を越えたパフォーマンスを繰り広げ、芸術の新たな魅力を市民に届けた。

○令和の大茶會

「史都多賀城万葉まつり」が十月十二日、多賀城市の国特別

史跡「多賀城跡」で開かれた。今年、多賀城創建一三〇〇年を記念し「令和の万葉大茶會」が同時に開催された。

万葉集編纂に携わった大伴家持ゆかりの各地で開かれる大茶會で、今年は次回開催地の奈良県明日香村や福岡県太宰府市など全國八市町村の首長らが参加。城前官衛エリアに茶席が設けられ、一般客も含め計五〇〇人にお茶が振る舞われた。

○宮城県芸術祭茶會

芸術祭の茶會が十月十三日、二十日の両日、仙台市青葉区の輪王寺において開催された。

参加八流派に拡大、天候にも恵まれて想定通りの参加者で盛會裡に終了した。

【茶席】

十三日 濃茶席 表千家 （渡辺宗遊）

薄茶席 遠州流茶道 （高橋宗敬）

薄茶席 玉川遠州流 （渡邊晋祥）

薄茶席 石州清水流 （清水道玄）

二十日 濃茶席 裏千家 （児玉宗睦）

煎茶席 煎茶道三彩流 （星 悠丈）

薄茶席 江戸千家 （菊地純雪）

薄茶席 大日本茶道学会 （木島悠仙）

○白石・裏千家茶道子ども教室

白石市古典芸能伝承の館「碧水園」で茶道を体験する「裏千家茶道子ども教室」が節目の二十年を迎えた。園児と児童ら二十四人が伝統文化に触れ礼儀などを学んだ。

十一月十日には成果を披露する「子ども茶会」が碧水園で開かれた。

○大條家茶室復元

山元町坂元地区の町指定文化財「大條家茶室 此君亭」が十一月二十四日、一般公開された。二月に始まった修復工事では柱など創建時の古材を可能な限り使用し、江戸後期の書院風茶室が復元された。当日は石州清水流により、公開記念式典・茶会が開かれた。



大條家茶室 よみがえる
(提供：河北新報社)



稽古の成果 お点前披露
(提供：河北新報社)

△表彰▽

令和六年度宮城県芸術協会功績者表彰

佐藤宗安 (表千家)

五十嵐宗知 (江戸千家)

菅原桂泉 (煎茶道三彩流)

石川宗悦 (宗偏流)

松田晋好 (玉川遠州流)

石澤晋方 (玉川遠州流)

嘉藤晋紅 (玉川遠州流)

澤田晋緑 (玉川遠州流)

宮城県文化の日表彰(教育文化功労)

相澤仙静 (大日本茶道学会)

△謹弔▽

宮脇宗君 (江戸千家) 令和五年七月十日

安並妙美 (武者小路千家) 令和六年一月五日

三浦緑風 (煎茶道三彩流) 令和六年二月八日

齋藤守保 (武者小路千家) 令和六年五月二十九日

主な茶会と関連事項

一月

七日 織田流煎茶道明徳会初煎会

(ホテルメトロポリタン仙台)

二十一日 裏千家新春の集い並びに茶名披露式

(仙台国際ホテル)

同日 石州清水流初釜茶会（家元邸）

二十八日 織田流煎茶道冬茶会（渡邊南秀）
（緑水庵）

二月

四日 玉川遠州流支部初釜総会

（トークネットホール仙台）

同日 表千家宮城県教授者会 月釜

十日 織田流煎茶道鹽竈公民館まつり茶会（鹽竈公民館）

三月

三日 表千家同門会宮城支部 第九回茶の湯文化にふ

れる市民講座（仙台市福祉プラザ）

同日 裏千家 月釜（輪王寺）

濃茶（小池宗昌） 薄茶（大沼宗律）

十日 表千家宮城県教授会 月釜

十七日 裏千家宮城支部総会（裏千家宮城支部研修道場）

二十四日 石州清水流域下町せんだい日本伝統文化茶会
（仙庵）

四月

七日 表千家宮城県教授者会 月釜

同日 裏千家 月釜（瑞鳳寺）

濃茶（嵯峨宗育） 薄茶（猪股宗鶴）

十四日 玉川遠州流仙台支部創立七十年記念茶会

（松島大観荘）

十四日 裏千家第一回研究会（裏千家宮城支部研修道場）

十五日

二十一日 石州清水流道閉会総会・茶会（家元邸）

同日 大日本茶道学会第54回支部総会

同日 織田流煎茶道多賀城支部茶会（鹽竈神社）

五月

三日 鹽竈神社観桜茶会（鹽竈神社）

表千家

表千家宮城県青年部

大日本茶道学会

織田流煎茶道

五日 表千家宮城県教授者会 月釜

同日 裏千家 大和田宗燭追悼茶会

濃茶（大和田宗由）（輪王寺）

二十三日 裏千家 政宗忌茶会（瑞鳳寺）

濃茶・薄茶（小野宗智）

六月

二日 表千家宮城県教授者会 月釜

五日 裏千家 栄西忌（法要）（瑞鳳寺）

八日

九日 裏千家第二回研究会（裏千家宮城支部研修道場）

十五日 織田流煎茶道 多賀城跡あやめまつり茶会

(多賀城市花あやめ園)

二十三日 玉川遠州流 (渡邊晋祥)

城下町せんだい日本伝統文化未来プロジェクト
茶会 (仙庵)

七月

七日 玉川遠州流支部研修会 (風炉)

(トークネットホール仙台)

同日 表千家宮城県教授者会 月釜

二十一日 裏千家宮城支部臨時総会

(裏千家宮城支部研修道場)

二十八日 表千家宮城県教授者会 七夕茶会

同日 石州清水流朝茶会 (家元邸)

八月

六日 裏千家 仙台七夕茶会 (裏千家宮城支部研修道場)

七日 玉川遠州流 (伏見社中)

十日 七夕茶会 (緑水庵)

二十五日 織田流煎茶道 (渡邊南秀)

夏茶会 (面白庵)

九月

一日 裏千家川井宗樹追悼茶会 (輪王寺)

濃茶・薄茶 (菅野宗悠)

七日 全日本石州清水流茶道協会仙台大会・研修会

(ホテルメトロポリタン仙台)

八日 全日本石州清水流茶道協会仙台大会・歓迎茶会
(仙台国際センター)

十三日

十四日 裏千家第三回研究会 (裏千家宮城支部研修道場)

十六日 織田流煎茶道明德会献茶式

(仙台市戦災復興記念館)

同日 織田流煎茶道秋まつり茶席 (仙台市野草園)

二十三日 第17回大日本茶道学会東北地区大会みちのく例

会

二十九日 江戸千家不白会仙台支部茶会

十月

五日 裏千家 鹽竈神社献茶式・茶会 (鹽竈神社)

濃茶 (岡崎宗豊) 薄茶 (鈴木宗良)

同日 織田流煎茶道鹽竈市芸術文化祭茶席

(鹽竈市一番館遊ホール)

同日 織田流煎茶道 史都多賀城万葉まつり茶席

(多賀城政庁跡)

六日 表千家宮城県教授者会 月釜

十二日 裏千家 令和の万葉大茶会 (多賀城政庁跡)

十三日 第七回宮城県芸術祭茶会

濃茶 表千家（渡辺宗遊）

薄茶 遠州流茶道（高橋宗敬）

薄茶 玉川遠州流（渡邊晋祥）

薄茶 石州清水流（清水道玄）

十四日 一番町ストリート茶会

表千家宮城県青年部

裏千家宮城支部青年部

二十日 第七回宮城県芸術祭茶会

濃茶 裏千家（児玉宗睦）

薄茶 江戸千家（菊地純雪）

薄茶 大日本茶道学会（木島悠仙）

煎茶 煎茶道三彩流（星悠丈）

同日 石州清水流 開山並びに石州毎歳忌法要茶会

（奈良慈光院）

十一月

二日 遠州流 台原老人福祉センター交流祭茶席

（台原老人福祉センター）

三日 織田流煎茶道 多賀城市芸術文化協会文化祭茶席

（多賀城市文化センター）

同日 仙台市泉区文化祭茶席

（仙台銀行ホールイーズミティ21）

遠州流・織田流煎茶道

表千家宮城県教授者会 月釜

同日 大日本茶道学会 多賀城創建一三〇〇年記念第

51回文化祭茶会

同日 裏千家 月釜（輪王寺）

濃茶・薄茶（佐藤宗秀）

十日 表千家同門会宮城支部茶会

十六日 裏千家第四回研究会（裏千家宮城支部研修道場）

十七日 石州清水流 石州公及び二大動閑忌茶会

同日 石州清水流 石州公及び二大動閑忌茶会

（家元邸）

同日 玉川遠州流支部研修会（炉）

（トークネットホール仙台）

二十四日 石州清水流 山元町指定文化財「大條家茶室此

君亭」公開記念式典・茶会

同日 玉川遠州流（渡邊晋祥）

城下町伝統文化未来プロジェクト茶会（仙庵）

十二月

一日 裏千家 茶筌供養・茶会（瑞鳳寺）

濃茶（大内宗久）薄茶（大森宗憲）

七日 玉川遠州流（渡邊晋祥）

年納めの茶会（青峰堂）

児こ

玉だま

宗そう

睦ぼく

（裏千家宮城支部参与）

華道

「華道」は令和六年十二月十六日付「官報」号外二九〇号において、文部科学省告示第一七三号として登録無形文化財に登録された。そして筆者も会員となり理事を務める「日本いけばな伝統文化協会」が保持団体として認定されたことが告示された。

文化財保護法第二条第二項では「演劇、音楽、工芸技術、その他の無形の文化的所産で我が国にとって歴史上または芸術上価値の高いもの」を「無形文化財」と言い、人間の「わざ」そのもの、具体的にはそのわざを体得した個人または個人の集団によって体现されるものである。（公益財団法人日本いけばな芸術協会ホームページより引用）

このことは一般社団法人宮城県華道連盟にとつてその名に「華道」を冠する団体として、とても喜ばしく光榮なニュースとなった。

文化庁広報誌「ぶんかる」の「ぶんかるNews 016」は華道について取り上げている。以下に抜粋する。

登録無形文化財の「華道」は、伝統的な様式に応じて、花

材（かざい）とする季節の草木や花と花器（かき）を選び、花鋏（はなばさみ）等の花道具（はなどうぐ）を用いて、花材の姿や形を整えるための伝統的な技法等により花器に付けることで、自然の風景や季節感等を再構成する表現行為です。草木や花そのものが持つ美しさや命の輝きを通して、いける者が思い描く自然や季節感、あるいは精神性や美意識が表現されます。

今回、「華道」が無形文化財として登録されるとともに、「華道」のわざを体得し精通した人々が構成員となつている団体「日本いけばな伝統文化協会」が、保持団体として認定されることになりました。このことで、華道の伝統的なわざを次世代へ継承するための流派横断的な取組が、新たに実施されていくこととなります。（抜粋終り）

現在の華道界は長期に渡る「冬の時代」の中で、高齢化とそれに伴う後継者不足とで流派数、人口共に減少の一途を辿る。この中にあつてこのニュースは久々の明るいニュースであった。そしてこの取り組みから始まり、ユネスコの世界無

形文化遺産に認定されることを目標として活動を続けていくことになる。また、その先にはそのニュースを起爆剤としての華道文化の再興、そして次世代へバトンを渡すことが最終的な狙いとなるのは明白である。我々、宮城の華道界としてもどの様な活動がその一助となるのか必死に考え、やれることは全てやる！という覚悟を持って臨むことが必要だろう。ただ口を開けて餅が落ちてくるのを待っているだけでは何の意味も無い。足掻き藻掻いたその先にこそ成果を見いだすことが出来ると信じて頑張るのみである。それは何も華道のみに限った話ではあるまい。筆者が執行理事を務める公益社団法人宮城県芸術協会に属する各芸術分野も高齢化と会員の減少が喫緊の課題であることは確実である。この問題に対するには各分野が手を握り知恵を絞り、汗をかいてでも克服に力を合わせる必要があるであろう。

その中では分野の垣根を越えたコラボレーションが盛んになってきたことは大変嬉しく心強い動きだと思っている。

さて昨年の宮城県内の華道に目を向けてみよう。

三月には二年ぶりとなる**第八十一回春のいけばな展**、**宮城の春に華が舞う**がさんだいメディアテークを会場に開催された。手前味噌ではあるが私が理事長となつて初の春のいけばな展、しかも久々に天井の高い六階のギャラリーを使用し

ての会場ということで、大きく見栄えのする作品が会場に並んだ。また理事長・副理事長を初めとして各流派の代表たちが前後期通しで飾る代表者席コーナーや、毎回数十名の観客を集めるデモンストレーションなど、溢れる華道展となった。

また諸流派の展示としては公益社団法人宮城県芸術協会主催の**第六十一回宮城県芸術祭華道展**（十月十二日～十五日）と、それに先だつて十月六日に行われた**協会創立六十周年記念イベント「アートのちから」**があった。

芸術祭華道部には連盟の中からは七流派が加入しているが、華道部以外の他の部門とのコラボレーションがここ数年頻繁に行われており、今回も芸術祭では工芸部の先生方とのコラボレーションとなるデモンストレーションが連日開催され、また記念イベント内では本原遼州流家元の朴澤一草氏と筆者である清泉古流家元西村一観が組み、邦楽部三曲とのコラボレーションの中でいけばなデモンストレーションを行った。とても実りの多い秋となった。

続いて連盟所属の各流派による活動を振り返る。

一月二十日・二十一日に清泉古流は伝統文化こどもいけばな教室終了発表会を開催した。前年に五度の教室で節句やクリスマスなどの季節に合わせた花を学んだ生徒たちは、沢山のお客様に見守られながらいけばなを十分に発表して

いた。

四月十七日から二十二日には池坊がいけばなの根源池坊展「華の軌跡」仙台花展を仙台三越で開催。仏前供花から始まった立て花や、その後の立花、生花、新風体へと繋がる古典花と「ハナノキセキ」というテーマで、現代的に自由にいける自由花の対比に奥深さと未来への希望を感じる華展であった。

五月十三日から十五日には龍生派宮城県支部が、いけばな展 植物の貌をせんだいメディアテークにて開催した。植物の貌（かお）とは、いけばな龍生派の自由花の基本理念で、植物が本来持っている魅力や美しさを発見することで、常識的な見方にとらわれず、新しい植物の表情を見出すもの。その精神が存分に発揮された華展であった。

八月三日、四日には小原流が花の輪・人の輪 みんなの華展 夏をたのしむをせんだいメディアテークにて開催した。

真夏の華展は厳しいものである。先ず花材が保たない、集まらない、そしていける方も暑い！しかしこの華展へ出品された小原流の先生方はそんな苦勞を見せず、涼やかに華やかに素敵な夏のたのしみ方を魅せてくれた。素晴らしいチャレンジであった。

十月十九日から二十一日まで本原遠州流は秋華彩をテーマにした華展をせんだいメディアテークにて開催した。秋の彩りが艶やかな会場にあつて朴澤一草氏の堂々とした大作が見

事であった。

その他にも宮城県内では連盟には所属していない流派、グループなどでの華展、発表会もあり、今後の連携が望まれる。

そして全国的に高校生などの部活動等を通したいけばな競技会があり、宮城県内の学生たちも参加し技を競っているように、心強く、また未来への希望が持てるニュースである。

ポストコロナという言葉もはや聞かれなくなり、コロナ以前よりも活発化しているやにも思われる宮城の華道界。この勢いを止めてはならない。

にし
西村 一 観
むら いっ かん

（宮城県華道連盟 常務理事・清泉古流家元）

(一社) 宮城県華道連盟
第八十二回 春のいけはな展 宮城の春に華が舞う

理事長席 西村一観 清泉古流



副理事長席 三浦景舟 龍生派



常務理事・事務局長 佐藤華畊 道風流



常務理事 倉田豊耀 小原流





デモンストレーションの様子



毎回盛況だったデモンストレーション

メディア芸術

「メディア芸術」とは一体何を指すのだろうか？この言葉は文化芸術基本法にて定義されており、第三章第九条にて「映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」と定義されている。しかし、映画や漫画、アニメーションは商業的なエンターテインメントとしての文脈に沿ったものが多く、それらと現代美術（芸術）と接続するインタラクティブアートやネットアートなどを含む「メディアアート」が混在している。それらを一緒に扱うには、それぞれの文脈で認められる評価基準も、使う言葉も異なりすぎているため、エンターテインメントと芸術は切り分けなければならぬと、芸術批評の分野で指摘されている。

令和四年まで開催されていた文化庁メディア芸術祭は公募作品に賞を与えるものだったが、カテゴリーによって傾向が分かれていた。純粋なメディアアートを対象とする「アート部門」、主に商業的な分野での「エンターテインメント部門」、そして「アニメーション部門」と「マンガ部門」はエンターテインメントと芸術としての作品が混在していた。メディア芸術祭と共に毎年開催されていた、文化庁メディア芸術クリ

エィター育成支援事業は若手クリエイターの創作活動を支援・育成するものである。これはもともと、メディア芸術祭の受賞者のみを対象としていたが芸術祭終了後、受賞の有無に限らず、主に四十代までの若手クリエイターを対象に一般公募を行っている。ここでの募集対象は「メディア芸術分野（メディアインスタレーション、ゲーム、アニメーション、マンガ等）」の新しい作品創作の企画」となっており、エンターテインメントと芸術の区別はない。しかし令和六年度の「国内クリエイター創作支援プログラム」の採択者を見ると、石橋友也、大高那由子、木原共、藤堂高行、深谷莉沙など、芸術の文脈に接続した作家が採択されている。そのため、現在文化庁が対象とする「メディア芸術」は芸術の文脈を持つものに比重が置かれているようにみえる。

それでは、宮城県における「メディア芸術」はどのような様子であるか。筆者は仙台市で生まれ育ち、音大で電子音楽音楽の作曲を学び、平成二十八年に情報科学芸術大学院大学にて「メディア表現」の修士を取得している。専門はコンピュータ音楽の作曲とメディアアートであり、平成二十八年からは

仙台に戻り芸術活動を行っている。その活動を通じて、宮城県で開催される音楽や美術、演劇、ダンス、映画など幅広い領域のイベントに参加しているが、残念ながらメディアアートと呼べる作品の展示・発表はこれまで殆ど観察できていない。宮城県芸術選奨では毎年、美術・文芸・音楽・演劇・舞踊・メディア芸術の各分野において、活発な創作活動や優れた作品等を発表した個人・団体に對し賞が送られる。令和以降の「メディア芸術」部門で芸術選奨もしくは芸術選奨新人賞を受賞した個人・団体は、NUMBERS、鈴木竜也、スズキスズヒロ、我妻和樹、仙台短篇映画祭実行委員会、山寺宏一、佐藤ジュンコである。分野を分けると、漫画、アニメーション、ドキュメンタリー映画、映画祭、声優が取り上げられており、エンターテインメントと芸術のそれぞれの文脈、もしくは混在させて活動する個人・団体が選ばれている。しかし純粹な芸術としての「メディアアート」で活動する者は選ばれていないことが分かる。これらのように宮城県においてのメディアアートの活動は非常に件数が少なく、それについて動向を述べることは難しい。

そのため本稿では、様々な領域での活動を取り上げ、その作品のメディアウム（「メディア」の単数形。媒体）が、どのように扱われ、表象を行っているかについて見ていく。つまりメディアアートではない様々な芸術活動に對し、メディアアア

ト批評の視座を通じて観察することで、宮城県における「メディア芸術」の動向を述べる。

二〇二三年一二月八日から二〇二四年一月三〇日にかけて、塩釜水産物仲卸市場にて、平野将麻の個展「いまここにいる、わたし（たち）へ」が開催された。この個展は塩釜水産物仲卸市場の最奥にある「チャレンジショップ」という、市場内で新しい店舗やイベントを試験的に開催できるスペースにて開かれた。

この市場では水産物を販売しており、場内で販売されている刺し身を購入してオリジナルの海鮮丼を作り食べることができる。平野はこの市場という場に溶け込んだインスタレーションの形で発表を行った。

水産物が入っていたと思われる業者名の書かれた発泡スチロールが山積みになされ、アルミシートや、プラスチックのコテナ、ビニール、段ボール、イカの甲、スコップなどが素材になっている。一見するとその空間は残留物のある空きテナントや倉庫のように見えるくらい、市場という空間に自然に溶け込んでいる。しかし細部に目を向けると不自然に開かれた発泡スチロールのケースや、スプレーで描かれた線によって作品であることが明示される。平野の絵画は3Dと2DのCGの要素を組み合わせることで、立体感と平面性の境界を

揺らがせる特徴がある。今回のインスタレーション空間にもそのエッセンスを感じることができる。発泡スチロールやアルミシートといった素材は、CGのマテリアルを現実空間に置き換えたかのように配置され、物質性とデジタル空間の境界を模索する表現として用いられている。さらにこれらの素材を空間的に繋げるようにスプレーで線が描かれる。これによって3Dのオブジェクトが、線という2Dの表現と交わり、3Dと2Dの視点を重ねてみることができる。平野は塩釜水産物仲卸市場という場所の物質性と自身の作風を融合させることで、現実とデジタル空間の境界を探索する新たなインスタレーション表現を試みた。



「いまここにいる、わたし(たち)へ」展示の様子

一月二十七日から二十八日にかけて、宮城野区文化センターパトナシアターにて、大久保雅基による舞台《私達はどのようにして私達であるか》が上演された。本作は、舞台における人間性を排除することで、その本質を問い直すものである。通常の舞台では、人間がパフォーマンスを行い、音楽は機械が再生するが、本作においてはその関係を逆転させている。人間のパフォーマンスは記録された映像で再生され、音楽はミジンコの動きをリアルタイムに取得して生成される。そのため、舞台には人間は登場せず、非人間のミジンコのみが存在する。人間の動きはモーショントラッキングで記録され、アバターを通じて演じられ、声も人工音声に置き換えられる。声の音量やアクセント、声色は失われ、動きの解像度もモーションセンサーの制約を受ける。鑑賞者はこの変換された表現を受け入れることで、役者の本来の声や動きを想像し、その差異が生む人間性を感じることができる。

また、本作はストーリーを通じて、役者としてのキャラクターと個人としてのキャラクターの曖昧な二重性を提示する。VTuberのヒラタクワガタの平田クワと、モリアオガエルの森愛オガが劇場でコラボ配信を行う。VTuberはアバターを纏いながら配信を行うが、時折設定と異なる個人的な話をするところがあり、鑑賞者はその矛盾を楽しむ。本作では、最初台本に沿って演技しながら、徐々に役者に進行を委ねるこ

とで、VTuber特有のキャラクターと個人の曖昧さを浮かび上がらせた。この構造を通じて、舞台上のパフォーマーは本来どのような存在であるべきかを問うものであった。



《私達はどのようにして私達であるか》
上演の様子

六月八日から十六日にかけて、ビルド・フルーガスにて山田なつみ写真展「Camera Mia - 私の部屋（カメラ）」が開催された。ここでは、山田が平成二十四年から令和六年にかけて発表した「フォルチュネ島」「TOKYO（常世）」「UBIQUITÉ ユビキテ」から選ばれた写真が展示された。山田はパリ在住時代にはカラフルで鮮やかな写真を撮っていたが、原発事故の一年前に福島へ移住してからは、東北の原風景と民族文化に魅せられ、それからモノクロの表現にシフトした。彼女は風景や花を対象に撮影することもあるが、その奥にある「目

に見えないもの」を求めて写真と向き合ってきたという。「カメラ」とはイタリア語で「部屋」を意味し、カメラという装置を通じて見つめる場所（部屋）が、彼女の内面や記憶を映し出す空間として機能することを示唆している。そのため、展示される作品は、ある何かの対象を撮影したものであるが、その背景に作者の心情などが投影されている。

「TOKYO（常世）」シリーズは、山田の二度の流産の経験が元になっている。常世とは古代日本人の観念のなかに生まれた別世界で、祖霊の国・生命と豊穡の源泉地とされる。山田は亡くなった子どもたちの魂に近づけるように思い、山深い柚道に入り込み、そこでみた白昼夢を見ているような信じがたい風景や風習をカメラに収めたという。

「UBIQUITÉ ユビキテ」シリーズは電信柱の虎柄を写している。この作品群は、自分が主婦という立場であることを反映させている。ニュータウンに一軒家が建つごとに増えていく電信柱は、そこに住む主婦を象徴しているように見えたという。主婦とは、夫が社会に出て活動するために、家庭内を守り続けるインフラである。虎柄の電信柱は無数に存在する中で個性を主張する存在であると同時に、経年劣化によってその存在感が薄れていく。これは家庭内で役割を果たしながらも、個としての存在を消されがちな主婦の姿と重ね合わせられる。山田の作品は、個人の内面的な体験や社会的な立場

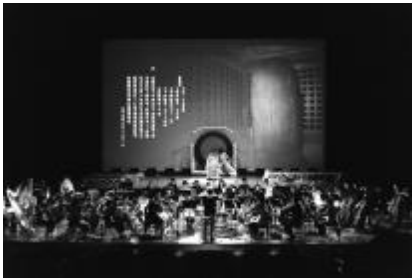
を被写体と重ね合わせることで、可視化されない感情や存在を写し出す試みといえる。



「Camera Mia - 私の部屋 (カメラ)」
展示の様子

十一月四日、多賀城市民会館大ホールにて、川島素晴作曲のオペラ「いしぶみの譜―多賀城創世記―」が上演された。本作は多賀城創建千三百年を記念して作られた作品で、多賀城をテーマにしたオリジナルの新作オペラである。川島は「アクシオン・ミュージック」を提唱している。これは音楽の演奏行為そのものが視覚的なパフォーマンスとして観客に提示されることを意図した作品群を指す。特に川島はそのなかに笑いの要素を組み込み、演奏行為とユーモアを結びつける点が特徴である。しかし本作では、笑いの要素を排除し、壮大な歴史物語を描くことに専念した。

このオペラのストーリーは「石」を巡って繰り広げられる。太古の昔から存在した「石」から、陸奥国府多賀城が創建され、多賀城碑と呼ばれる「石」までを巡って、永遠の命を持つ「火の鳥」が地球と人類の歴史を見守り続ける。川島は、この多賀城碑である「いしぶみ」に文字を刻んでいるところを想像し、バストラムに石を置き、それを木槌で叩くリズム主題を作ったという。この主題は近年の川島作品でも取り入れられており、生命を象徴するものとされる。揺らぎを伴いながら段々と音の個数が増加していく。この主題が作中に何度も登場し様々な楽器によって変奏されることで、石と人類の関係を軸に歴史が語られていく。



「いしぶみの譜 - 多賀城創世記 -」上演の様子
(提供：多賀城創建 1300 年記念事業実行委員会
／ Photo by nookaphoto)

オペラというものは音楽、文学、演劇、美術、舞踊など、様々な芸術が一つになって作られる総合芸術である。十六世紀末にイタリアのルネサンス運動の中で誕生してから、現在まで世界各地で新作が創られ上演されている。現代では様々なテクノロジーがオペラに用いられ、音響での拡声や、プロジェクターによる投影、空間を彩る照明なども一体となって創られる。本作でも様々なジャンルの芸術が演出の志賀野桂一によって作られた。映像は物語を直接表現するのではなく、多賀城の現在の風景を投影することで、観客に歴史への想像を促す役割を果たしていた。本作では音楽、映像、ダンスといった様々な表現形式が、それぞれ独立した解釈を持ちながら同時に存在することで、多賀城の歴史に対する多層的なアプローチを示していた。

大 おお
久 く
保 ぼ
雅 もと
基 き

(作曲家・アーティスト)

広域文化団体の 文化活動記録の

(公社) 宮城県芸術協会
宮城県文化協会連絡協議会
(公社) 日本舞踊協会宮城県支部
宮城県吹奏楽連盟
宮城県合唱連盟
宮城県おかあさん合唱連盟
仙台三曲協会
宮城県能楽振興協会
宮城県洋舞団体連合会
宮城県歌人協会
宮城県俳句協会
宮城県川柳連盟
宮城県詩人会
(一社) 宮城県華道連盟
宮城県民芸協会
(公財) 日本民謡協会宮城県連合会
全国民謡連盟宮城県連合会
宮城県民謡道連合会
宮城県写真連盟
宮城県文化財友の会

県内の文化団体のうち二十団体を
掲載。
(令和六年十二月三十一日現在)

■凡 例

- ①…………… 所在地
②…………… 電話番号
③…………… 代表者
④…………… 構成員数
⑤…………… 構成員の資格
⑥…………… 創立年月
⑦…………… 定期刊行物

公益社団法人宮城県芸術協会

〒九八〇―〇八〇二 仙台市青葉区二日町十六―一

二日町東急ビル五―B

〇二二―二六一―七〇五五

理事長 吉田 利弘

千七百九十一人

正会員になるためには会員二名以上の推薦を受け、理事

会の承認を得なければならない

昭和三十九年五月

機関誌「はなやま」(年二回発行)

「宮城県文芸年鑑」(年一回発行)

開催月日 催 事 名 場 所

3 / 16 第十回子供の邦楽コンサート 仙台市福祉プラザ

5 / 9 宮城県芸術協会創立六十周年 仙台市戦災復興記念館
記念式典

8 / 10 第四回宮城県各流子ども舞踊大会 仙台市福祉プラザ

11 / 6 ~ 10 第五回杜のみやこ工芸展 T F U ギャラリーミニモリ

11 / 12 ~ 12 / 20 書道部による県内小中学校の 県内小中学校十校
講師派遣事業

11 / 29 「宮城県芸術協会六十周年史」
発行

12 / 3 ~ 9 第六十一回宮城県芸術祭 東京エレクトロンホール宮城
絵画展受賞者作品展

12 / 16 ~ 22 第十二回定禅寺フォトコンテスト展 東京エレクトロンホール宮城

〈第六十回宮城県芸術祭〉

2 / 11 第四十四回音楽コンクール予選 日立システムズホール仙台

3 / 10 第四十四回音楽コンクール本選 日立システムズホール仙台
(ピアノ部門)

3 / 17 第四十四回音楽コンクール本選 日立システムズホール仙台
(ヴァイオリン部門)

〈第六十一回宮城県芸術祭〉

9 / 28 開会式 せんだいメディアアテーク

9 / 28 ~ 10 / 1 写真展 せんだいメディアアテーク

9 / 28 ~ 10 / 1 フォトサミット in Sendai 2024 せんだいメディアアテーク

9 / 28 ~ 10 / 1 絵画展 (公募の部) せんだいメディアアテーク

9 / 28 ~ 10 / 1 彫刻展・彫刻公募展 せんだいメディアアテーク

9 / 29 第四十四回音楽コンクール 日立システムズホール仙台
ガラコンサート

10 / 3 文学散歩 宮城県・涌谷方面

10 / 5 ~ 8 絵画展 せんだいメディアアテーク

10 / 6 創立六十周年記念イベント せんだいメディアアテーク

10 / 12 ~ 15 「アートのちから」 せんだいメディアアテーク

10 / 12 ~ 15 華道展 せんだいメディアアテーク

10 / 12 ~ 15 書道展 せんだいメディアアテーク

10 / 13 ~ 20 茶会 輪王寺

10 / 15 「宮城県文芸年鑑」発行

10 / 26 文芸祭 東京エレクトロンホール宮城

11 / 6 ~ 10 工芸展 T F U ギャラリーミニモリ

11／9 音楽会
 11／17 長唄演奏会
 12／3 表彰式
 日立システムズホール仙台
 トークネットホール仙台
 トークネットホール仙台

宮城県文化協会連絡協議会

⑦ 千九八一―二一九二 丸森町字鳥屋二二〇
 丸森町教育委員会生涯学習課内
 ④ 〇二二四―七二―三〇三六
 ⑤ 会長 砂澤 守
 約三万三千人
 ⑥ 宮城県内市町村を単位とした文化・芸術協会
 昭和五十三年六月
 ⑧ 会報「くぐなり」(年一回発行)

開催月日 催 事 名 場 所

8／14 宮城県文化協会連絡協議会総会 石巻マルホンまきあーと
 テラス
 9／18 宮城県文化協会連絡協議会運営 気仙沼市はまなすの館
 研修会
 10／19～20 第二十七回みやぎ県民文化祭 名取市文化会館

本会は、宮城県内の文化(芸術)協会相互の連絡調整を図り、その発展を助長するとともに文化芸術活動を通じて県民文化の振興と向上に寄与することを目的として活動している。

大きな事業として、加盟文化団体の作品や演目を発表する「みやぎ県民文化祭」を主催し、各加盟協会の活動事例報告や意見交換の場としての「文化協会運営研修会」をブロックごとに持ち回りで開催し、交流を図っている。

各地域での文化活動はコロナ禍を乗り越え以前の活気を取り戻しつつあり、やつと日常が戻ったように感じる。

文化活動を行うきっかけは目標や使命感など様々ではあるが、いずれも人生を豊かにする活動だと思っており、どの会員もやりがいや楽しさを持って生き生きと活動している。

(会長 砂澤 守)

公益社団法人日本舞踊協会宮城県支部

⑦ 千九八〇―〇〇二三 仙台市青葉区北目町四―三―九〇一
 (藤間寿和枝方)
 ④ 〇二二―二二―一六七〇一 (藤間寿和枝方)
 ⑤ 支部長 藤間 寿和枝
 ⑥ 百八十五人
 ⑧ 公益社団法人日本舞踊協会会員であるとともに宮城県支部
 会員(扇の会会員含む)、師範名取・普通名取であること
 ⑨ 昭和三十五年十一月

開催月日 催 事 名 場 所

6／9 (公社)日本舞踊協会宮城県支部 電力ホール
 第三十五回各流舞踊公演

8 / 10

(公社) 日本舞踊協会宮城県支部 仙台福祉プラザ

第四回宮城県各流子ども舞踊大会 ふれあいホール

12 / 1

(公社) 日本舞踊協会宮城県支部 電力ホール

歳末たすけ合い第六十一回各流

舞踊大会

宮城県支部加盟の各流派は、年間事業に参加し活動している。

又日本舞踊協会本部の事業への参加協力、並びに県下関連団体との提携を図り、地域文化の発展に寄与する事に努めている。

令和七年開催予定行事

八月十日 「第五回宮城県各流子ども舞踊大会」

十二月十四日 (公社) 日本舞踊協会宮城県支部

「第六十二回各流合同歳末たすけ合い舞踊大会」

(副支部長 吉村 花照)

宮城県吹奏楽連盟

〒九八一〇九〇四 仙台市青葉区旭ヶ丘三―三四―一〇

キャピタル旭ヶ丘三〇二

〇二二―二七五―六七六一

会長 鈴木 芳夫

八千九百六十人(三百二十九団体)

宮城県内の小学校、中学校、高等学校、大学、職場、一

般の吹奏楽団体

昭和三十三年
すいそうがく(全日本吹奏楽連盟発行)(年四回発行)

HP 「宮城県吹奏楽連盟」 www.aiba.or.jp/miyagi/

Facebook 「楽器BANK 宮城県吹奏楽連盟」

X, Instagram 「宮城県吹奏楽連盟」

開催月日 催 事 名 場 所

1 / 13・14 第五十七回宮城県アンサンブル トークネットホール仙台

コンテスト

3 / 2 第十回六十二万石吹奏楽祭 東北大学百周年記念

会館川内萩ホール

5 / 18・19 第三十九回宮城県管打楽器 仙台市立上杉山通小学校

ソロコンテスト予選

6 / 2 第三十九回宮城県管打楽器 中新田バツハホール

ソロコンテスト

8 / 1・4 第六十七回宮城県吹奏楽 仙台銀行ホール

コンクール

9 / 15 第四十三回全日本小学生バンド カメイアリーナ仙台

フェスティバル宮城県大会

9 / 15 第三十七回全日本マーチング カメイアリーナ仙台

コンテスト宮城県大会

10 / 6 第四十三回全日本小学生バンド セキスイハイムスーパ

フェスティバル東北大会

10 / 6 第三十七回全日本マーチング セキスイハイムスーパ

コンテスト東北大会

アリーナ

11／10 みやぎスーパースターバンド 東北大学百周年記念

第二十八回演奏会 会館川内萩ホール

12／22 第四十六回東北吹奏楽の日 仙台銀行ホール

演奏会 イズミティ21

令和六年は、コロナ禍以前に開催していた事業を全て再開することができた。吹奏楽コンクールは、改修を終えた宮城県吹奏楽の聖地とも言える「仙台銀行ホールイズミティ21」で三年ぶりに開催し、数多くの方に足を運んでいただくことができた。「みやぎスーパースターバンド演奏会」や「六十二万石吹奏楽祭」などの大人が出演するイベントも再開し、小中高生が数多く訪れることで、吹奏楽を通じた世代間の交流を深めることもできた。どの事業も大盛況で終わることができ、宮城の吹奏楽が復活したと言える一年だった。

少子化が叫ばれる今日だが、令和七年度も多くの事業を通して、吹奏楽の裾野を広げていきたいと考えている。

今後の事業については、「宮城県吹奏楽連盟ホームページ」と「Facebook 宮城県吹奏楽連盟」に加え、令和六年より始めた公式X、Instagram等でも随時お知らせする。

(事務局長 永谷 聡)

宮城県合唱連盟

〒九八〇—〇〇〇—一 仙台市青葉区中江二—二四—五

(八巻輝子方)

〇九〇—二九五七—二九七五

理事長 水口 裕子

千九百五十人

宮城県内の中学校・高等学校・大学・職場・一般の合唱団

昭和二十四年五月

ハーモニー(全日本合唱連盟発行)(年四回発行)

開催月日 催事名 場所

1／7 第二十五回男の合唱まつり 日立システムズホール仙台

inみやぎ

第一部(コンサート)

第二部(交流会)の開催は中止

5／11・12 第七十六回宮城県合唱祭 日立システムズホール仙台

講師…三野宮まさみ 村松玲子

兵庫県合唱連盟有志合唱団を

招聘

8／3・4 宮城県合唱講習会 仙台市戦災復興記念館

講師…雨森文也

内容…合唱団のための講座

8／24・25 第七十六回全日本合唱コンクール 仙台銀行ホール

宮城県大会

24日…小学生・高等学校部門

25日…中学校・大職一般部門

審査員…戸崎文葉 名島啓太

宮本益光

9 / 20 ~ 22 第七十六回全日本合唱コンクール 仙台銀行ホール

東北支部大会 イズミティ1

【宮城県合唱連盟主管】

審査員・長谷川 牙子 福永一博

土田豊貴 松井慶太

上西一郎

12 / 21・22 第三十六回宮城県合唱アン 日立システムズホール仙台

サンプルコンテスト

21日・小学校・高等学校部門

22日・中学校・大職一般部門

審査員・吉川和夫 福永一博

北條加奈

全日本合唱コンクール・アンサンプルコンテストの審査結果や今後の行事等については、宮城県合唱連盟のホームページをご確認いただきたい。

(事務局長 八巻 輝子)

宮城県おかあさん合唱連盟

所 千九八一—〇九二三 仙台市青葉区東勝山三—三五—七〇一

(平間麻里方)

電 〇九〇—四六三七—三五四九 (平間麻里方)

代 理事長 原田 博之

数 四百三十人

格 宮城県内の女声合唱団で当連盟に加入していること

昭和四十八年十月
刊 機関紙「うたごころ」(年二回発行)

開催月日 催事名 場所

2 / 22 総会及び第一回幹事会 仙台市戦災復興記念館

5 / 25 第二回幹事会 仙台市戦災復興記念館

機関紙「うたごころ」

第九十四号発行

7 / 6 第五十二回宮城県おかあさん 日立システムズホール仙台

合唱祭

9 / 14 合唱講習会 日立システムズホール仙台

11 / 9 第三回幹事会 日立システムズホール仙台

機関紙「うたごころ」

第九十五号発行

定例理事会(年七回)

仙台三曲協会

所 千九八二—〇〇二二 仙台市太白区長町南三—一八一—

(渡辺悦子方)

電 〇二二—二四七—八五二八 (渡辺悦子方)

代 会長 渡辺 悦子

数 四百四十八人

格 協会所属の各流派会員で教授資格を有する者並びに日本

音楽を愛好する者

昭和三十年十月

| | | | |
|----------|-----|---------------------------|----------------------------|
| | 開催日 | 催事名 | 場 所 |
| ㊦ | | 仙台三曲協会三十年史（昭和六十二年九月発刊） | |
| | | 仙台三曲協会年史・続編一（平成三年十一月発刊） | |
| | | 仙台三曲協会年史・続編二（平成八年八月発刊） | |
| | | 仙台三曲協会年史・続編三（平成十三年十一月発刊） | |
| | | 創立五十周年記念年史（平成十八年十一月発刊） | |
| | | 仙台三曲協会年史・続編五（平成二十四年十一月発刊） | |
| 1／19 | | 三曲鑑賞・体験授業 | 仙台市立立町小学校 |
| 3／16 | | 第十回子供の邦楽コンサート | 仙台市福祉プラザ |
| 6／2 | | コンサート 水野箏曲学院 | 日立システムズホール仙台 |
| | | 仙台スタジオ | |
| 8／11 | | たけくま和楽団ライブXIV | 仙台銀行ホール |
| 10／6 | | 宮城県芸術協会六十周年記念演奏会 | イズミティ21 |
| 10／12 | | 第三十七回都山流宮城県支部尺八演奏会 | せんだいメディアアテーク |
| 11／6、7 | | 尺八体験授業 | 日立システムズホール仙台 |
| 11／14、17 | | 尺八体験授業 | 仙台市立台原中学校 |
| 11／16 | | 和洋響鳴Ⅱ | 仙台市立館中学校 |
| 11／24 | | 杜に吹く風 | 仙台市太白区文化センター |
| 11／26 | | 三曲鑑賞・体験授業 | 岩沼市民会館大ホール |
| 12／1 | | 第六十六回仙台三曲協会定期演奏会 | 加美町立東小野田小学校 トークネットホール仙台 |

| | | | |
|--------|--|------------|------------|
| 12／3 | | 三曲鑑賞・体験授業 | 仙台市立鶴谷東小学校 |
| 12／4、9 | | 尺八体験授業 | 仙台市立郡山中学校 |
| 12／10 | | 箏体験授業 | 仙台市立荒町小学校 |
| 12／16 | | 箏体験授業（6年生） | 仙台市立幸町小学校 |
| 12／17 | | 三曲鑑賞・体験授業 | 仙台市立西中田小学校 |
| 12／20 | | 箏体験授業（4年生） | 仙台市立幸町小学校 |

（仙台三曲協会名誉理事 宮澤 寒山）

宮城県能楽振興協会

| | |
|---|--|
| ㊦ | 〒九八一八〇〇二 仙台市泉区南光台南三丁目二二一九（鈴木敏彦方） |
| ㊦ | 〇二二二五二二一四七〇（鈴木敏彦方） |
| ㊦ | 会長 鈴木 敏彦 |
| ㊦ | 六百七十人 |
| ㊦ | 謡曲・仕舞・囃子・狂言の指導者及びその指導者に師事する者 |
| ㊦ | 昭和四十九年六月 |
| ㊦ | 仙台市能楽振興協会のホームページで公開中 |
| ㊦ | HP https://sendai-nogaku.org/ |

| | | |
|------|-------------------------------|-----------|
| 開催日 | 催事名 | 場 所 |
| 2／10 | 碧水園能 喜多流能「山姥」 和泉流狂言「清水」 | 白石市碧水園能楽堂 |

3
10
6
8

謡曲大会 素謡十一番

能—BOX

観世流能公演

白石市碧水園能楽堂

観世流蠟燭能「葵上」

和泉流狂言「成上」

6
14

登米中学校能体験学習前講義

登米市立登米中学校

6
21

登米中学校能体験学習

伝統芸能伝承館「森舞台」

9
14

第四十七回登米薪能

伝統芸能伝承館「森舞台」

能「羽衣」狂言「末廣がり」

10
6

瑞鳳殿秋の能楽

瑞鳳殿特設舞台

仕舞七番、独吟一番

10
6

第二回喜多流能公演

伝統芸能伝承館「森舞台」

能「小鍛冶」狂言「鐘の音」

11
10

囃子と仕舞の会

能—BOX

舞囃子二番、居囃子二番、

仕舞十番

11
23

第二回仙臺能

日立システムズホール仙台

金春流能「松風」

大蔵流狂言「長光」

○仙台市

仙台市能楽振興協会の事業

一般市民を対象とした「能のかけこ体験講座」が、喜多流、宝生流、金春流の三流において一年間で八回、それぞれ発表会を含めて全六日のコースで、能 BOXにおいて実施された。

○白石市

白石市歴史文化を活用した地域活性化実行委員会事業であ

る「白石市・子ども能楽教室」が、白石皐風会主催で月二回・年間十六回碧水園能楽堂で開催され、延べ百八十一人の子供たちが参加した。

○登米市

一 登米謡曲会の月並み会が伝統芸能伝承館「森舞台」及び登米公民館において、計十二回行われた。

二 登米謡曲会主催で登米市の各施設において、登米能、狂言、謡の指導や鑑賞および公演が行われた。
(会長 鈴木 敏彦)

宮城県洋舞団体連合会

〒九八一—三三〇一 仙台市泉区泉ヶ丘三一四—二二一

電話 〇二二—三七三—五五一三

代表 会長 横田 百合子

数 八団体 九人

格 宮城県内に在住し、洋舞活動をしている団体の主宰者及び指導者

刊 昭和四十五年十一月

脚 昭和四十五年十一月

洋舞公演十年の歩み（昭和五十四年四月発行）

洋舞公演二十年の歩み（平成三年三月発行）

洋舞公演三十年の歩み（平成十二年十月発行）

洋舞公演四十五年の歩み（平成二十八年三月発行）

開催日 催 事 名 場 所

2 / 24 第十九回全国ダンスコンペティ
ション in 仙台 日立システムズホール
仙台シアターホール

2 / 25 第十九回全国ダンスコンペティ
ション in 仙台 (クラシック部門) (アンサンブル部門)
日立システムズホール
仙台シアターホール

11 / 17 第五十二回洋舞公演 東京エレクトロンホール宮城
第四十四回ジュニア洋舞公演 (会長 横田 百合子)

宮城県歌人協会

〒九八二〇二五二 仙台市太白区茂庭台一丁目一四―二四

(佐野督郎方)

〇二二―二八一―三九〇八 (佐野督郎方)

会長 佐野 督郎

加入団体…十一団体 (百七十七人) 個人会員…二十六人

宮城県内の短歌結社等の団体に所属する者、又は宮城県

内に在住し活動する歌人

昭和二十四年四月

宮城県歌人協会年報 (年一回発行)

第三十五回宮城県短歌賞作品集二〇二四 (年一回発行)

開催日 催 事 名 場 所

6 / 11 第七十一回宮城県短歌大会 仙台文学館

10 / 5 第五十一回東北短歌大会 東京エレクトロンホール宮城
11 / 24 第三十五回宮城県短歌賞 東京エレクトロンホール宮城
授賞式・歌人の集い (会長 佐野 督郎)

宮城県俳句協会

〒九八三〇八五二 仙台市宮城野区榴岡四―一―一七〇二

(篠沢亜月方)

〇二二―三五五―八七五七 (篠沢亜月方)

会長 高野 ムツオ

二百六十七人

宮城県在住及び出身者など、本会の目的に賛同する者

昭和二十九年六月

宮城県俳句協会会報 (年三回発行)

開催日 催 事 名 場 所

1 / 8 新春賀詞交歓会 仙台市シルバーセンター

2 / 25 定時総会 東京エレクトロンホール宮城

4 / 29 第五十四回宮城県俳句大会 東京エレクトロンホール宮城

11 / 10 第七十回松島芭蕉祭・全国 瑞巖寺・松島町文化観光
俳句大会 交流館

第四十八回宮城県俳句賞は該当者なし。準賞には宮野かほ
る、浅川芳直、坂下遊馬。

(幹事長 篠沢 亜月)

宮城県川柳連盟

〒九八〇―〇〇一一 仙台市青葉区上杉二丁目四―八

朝日プラザ上杉六〇七 川柳宮城野社内

〇二二―二二七―〇五七五

理事長 雫石 隆子

二百三十人

加盟結社（吟社）二十社の会員

昭和四十八年九月

宮城県川柳連盟会報（年一回発行）

宮城県川柳大会報（年一回発行）

開催日 催事名 場所

4/14 第五十一回宮城県白石川柳 白石温泉 薬師の湯

大会

（事務局長 鎌田 京子）

宮城県詩人会

〒九八〇―〇八〇五 仙台市青葉区大手町二―二五―五〇三

（汐海治美方）

〇二二―七二二―三一五八（汐海治美方）

会長 佐々木 洋一

三十一人

宮城県在住または出身者及びそれに準ずる者で、詩作品の実作者及び研究者

平成十七年三月

宮城県詩人会会報（年一回発行）

アンソロジー『宮城の現代詩』（年一回発行）

開催日 催事名 場所

2/11 ポエトリ―カフェ宮城 オフィス汐

「宮城の現代詩を朗読する」

安住幸子氏

ポエトリ―カフェ宮城 オフィス汐

「平間いなほ Eeds 千葉れいな」

井ノ浦英雄（ギター）「」 オフィス汐

ポエトリ―カフェ宮城 オフィス汐

佐藤博昭氏茶話会

「表現するを考える」

ポエトリ―カフェ宮城 オフィス汐

千田基嗣氏「朗読パフォー

マンス 湾をめぐる」

ポエトリ―カフェ宮城 オフィス汐

小野寺正典氏

詩と「五行歌」

ポエトリ―カフェ宮城 オフィス汐

田宮ケンジロウ氏「俳句

という魅惑の短詩型文学」

ポエトリ―カフェ宮城 オフィス汐

やまうちあつし氏

夏の終わりの「連詩」の会

10 / 13 ポエトリリーカフェ宮城 オフィス汐

平間いなほ＋千葉れいな
おもしろカフェ With

井ノ浦英雄（ギター）

11 / 16 ポエトリリーカフェ宮城 オフィス汐

佐藤博昭氏

「表現するを考える」

11 / 23 宮城県詩人会20周年「霧笛」 K-port（気仙沼市）

40周年記念イベント

「湾と街と畦道」のポエジー

もしくは詩の可能性を探る

12 / 7 ポエトリリーカフェ宮城 オフィス汐

竹内英典氏「サミュエル・

ベケット―意味をなくした

ことばの世界」

一般社団法人宮城県華道連盟

③ 千九八〇—〇〇一四 仙台市青葉区本町一丁目四—四十五
（西村方）

④ 〇二二—二二一—〇八六〇（西村一観方）

⑤ 理事長 西村 一観

⑥ 二百九人

⑦ 池坊、小原流、古流松藤会、清泉古流、仙昇池坊、道風流、

⑧ 本原遠州流、龍生派 全八流派

⑨ 華道教授者（諸流師範）の資格を有し、門下を育成する者

昭和十二年三月

⑩ 会報「はないづみ」（年一回発行）

開催月日 催事名 場所

7 / 15 研修旅行 碁点焼陶芸体験と 山形・酒田方面

東沢バラ園の旅

7 / 15 講習会「碁点焼陶芸体験」

講師・陶修窯 鈴木いく子

12 / 16 施設訪問（10名参加） 宮城県啓佑学園

〈主催いけばな展〉

3 / 16 第八十一回春のいけばな展 せんだいメディアテーク

宮城の春に 華が舞う

〈加盟流派いけばな展〉

1 / 20 清泉古流 伝統文化子どもイオンタウン塩釜

いけばな教室終了作品発表会

4 / 17 池坊 いけばなの根源池坊展 仙台三越

「華の軌跡」仙台花展

5 / 13 龍生派宮城県支部いけばな展 せんだいメディアテーク

植物の貌

8 / 3 花の輪・人の輪 みんなの華展 せんだいメディアテーク

く夏をたのしむ

10 / 12 公益社団法人宮城県芸術協会 せんだいメディアテーク

第六十一回宮城県芸術祭華道展

（全八流派）

10 / 19 本原遠州流 秋華彩 せんだいメディアテーク

10/12~15 池坊 秋保の里

秋保・里センター

池坊 いけばな展

〈その他の活動〉

1月~12月 宮城県庁 插花

連盟所属の八流派が毎月

交代で担当

宮城県庁二階県民ロビー他

(理事長 西村 一観)

宮城県民芸協会

〒九八〇一〇八二一 仙台市青葉区一番町一丁目四一〇

(光原社内)

〇二二一二三二一六六七四 (光原社内)

会長 伊達 廣三

五十七人

昭和四十三年一月

「民芸みやぎ」(年一回発行)

| 開催日 | 催事名 | 場所 |
|-----|-----|----|
|-----|-----|----|

| | | |
|------|------------|---------|
| 3/17 | 民藝きものの会 羽織 | 宮城県知事公館 |
|------|------------|---------|

| | | |
|-----|-------------|------|
| 4/8 | 鳴子の手仕事を訪ねる旅 | 瀾漆工房 |
|-----|-------------|------|

| | | |
|------|--------------|-------------|
| 5/25 | 「美(パワー)」をまとう | 東北福祉大学 芹沢銈介 |
|------|--------------|-------------|

アフリカの衣装「展見学 美術工芸館

| | | |
|------|----------------|--------------|
| 7/20 | 「芹沢銈介 本の装いと挿絵の | TFUギャラリーミニモリ |
|------|----------------|--------------|

世界」展ギャラリートーク参加

8/31 総会・伊達会長による「応量 宮城県知事公館

器の作法と食事」お話し会

11/8 盛岡の手仕事を訪ねる旅 光原社(盛岡)

12/14 珈琲をたしなむ会 東北福祉大学 芹沢銈介

美術工芸館

(事務局長 及川 陽一郎)

公益財団法人日本民謡協会宮城県連合会

〒九八二一一〇二 仙台市太白区袋原六丁目七一二七

〇二二二四一一八一七六

宮城県連合委員長 阿部 勝造

四百五十八人

公益財団法人日本民謡協会に入会していること

昭和二十五年六月二十四日

公益財団法人日本民謡協会会報(年六回発行)

| 開催日 | 催事名 | 場所 |
|-----|-----|----|
|-----|-----|----|

| | | |
|------|---------------------|--|
| 8/25 | 公益財団法人日本民謡協会 七ヶ浜国際村 | |
|------|---------------------|--|

民謡民舞宮城県連合大会 国際村ホール

9/24 民謡民舞東北地区指導資格 ホテルニュー水戸屋

認定試験

(参与 小野 春城)

全国民謡連盟宮城県連合会

- ⑧ 千九八九—六二二二 大崎市古川桑針字谷地中一四
(及川政芳方)
- ⑨ 〇二二九—二三一一〇九〇 (及川政芳方)
- ⑩ 会長 及川 政芳 (桃城)
- ⑪ 六十人
- ⑫ 民謡の好きな方
- ⑬ 昭和五十三年十月
- ⑭ 会報本部作成 (年一回発行)
- (本部連合会常務取締役 及川 政芳 (桃城))

宮城県民謡道連合会

- ① 千九八〇—〇〇〇二 仙台市青葉区福沢町一—四三
- ② 〇二二—二二三—四四一
- ③ 会長 衣川 喜仁
- ④ 二十五人
- ⑤ 民謡指導者・プロ伴奏者・プロ歌手・各会の会主
- ⑥ 昭和五十五年七月

開催日 催事名 場所

- 2 / 27 令和五年度定期総会 仙台市福沢市民センター
- 9 / 25 第三十九回さんさ時雨全国大会 仙台市福沢市民センター
実行委員会 令和六年講習会

11 / 12 第三十九回さんさ時雨全国大会 仙台市福沢市民センター

11 / 26 第三十九回さんさ時雨全国大会 岩出山公民館
全体会議

(事務局長 二代目 藤本 和夫)

宮城県写真連盟

- ① 千九八一—八〇〇三 仙台市泉区南光台七丁目二八—二
(高橋方)
- ② 〇二二—二五一—六二四一 (高橋方)
- ③ 会長 永井 優
- ④ 百十八人
- ⑤ 県写真展に参加し、会費を納入した方
- ⑥ 昭和五十四年四月
- ⑦ 会報 (年一回発行)

開催日 催事名 場所

10 / 17、28 令和六年度「宮城県写真展」 県民共済ビル
八乙女プラザ二階

(会長 永井 優)

宮城県文化財友の会

- ① 千九八四—〇〇四二 仙台市若林区大和町一丁目一六—二三
(遠藤方)
- ② 〇二二—二三九—一三三四 (遠藤方)

④ 会長 遠藤 哲雄

⑤ 五十一人

⑥ 文化財保護に関心をもち、文化財に関する認識を深めようとする者

⑦ 昭和四十九年八月

⑧ 宮城県文化財友の会だより（年三回発行）

| 開催日 | 催 事 名 | 場 所 |
|-----|-------|-----|
|-----|-------|-----|

| | | |
|--------------|------|-----------------------|
| 5 ／ 11 | 通常総会 | 仙台市青葉区五橋 シヨークー本館ビル |
|--------------|------|-----------------------|

| | | |
|--------------|--------------------------------------|-----------------|
| 5 ／ 11 | 研修「米ヶ袋縛り地蔵参拝・ 見学、東北学院大学博物館 見学」 | 仙台市青葉区米ヶ袋 土樋 |
|--------------|--------------------------------------|-----------------|

| | | |
|--------------|------------------------------------|---|
| 6 ／ 15 | 松島町・大崎市方面（品井 沼・鹿島台・松山）の歴史 散歩 | 明治潜穴公園、鎌田記 念ホール、松山ふるさ と歴史館・酒ミュージ アム、松山御本丸公園 （コスモス園）、羽黒神 社、西行戻しの松公園 名取市歴史民俗資料館、 雷神山古墳 |
|--------------|------------------------------------|---|

| | | |
|-------------|-----------|-------|
| 9 ／ 7 | 雷神山古墳歴史散歩 | 雷神山古墳 |
|-------------|-----------|-------|

| | | |
|--------------|-----------------------|-------------|
| 10 ／ 5 | 仙台芭蕉の辻・本荒町界限 の歴史散歩 | 晩翠草堂、柳町大日如来 |
|--------------|-----------------------|-------------|

（会長 遠藤 哲雄）

宮城県における 文化行政の概要

消費生活・文化課、長寿社会政策課、障害福祉課、生涯学習課、文化財課、宮城県図書館、宮城県美術館、東北歴史博物館、（公財）宮城県文化振興財団、（公財）慶長遣欧使節船協会における令和六年度の概要を掲載。（一月から三月までに実施したものは令和七年に行われた。）

一 知事部局関連

(二) 消費生活・文化課

1 表彰

令和六年文化の日（教育文化功労）表彰受賞者

○岡本 勝 〓 歌人

○安藤 敏子（安藤とし子） 〓 民謡歌手

○宮城県合唱連盟

○小川 和子 〓 陶芸家

○相澤 静子（相澤仙静） 〓 茶道教授

○伊藤 千代（伊藤一仙） 〓 華道家

○高橋 恵美子（西恵美子） 〓 川柳作家

○鈴木 敬一 〓 登米市文化協会理事長

2 文化行政の基礎づくり

県民ロビーコンサートの開催

県庁舎を県民により開かれたものとし、文化の香り高い交流の場にするため、県民ロビーにおいてコンサートを開催した。

| 開催日 | 出演者 |
|---------|--|
| 四月二十四日 | 仙台フィルハーモニー管弦楽団 （オーケストラによるクラシック演奏） |
| 五月二十二日 | 宮城県仙台三桜高等学校音楽部 （高校生による合唱） |
| 六月二十六日 | 愛&慶ミュージック （サックスとクラシックギターによる演奏） |
| 七月二十四日 | つながりおんぷ （ピアノ、フルート、電子ピアノによる演奏） |
| 八月 七日 | 仙台クラシックフェスティバル2024 出演 西沢 澄博、文 京華 （オーボエとピアノによる演奏） |
| 八月二十八日 | Cantabile （箏と声楽による演奏） |
| 九月二十五日 | 後藤裕子・吉田明美 Duo あゆむ （ピアノの連弾による演奏） |
| 十月二十三日 | Orchestre de Sendai （弦楽器による演奏） |
| 十一月十三日 | 宮城県大河原商業高等学校・宮城県大河原 産業高等学校ギター部（ギターによる演奏） |
| 十二月二十五日 | コロロ・カナリーノ アンド 鍵ばんど （女声合唱と鍵盤ハーモニカによる演奏） |

| | |
|--------|--|
| 一月二十二日 | Aulos (オーボエによるアンサンブル演奏) |
| 二月二十六日 | 仙台フルート協会杜の都フルートアンサンブル (フルートオーケストラによる演奏) |
| 三月二十六日 | 宮城県宮城第一高等学校 (合唱部による合唱とピアノ独奏) |

3 文化創造の風土づくり

みやぎ県民文化創造の祭典、二〇二四

広く県民に対して優れた芸術文化の鑑賞や活動成果発表の機会を拡充するとともに、宮城らしい創造的な芸術文化圏を創出することを目的として、平成九年度から開催。九月から十一月までを重点期間として、主催事業（十二事業）、共催事業（十二事業）及び協賛事業（十九事業）を県内各地で開催した。

〈主催事業〉

①舞台ワークショッップ（市町村事業）

目的 舞台芸術（演劇・ダンス等）で活躍している方を講師に迎え、体験型のワークショッップを開催し、舞台芸術に触れる機会の少ない人へ体験する機会を提供するとともに、将来の地域文化の担い手を育てる。

内容 各市町村等の主催により、小学校や文化ホールにおいて、市民が参画してミュージカルを創り上げる

ワークショッップや、音楽に合わせてさまざまなことを身体で表現するワークショッップなどを実施した。

○楠原竜也とダンスであそぼ！

会場 九月二日～五日

会場 大河原町立金ヶ瀬小学校、大河原町立大河原南小学校、えずこホール、蔵王町立永野小学校、川崎町立川崎第二小学校、七ヶ宿町立七ヶ宿小学校

講師 楠原竜也

実施団体 えずこ芸術のまち創造実行委員会

仙南地域広域行政事務組合教育委員会

○能楽に親しもう！謡の発声と能の空間美にふれる！

会場 十月十一日

会場 白石市古典芸能伝承の館・碧水園

講師 佐々木多門

実施団体 宮城県白石高等学校

○ISOPPの完全燃焼!! ヒップホップダンス体験教室

会場 十一月二十六日～二十八日

会場 白石市立白石第一小学校、柴田町立槻木小学校、村田町立村田小学校

講師 ISOPP

実施団体 えぞこ芸術のまち創造実行委員会

仙南地域広域行政事務組合教育委員会

○かくだ田園ホール新春寄席

会期 令和七年一月十九日

会場 かくだ田園ホール

講師 六華亭遊花、ひろき

実施団体 角田市教育委員会

○舞台スタッフ・ラボ二〇二四

会期 令和七年二月一日～十六日

会場 宮城野区文化センター

せんだい演劇工房10・BOX

講師 石井忍

実施団体 (公財) 仙台市市民文化事業団、仙台市

○WAKU☆WAKU☆プロジェクト

会期 九月十九日～令和七年二月二十三日

会場 多賀城市民会館

講師 高橋正典、掛田瑤子

実施団体 多賀城市文化センター指定管理者

②舞台ワークショップ(普及事業)

目的 県民に広く舞台芸術に触れる機会を提供するとともに、ワークショップ体験参加型事業の普及促進を図る。
内容 年齢や障害の有無に問わず、多様な人が芸術に触れ

ることができる機会の提供に取り組む団体「NPO

法人アートワークショップすんぷちよ」の運営により、主に聴覚障害のある子どもや保護者を対象としたダンスワークショップを実施した。

【NPO法人アートワークショップすんぷちよ】

○聴覚支援学校でのダンスワークショップアウトリーチ

会期 十二月十日

会場 宮城県立聴覚支援学校小牛田校

講師 渋谷裕子

○聴覚障害のある仲間とともに幼児が主体となり創造する

ダンスワークショップ

会期 令和七年一月二十一日

会場 大和すぎのここども園

講師 渋谷裕子

○宮城県難聴児を持つ親の会向け親子ダンスワークショップ

会期 令和七年一月二十六日

会場 七北田公園体育館研修室

講師 渋谷裕子

③美術ワークショップ(市町村事業)

目的 県内等で活躍する芸術家を講師に迎え、体験型のワークショップを開催し、参加者が作品の制作をと
おして文化芸術活動への関心を高め、新たな愛好者

層の拡大を図る。

内容 各市町村等の主催により、主に県内で活躍する芸

術家が講師となつて、文化会館や美術館等において、参加者にアートの鑑賞機会を提供するとともに、実際に絵画やアート作品を制作する体験型ワークショップを実施した。

○回廊アートプロジェクト夏「回廊七夕／天の川を描こう！」

夏のアートワークシヨップ

会期 七月二十四日

会場 多賀城市中央公民館

講師 古山拓

実施団体 多賀城市文化センター指定管理者J・M共同事

業体

○漆の文化を学び作品を作ろう

会期 十月十日

会場 宮城県南郷高等学校

講師 佐藤建夫

実施団体 宮城県南郷高等学校

○令和6年度蔵王町公民館事業

『加川広重アートプロジェクトvol.9 巨大絵画を描こう』

会期 十月十三日

会場 蔵王町ふるさと文化会館

講師 加川広重

実施団体 蔵王町

○こども探偵事務所 指令三十五・人形（にんぎょう／ひとがた）を調査

こども探偵事務所指令三十六・静物画づくり／構成編／

会期 十月十二日、令和七年一月十八日

会場 塩竈市杉村惇美術館

講師 福田一実、大江玲司

実施団体 塩竈市杉村惇美術館指定管理者仙台湾燠蒸（株）

○杉村惇の器をそうぞうしてみよう

会期 令和七年二月九日

会場 塩竈市杉村惇美術館

講師 後藤有美

実施団体 塩竈市杉村惇美術館指定管理者仙台湾燠蒸（株）

○絵画ワークショップ／油彩編／

会期 令和七年一月十一日～二月十六日

会場 水の里ホール・Abetisou

講師 亀井陽逸、亀井武宏、石川喜生子

実施団体（公財）登米文化振興財団

④美術ワークショップ（普及事業）

目的 県民に広く芸術に触れる機会を提供するとともに、

ワークショップ体験参加型事業の普及促進を図る。

内容 塩竈市でアールスペースを運営する団体「ビルド・

フルーガス」の運営により、さまざまな会場で多様な方を対象に、本物の植物を用いてつくる版画や、カラフルなチョークボードにチョークで自由に表現する体験型のワークショップ等を実施した。

【ビルド・フルーガス】

○葛の葉 染色体験

会期 七月二十一日・二十八日

会場 多賀城市中央公民館、高崎集会所、市川集会所

講師 浅野友理子（画家）

○墨あそび

会期 七月二十六日

会場 風のアトリエ&母家

講師 櫻井育子（コーディネーター）

○防災キャンプでつくる反射材を使った防災バッグづくり

会期 九月十五日

会場 さんみらい多賀城イベントプラザSTEP

講師 すがわらじゅんいち（美術家・防災士）

○ふるさとレシビ画交流会

会期 九月二十二日

会場 塩竈市魚市場中央棟

講師 佐竹真紀子（美術家）

○写真ワークショップ「私は誰？」フォトブック制作

会期 十月十二日

会場 宮城県古川高等学校

講師 伊藤トオル（写真家）

○UVレジンで小物作り／秋のフォトフレーム

会期 十一月三日・四日

会場 せんだいメディアテーク

講師 はまちひろ（オハヨウくつした製作所）

○「熊（イタズ）に触れる」皮膚としての皮を想像する

会期 十一月九日

会場 みちのく風土館

講師 山田健太郎（マタギ・革細作家）

○墨あそび

会期 十一月二十八日

会場 いろどりの丘

講師 櫻井育子（コーディネーター）

○音の旅

会期 十二月十五日

会場（社福）ライフの学校幸町キャンパス

講師 菅原宏之（サウンドデザイン・自然録音家）

○写真ワークショップ「私は誰？」フォトブック制作

会期 十二月二十三日

会場 宮城県名取北高等学校

講師 伊藤トオル（写真家）

○墨あそび

会期 令和七年一月六日

会場 子ども広場にこまゝる

講師 櫻井育子（コーディネーター）

○デジタル工作マシンを用いたものづくり体験

会期 令和七年一月十八日

会場 ぴあテラス

講師 小野寺志乃（Fablab SENDAI FLAT/合同会社FLAT）

○デコキヤンドル作り／オリジナル缶バッジ作り

会期 令和七年二月十一日～十六日

会場 仙台アーティストランプレイス

講師 はまちひろ（オハヨウくつした製作所）

○Coppa!でいきものをつくろう

会期 令和七年三月十四日

会場 放課後等デイサービスKEY'S 2nd

講師 佐野美里（彫刻家）

○クラフトペーパーでカードケースづくり

会期 令和七年三月八日・十五日

会場 みらい総合福祉事務所

講師 芦村俊一（創作折り紙作家）

⑤音楽アウトリーチ（市町村事業）

目的 音楽アーティストを講師に、普段はなかなか触れる

ことのできない楽器の面白さや音楽の魅力を伝え、

音楽愛好者層の拡大を図る。

内容 各市町村等の主催により、小・中学校や文化ホール

等において、生演奏を間近で体験できるコンサート

や講話等を実施した。

○みんなでジャズを知ろう！

会期 九月二十五日～二十七日

会場 大和町立吉岡小学校、大和町立宮床小学校、大和

町立吉田小学校、大和町立鶴巣小学校、大和町立

落合小学校、大和町立小野小学校

出演 安田智彦、是川由美子、黒瀬寛幸、黒瀬理知

実施団体 大和町文化振興協会、大和町教育委員会

○楽しく学べる！知られざるサクソフォンとピアノの世界

会期 十月二十九日・三十日

会場 柴田町立船迫小学校、白石市立大平小学校、白石

市立白川小学校

出演 國末貞仁、中川賢一

実施団体 えすこ芸術のまち創造実行委員会

仙南地域広域行政事務組合教育委員会

○令和六年度音楽アウトリーチ事業

会期 十一月五日・六日

会場 大郷町立大郷小学校

出演 中川賢一

実施団体 大郷町教育委員会

○令和六年度小学校芸術鑑賞事業

仲道郁代音楽アウトリーチ

会期 十一月六日～八日

会場 七ヶ浜町立松ヶ浜小学校、七ヶ浜町立亦楽小学校、

七ヶ浜町立汐見小学校

出演 仲道郁代

実施団体 七ヶ浜国際村事業協会

○令和六年度芸術鑑賞事業（次代を担う人材の育成）

地域プロアーティストによる訪問コンサート

会期 十一月二十六日・二十七日

会場 登米市立新田小学校、登米市立新田中学校、登米

市立加賀野小学校、登米市立迫支援学校

出演 宮崎ゆかり、蔡翰平

実施団体（公財）登米文化振興財団、登米市、登米市教

育委員会

○キラキラひかる♪楽しいピアノの世界

会期 十二月二日～四日

会場 角田市立金津小学校、角田市立北郷小学校、丸森

町立丸森小学校、柴田町立船岡小学校

出演 田村緑、大森智子

実施団体 えすこ芸術のまち創造実行委員会

仙南地域広域行政事務組合教育委員会

○たがぶん×山響 アウトリーチ in 多賀城

会期 令和七年二月十八日・三月十八日

会場 多賀城市立多賀城中学校、多賀城市立東豊中学校、

すくつびーひろば、多賀城市立図書館

出演 山形交響楽団弦楽三重奏

実施団体 多賀城市文化センター指定管理者

⑥音楽アウトリーチ（普及事業）

目的 音楽アーティストを講師に、日々の生活の中で感じ

る苦痛やストレスを、音楽の鑑賞・体験で和らげ、

生きる力を育むとともに、普段はなかなか触れるこ

とのできない楽器の面白さや音楽の魅力を伝え、音

楽愛好者層の拡大を図る。

内容 東日本大震災の被災地、被災者支援として演奏会等

を開催する団体「（公財）音楽の力による復興セン

ター・東北」の運営により、県内の支援学校や老人

ホーム、病院等において、音楽に触れる機会の少な

い人たちに、生のコンサートや楽器に触れる機会を

提供した。

○前浜とつておきなコンサート〜昼の部 キッズコンサート〜

会期 十月十三日

会場 前浜マリンセンター

講師 カルテット・フィデス

(松山古流、熊谷洋子、御供和江、石井忠彦)

○前浜とつておきなコンサート〜夜の部 秋の夜の音楽会〜

会期 十月十三日

会場 前浜マリンセンター

講師 カルテット・フィデス

(松山古流、熊谷洋子、御供和江、石井忠彦)

○南郷秋のコンサート

会期 十月十四日

会場 南郷コミュニティセンター (南郷市営住宅)

講師 カルテット・フィデス

(松山古流、熊谷洋子、御供和江、石井忠彦)

○石巻市立病院 院内コンサート

ヴァイオリン二重奏による秋のコンサート

会期 十一月六日

会場 石巻市立病院

講師 小野英駿、門脇和泉

○みんなで歌おうコンサート

会期 十一月十三日

会場 結の里カフェスペース

講師 齋藤翠、可沼美沙

○みんなの音楽祭 in 松岩

会期 十一月十六日

会場 松岩公民館 研修室

講師 小関佳宏、千葉展子

○みんなの音楽祭 in 松岩

会期 十一月十六日 (二回開催)

会場 松岩公民館 研修室

講師 小関佳宏、千葉展子

○海辺の町の音楽会 Patis

会期 十一月十七日

会場 雄勝公民館 大集会室

講師 小関佳宏、千葉展子

○のびる新春コンサート

会期 令和七年一月十一日

会場 野蒜市民センター

講師 齋藤翠、野崎貴男、可沼美沙

○笑顔いっぱい ぴありこ&まさわ☆わくわくコンサート

会期 令和七年二月十九日

会場 牧沢きぼう保育所

講師 杜の音楽合奏団【ぴありこ☆トリお】

(千葉展子、門脇麻美、小林直央)

○おひさまサンサンコンサート

会期 令和七年二月十九日

会場 けせんぬまおひさま保育園

講師 杜の音楽合奏団【びありこ☆トリお】

(千葉展子、門脇麻美、小林直央)

○マリンピアコンサート

会期 令和七年二月二十六日

会場 つばめの杜ひだまりホール

講師 マリンピア(丹野富美子、吉田彩)

○さくら町 春を呼ぶコンサート

会期 令和七年三月十三日

会場 新渡波集会所

講師 叶千春、叶光徳、菅野明子

⑦みやぎ芸術銀河作品展

目的 県民が優れた文化芸術作品に触れる機会を提供し、

宮城県の文化芸術の振興・発展に寄与する。

内容 令和五年度宮城県芸術選奨、同新人賞受賞者のうち

希望する三名に対し、本賞の受賞記念として開催する作品展やリサイトル等の開催経費について、補助を行った。

【令和五年度受賞】

○作品展

受賞者 山内文貴(美術(洋画))

会期 七月二十三日～八月四日

会場 仙台アーティストランプレイススペースA

○朗読ワークショップ

受賞者 伊藤み弥(演劇)

会期 十月十二日～令和七年二月九日

会場 新月公民館、鹿折公民館

○受賞記念リサイトル

受賞者 西沢澄博(音楽)

会期 令和七年二月二十六日

会場 宮城野区文化センターパトナホール

⑧青少年育成総合事業(みやぎの高校生文化芸術表現力対策事業)

目的 県内の高校生の文化芸術に係る表現力を育み、強化するとともに、宮城県の文化芸術の振興・発展に寄与する。

与する。

内容 宮城県高等学校文化連盟の運営により、吹奏楽、郷土芸能の二つの専門部において、各界の著名人や専門家を講師に迎え、講習会や研修会を実施した。

○第九回みやぎ高校吹奏楽祭

会期 十月三日

会場 多賀城市民会館

講師 小串俊寿、近江博幸、水口透

○第十二回高校生のための吹奏楽運営講座

会期 十一月三日

会場 エスポールみやぎ

講師 加茂衣織、佐藤達郎、緑川葉子

○マーチング講習会

会期 令和七年一月二十六日

会場 宮城学院中学校高等学校

講師 鈴木沙友里

○郷土芸能専門部表現力向上講習会

会期 十一月七日

会場 名取市文化会館 大ホール

講師 プロ和太鼓チーム「Atora」

⑨地域文化発信支援事業（民俗芸能等伝承支援事業）

目的 地域特有の民俗芸能を伝承し、継続した活動を支援すること。

内容 宮城県の民俗芸能の振興・発展に寄与すること。

内容 女川町を拠点に伝承活動を行う女川小獅子振り隊に

対し、伝承活動に必要な道具の購入費について

補助を行った。

○女川町の伝統芸能「獅子振り」を受け継ぎ、伝えよう

会期 九月十日～十一月十七日

会場 女川小中学校音楽室、女川生涯学習センター

支援団体 女川小獅子振り隊

⑩舞台技術者等育成支援

目的 劇場・音楽堂等で行われる公演等の発展と優れた鑑

賞環境の確保を目的として、舞台技術者等が行う技

術の向上や人材育成等を支援する。

内容 宮城舞台技術者協会主催で、協会員他舞台従事者及

び市内専門学校生を対象として「舞台技術者等安全講習会」を開催した。

会期 十二月十七日

会場 仙台サンブラザホテル

⑪みやぎ発信劇場

（民俗芸能×メディア芸術体験事業 多賀城びBAKERU）

目的 第六十六回民俗芸能大会北海道・東北ブロックの開

催に合わせて関連事業を実施することで、民俗芸能

の進行に寄与する。

内容 東北地方に古くから伝わる郷土芸能をテーマにした

体験型ワークショップ「BAKERU」を実施した。自

由に装飾・着色した専用のお面を身に着けることで、

スクリーンに自分の化身が「なまはげ」などの姿と

なって映し出される。

会期 十月二十七日

会場 多賀城市民会館展示室

⑫出前講座

目的 文化芸術による共生社会の実現を図り、県民に対し、

広く芸術に触れる機会を提供する。また、地域の機関・団体等が自ら主体的に障害者の地域活動を行えるよう支援する。

内容 障害者の表現活動を支援する団体「NPO法人エイ

ブル・アート・ジャパン」の運営により、障害のある人も参加できるカメラワークショップ等のイベントを行った。

○写奏（うつしかなみ）カメラワークショップ

会期 十二月二十六日

会場 登米市公民館

○展示と市民向けワークショップ

会期 令和七年二月二日

会場 南方公民館

4 文化活動の促進

(1) 令和六年度宮城県芸術選奨の顕彰

授賞式 十一月二十九日

宮城県行政庁舎十一階第二会議室

(2) 文化芸術関係行事の後援、知事賞の贈呈等

後援行事 百十九件

知事賞交付 三十五行事

(3) 文化事業への助成 (賞状七十点、うち賞品(楯)十六点)

県内文化団体事業への補助

(公財) 仙台フィルハーモニー管弦楽団ほか)

(4) 文化振興基金の造成

民間と行政が一体となって文化活動の助成を図るため、文化振興基金を設置し、昭和六十二年度から基金の造成を図っている。

(5) 宮城県芸術年鑑の発行

(二) 長寿社会政策課

第三十二回宮城シニア美術展

高齢者の創作による作品(日本画・洋画・書・写真・工芸)の募集・展示を通して、高齢者の文化活動を促し、ふれあいと生きがいづくりを促進するとともに、第三十七回全国健康福祉祭ぎふ大会(ねんりんピック岐阜二〇二五)への宮城県代表作品として選考することを目的に開催した。

出品 百二十点

会期 十一月二十二日～二十四日

会場 せんだいメディアアテーク

主催 社会福祉法人宮城県社会福祉協議会

共催 宮城県・公益財団法人宮城県老人クラブ連合会

(三) 障害福祉課

1 とっておきの音楽祭

障害の有無に関わらず参加できる音楽祭が開催された。仙台市内二十五ヶ所に設置されたステージに延べ二百六十六団体が参加した。

会期 六月二日

主催 NPO法人とっておきの音楽祭

2 表彰

(1) 「第二十八回ビュア・ハーツアート展」(仙台市知的障害者芸術文化協会主催)の優秀作品を「宮城県知事賞」として表彰を行った。(二月二日)

○佐藤瑠乃助(絵画)

(2) 「Art to You! 障がい者芸術世界展」(公益社団法人東北障がい者芸術支援機構主催)の入賞作品のうち一点を「宮城県知事賞」として表彰を行った。(九月一日)
○佐久間智之(絵画)

3 障害者による芸術文化活動の支援

令和六年度宮城県障害者芸術文化活動支援事業

県内障害者の芸術文化活動の振興を図ることを目的に、宮城県障害者芸術文化活動支援センターを設置し、以下の事業を実施した。

(1) 相談・支援

芸術活動を行う障害者本人や家族、支援者等からの相談に応じ、支援を行った。

(2)

障害者芸術文化活動を支援する人材の育成支援
芸術文化活動の支援方法やアート作品の活用事例、著作権、表現活動の内容に関する研修等を行った。

①十一月一日

「他者の「よくわからない」行為や出来事を捉え直す、そのわからなさを楽しむ方法を考える」

②二月六日

「障害のある人のアートの活用事例と著作権について学ぼう」

③三月七日

「表現する人集合！ ～活動内容やその意義をシェアしよう」

(3) 展示会開催

第七回 障害のある人と芸術文化活動の大見本市

「きいて、みて、しつて、見本市。」

会期 一月三十一日～二月五日

会場 せんだいメデイアテーク

二 教育委員会関連

(一) 生涯学習課

1 表彰

令和六年度地域文化功労者文部科学大臣表彰受賞者

○高橋 五郎 芸術文化（器楽「マンドリン」）（仙台市）

○皿貝法印神楽保存会…文化財保護（石巻市）

○滝原の踊拝保存会…文化財保護（仙台市）

2 文化芸術の振興

(1) 第六十一回宮城県芸術祭

共催（公社）宮城県芸術協会、宮城県、仙台市、宮城

県教育委員会、仙台市教育委員会、（株）河北新

報社、（公財）宮城県文化振興財団、（公財）仙

台市市民文化事業団

会期 九月二十八日～三月二十九日

会場 せんだいメディアテークほか

書道、工芸、絵画、写真、華道、彫刻等の展示及び音

楽コンクールが行われた。

(2) 宮城県高等学校文化連盟事業

① 第三十一回宮城県高等学校総合文化祭

テーマ「彩（いろど）り個性で輝け青春の刻（とき）」
総合開会式

○展示発表

会期 十月十九日～二十日

会場 こもれびの降る丘 遊楽館

○式典・ステージ発表

会期 十月十九日

会場 こもれびの降る丘 遊楽館

イ 部門別開催

○英語

〔第七十七回宮城県高等学校英語弁論大会〕

会期 九月十三日

会場 東北高等学校

〔第七十一回宮城県高等学校英作文コンクール〕

会期 十月二十三日

会場 宮城野高等学校、各地区会場校

○吹奏楽

〔第九回みやぎ高校吹奏楽祭〕

会期 十月三日

会場 多賀城市民会館

○演劇

〔第六十二回宮城県高等学校演劇コンクール〕

地区大会・中央大会

会期 十月一日～十八日、十一月十九日～二十四日

会場 広瀬文化センター、県内各地区会場

○文芸

〔第二十六回全国高等学校文化連盟北海道・東北文芸大会みやぎ大会兼第三十一回宮城県高総文祭文芸部門交流会・研修会〕

会期 十月十七日・十八日

会場 東北大学萩ホール、東京エレクトロンホール宮城、せんだいメディアテーク

○囲碁

〔第二十五回宮城県高等学校囲碁九路盤大会〕

会期 十月十八日

会場 宮城県仙台第二高等学校

○ダンス

〔第三十二回宮城県高等学校ダンスフェスティバル二〇二四〕

会期 十月二十一日～二十三日

会場 広瀬文化センター

○新聞

〔第十一回宮城県高等学校新聞コンクール〕

会期 十月十九日～二十日、十二月十三日

○放送

会場 こもれびの降る丘 遊楽館、河北新報社

〔第四十三回宮城県高等学校放送コンテスト新人大会〕

会期 十月十九日～十一月七日

会場 日立システムズホール仙台ほか

○小倉百人一首かるた

〔第三十三回宮城県高等学校小倉百人一首競技かるた大会〕

会期 十月二十三日、三十一日

会場 宮城県武道館、宮城第一高等学校

○自然科学

〔第七十七回宮城県高等学校生徒理科研究発表会〕

会期 十一月六日

会場 東北大学サイエンスキャンパスホールほか

○器楽・管弦楽

〔第四十七回宮城県高等学校音楽祭〕

会期 十月二十三日

会場 日立システムズホール仙台

○将棋

〔第四十一回宮城県高等学校将棋新人戦〕

会期 十一月五日

会場 エスポールみやぎ

○軽音楽

〔第二十三回宮城県高等学校対抗バンド合戦新人大会〕

会期 十一月二日～三日

会場 デジタルアーツ仙台

○合唱

〔第八回みやぎ高校合唱祭〕

会期 十一月一日

会場 宮城野区文化センター

○日本音楽

〔第三十三回宮城県高等学校文化連盟日本音楽定期演奏会〕

会期 十月二十五日

会場 多賀城市文化センター

会場 多賀城市文化センター

○郷土芸能

〔第十一回宮城県高等学校郷土芸能大会〕

会期 十一月七日

会場 名取市文化会館

○写真

〔第三十一回宮城県高等学校写真展〕

会期 十一月八日～十三日

会場 せんだいメディアテーク

○書道

〔第七十三回宮城県高等学校書道展覧会〕

会期 十一月八日～十三日

会場 せんだいメディアテーク

○工業

〔第三十三回宮城県高等学校生徒活動成果発表会〕

会期 十二月七日

会場 仙台工業高等学校

○弁論

〔第十一回宮城県高等学校弁論大会兼第六回吉野作造記念高校生弁論大会〕

会期 十二月六日

会場 吉野作造記念館

会場 吉野作造記念館

○商業

〔プログラミング研修会〕

会期 十二月二十六日

会場 東京ＩＴプログラミング&会計専門学校仙台校

○美術・工芸

〔第七十七回宮城県高等学校美術展〕

会期 一月二十五日～二十九日

会場 せんだいメディアテーク

② 第四十八回全国高等学校総合文化祭岐阜大会

会期 七月三十一日～八月五日

会場 岐阜県内十三市二町

本県生徒約二百十五名が総合開会式及び以下の部門に参加（吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、自然科学）
専門部事業
演劇

③ ア

〔第三十三回宮城県高等学校演劇総合研修会〕

会期 七月二十七日・二十八日

会場 宮城野区文化センター

〔第三十四回宮城県高等学校演劇リーダー研修会〕

会期 七月十三日～十五日

会場 せんだい演劇工房10―BOX

イ 合唱

〔第七十六回宮城県合唱祭〕

会期 五月十一日・十二日

会場 日立システムズホール仙台

〔令和六年度発声講習会〕

会期 五月二十五日

会場 杉村惇美術館

〔令和六年度合唱講習会〕

会期 七月三十日～八月一日

会場 仙台市戦災復興記念館

〔第九十一回NHK全国学校音楽コンクール宮城県大会〕

会期 八月十八日

会場 多賀城市民会館

〔第七十六回全日本合唱コンクール宮城県大会〕

会期 八月二十四日

会場 仙台銀行ホールイズミティ21

〔第三十六回宮城県合唱アンサンブルコンテスト〕

会期 十二月二十一日

会場 日立システムズホール仙台

〔令和六年度パート別発声講習会〕

会期 一月二十五日

会場 宮城県仙台三校高等学校ほか

ウ 吹奏楽

〔第六十七回宮城県吹奏楽コンクール〕

会期 八月一日

会場 仙台銀行ホールイズミティ21

〔第十二回高校生のための吹奏楽部運営講座〕

会期 十一月三日

会場 エスポールみやぎ

〔第四十六回東北吹奏楽の日演奏会〕

会期 十二月二十二日

会場 仙台銀行ホールイズミティ21

〔第五十八回宮城県アンサンブルコンテスト〕

会期 一月十二日

会場 仙台銀行ホールイズミティ21

エ 器楽・管弦楽

〔マンドリン部楽器別講習会〕

会期 六月一日

会場 石巻好文館高等学校

〔マンドリン部合奏講習会〕

会期 十月十三日

会場 石巻好文館高等学校

〔ギター部合奏講習会〕

会期 十一月三十日

会場 聖和学園高等学校

〔管弦楽楽器別講習会〕

会期 八月十九日

会場 尚綱学院中学校・高等学校

オ 美術・工芸

〔各地区美術展〕

（仙南、仙台、泉・黒川、塩釜、大崎、登米・栗原、

石巻、本吉）

カ 放送

会期 七月十三日～十七日（仙台地区）

会場 せんだいメディアテーク（仙台地区）

〔春季校内放送研修会〕

会期 五月十一日

会場 仙台白百合学園高等学校

〔第七十一回NHK杯全国高校放送コンテスト宮城県大会〕

会期 六月八日～十四日

会場 多賀城市民会館

〔夏季校内放送研修会〕

会期 八月七日

会場 仙台市立仙台商業高等学校

〔冬季校内放送研修会〕

会期 一月二十五日

会場 宮城県仙台第三高等学校

キ 囲碁

〔第四十八回文部科学大臣杯 全国高等学校囲碁選手権大会宮城県大会〕

会期 六月二十二日～二十四日

会場 宮城県仙台第一高等学校、宮城県仙台第二

高等学校

〔第四十一回宮城県高等学校開基新人大会〕

会期 一月二十六日

会場 仙台第二高等学校

ク 将棋

〔第六十回全国高等学校将棋選手権宮城県予選大会〕

会期 五月十六日・十七日

会場 エスポールみやぎ

ケ 自然科学

〔第一回生徒研修会〕

会期 七月七日

会場 宮城第一高等学校

〔第二回生徒研修会兼全国高総文祭最終選考会〕

会期 十二月二十六日

会場 仙台市戦災復興記念館

コ 写真

〔第三十二回春季写真撮影大会〕

会期 五月二十五日・二十六日

会場 仙台工業高等学校

〔第二十一回夏季写真撮影大会〕

会期 八月八日・十日

会場 トークネットホール仙台、

仙台市中小企業活性化センター

〔第十一回冬季写真撮影大会〕

会期 二月二日

会場 仙台二華高等学校

サ 小倉百人一首かるた

〔第四十八回全国高総文祭小倉百人一首かるた部門宮城県予選〕

会期 五月十二日・十三日

会場 仙台第二高等学校

〔第四十六回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会宮城県予選〕

会期 五月三十日

会場 宮城県武道館

〔第十七回東北・北海道高等学校小倉百人一首かるた選手権大会〕

会期 七月五日

会場 日立システムズホール仙台

〔令和六年日本音楽研修会〕

会期 十月二十五日

会場 多賀城市文化センター

シ 日本音楽

〔第三十六回全日本高校・大学ダンスフェスティバル〕

会期 七月五日

会場 日立システムズホール仙台

ス ダンス

〔第三十六回全日本高校・大学ダンスフェスティバル〕

会期 八月六日～九日

会場 神戸文化ホール

〔ダンス技術リーダー講習会〕

会期 十二月二十一日

会場 宮城県宮城第一高等学校

七 軽音楽

〔第三十回宮城県高等学校対抗バンド合戦〕

会期 七月十五日

会場 デジタルアーツ仙台

〔第九回ハイスクールプレミアムライブ二〇二四〕

会期 八月六日

会場 仙台PIT

〔第十回宮城県高等学校対抗バンド合戦一年生大会〕

会期 十二月二十一日～二十二日

会場 デジタルアーツ仙台

ソ 文芸

〔生徒研修会〕

会期 六月二十一日、七月十三日、九月二十八日

会場 仙台市博物館ほか

〔新人研修会〕

会期 二月一日

会場 宮城第一高等学校

〔第二十一回宮城県高等学校文芸作品コンクール〕

八月二十九日必着

タ 新聞

〔前期研修会〕

会期 七月十三日

会場 河北新報社

〔後期研修会〕

会期 十月五日

会場 名取市震災復興伝承館ほか

チ 吟詠剣詩舞

〔強化練習会〕

会期 七月二日・三日・二十四日、二十九日・

三十日、八月二十八日・三十日、九月三十日、

十月二日、十一月六日

会場 宮城県古川黎明高等学校

④ 支部事業

ア 仙台北・仙台南（合同）

〔第三十四回仙台北支部総合文化祭「ふれんどりとく」〕

会期 十月十六日

会場 宮城野区文化センター

〔広報誌『にしき木』第三十三号発行〕

発行 二月十日

イ 仙南

〔第三十回仙南支部高等学校総合文化祭〕

会期 十月十一日～十八日

会場 仙南芸術文化センターほか

〔専門部研修会〕

会期 十月十三日～十一月九日

会場 名取高等学校、農業高等学校、名取北高等学校、西山学院高等学校

ウ 大崎

〔第五十二回古川地区高等学校演劇祭〕

会期 五月十八日

会場 大崎市生涯学習センター

〔令和六年度古川管内高等学校美術クラブ連合展〕

会期 十月五日

会場 美里町近代文学館

〔第三十二回大崎支部総合文化祭〕

会期 十月五日

会場 美里町文化会館、美里町近代文学館、美里町中央コミュニティセンター

〔令和六年度アンサンブルコンテスト大崎地区大会〕

会期 十二月十四日

会場 岩出山文化会館

〔第十九回大崎吹奏楽祭〕

会期 二月二日

会場 美里町文化会館

エ 東部

〔第六回東部支部地区高等学校美術展〕

会期 七月十九日～二十一日

会場 松島町文化観光交流館

〔第七回東部支部総合文化祭〕

会期 十月十九日～二十日

会場 こもればの降る丘 遊楽館

〔第七回東部支部合同音楽会〕

会期 十一月七日

会場 松島町文化観光交流館

オ 栗原・登米

〔第三十一回栗原・登米支部総合文化祭〕

会期 六月二十九日・三十日

会場 栗原市若柳総合文化センター

カ 本吉

〔第十九回本吉支部総合文化祭〕

会期 七月六日・七日

会場 気仙沼市はまなすホール、本吉公民館

〔第六十二回気仙沼・本吉地区高等学校美術展〕けせ

「もい展」

会期 九月四日～八日

会場 リアス・アーク美術館

〔本吉支部写真展示会〕

会期 十月二十四日～令和七年十月中旬

会場 イオン気仙沼店

〔第三十二回気仙沼・本吉地区生徒科学研究発表会〕

▲中止

⑤ 定通部事業

〔第五十二回宮城県高等学校定時制通信制生徒の集い〕

会期 九月七日

会場 白石高等学校七ヶ宿校

〔第七十二回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験

発表宮城県大会〕

会期 十月十二日

会場 貞山高等学校

⑥ その他

〔機関紙『高文連ニュース第三十四号』発行〕

発行 十月四日

〔宮城県高等学校文化連盟PR事業〕

会期 十一月十八日～二十七日

会場 宮城県庁

(3)

文化庁事業

① 舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演事業）

六月 七日 美里町立北浦小学校 歌舞伎・能楽

六月 七日 加美町立賀美石小学校

メディアアート等

六月二十七日 登米市立東郷小学校 演劇

六月二十八日 栗原市立瀬峰小学校 演劇

九月 三日 美里町立南郷小学校 オークストラ等

九月 四日 柴田町立柴田小学校 オークストラ等

九月二十六日 利府町立しらかし台中学校

オーケストラ等

九月 三十日 登米市立佐沼小学校 演劇

〔宮城県高等学校体育連盟・宮城県高等学校文化連盟
連携事業 美術・工芸専門部・写真専門部作品展〕

会期 十月二十四日～三十日

会場 セキスイハイムスーパーアリーナ

〔令和六年度宮城県高等学校文化連盟賞表彰式〕

会期 二月十四日

会場 ホテル白萩

〔年間集録『みやぎ高文連年報三十三号』刊行〕

発行 三月十七日

| | | | |
|-----------------------------|------|---------------|---------|
| 十月 | 一日 | 七ヶ浜町立汐見小学校 | ミュージカル |
| 十月 | 二日 | 加美町立宮崎小学校 | 児童劇 |
| 十月 | 四日 | 蔵王町立遠刈田中学校 | ミュージカル |
| 十月三十一日 | | 石巻市立石巻中学校 | 歌舞伎・能楽 |
| 十一月 | 五日 | 加美町立鳴瀬小学校 | オーケストラ等 |
| 十一月二十二日 | | 塩竈市立第一小学校 | 演劇 |
| 十一月二十六日 | | 大崎市立古川北中学校 | バレエ |
| 十二月 | 十八日 | 塩竈市立第二小学校 | 歌舞伎・能楽 |
| ② 文化芸術による子供育成推進事業(芸術家の派遣事業) | | | |
| 五月 | 十四日 | 九月十七日 十月二十二日 | |
| | | 大崎市立古川西小中学校 | 伝統芸能 |
| 六月 | 六日 | 岩沼市立玉浦中学校 | 音楽 |
| 六月二十八日 | | 岩沼市立岩沼北中学校 | 音楽 |
| 八月二十九日 | | 大崎市立鳴子中学校 | 音楽 |
| 九月 | 十八日 | 東北学院高等学校 | 音楽 |
| 九月二十四日 | | 九月二十五日 九月二十六日 | |
| | | 七ヶ浜町立汐見小学校 | 舞踊 |
| 九月二十七日 | | 十月九日 十月十八日 | |
| | | 塩竈市立浦戸小学校 | 演劇 |
| 十月一日 | 十月二日 | | |
| | | 宮城県立古川支援学校 | 演劇 |
| 十月 | 十一日 | 大崎市立大貫小学校 | 伝統芸能 |

| | | | |
|---|---------------|------------|----|
| 十二月四日 | 十二月五日 | 十二月六日 | |
| 七ヶ浜町立亦楽小学校 | | | 舞踊 |
| 十二月四日 | 十二月五日 | 十二月六日 | |
| 七ヶ浜町立七ヶ浜中学校 | | | 舞踊 |
| 十二月九日 | 十二月十日 | 十二月十一日 | |
| 七ヶ浜町立松ヶ浜小学校 | | | 舞踊 |
| 十二月九日 | 十二月十日 | 十二月十一日 | |
| 七ヶ浜町立向洋中学校 | | | 舞踊 |
| ③ 文化芸術による子供育成推進事業 | | | |
| (ユニバーサル公演事業) | | | |
| 七月 | 三日 | 宮城県立視覚支援学校 | 演劇 |
| 七月 | 四日 | 宮城県立聴覚支援学校 | 演劇 |
| ④ 文化芸術による子供育成推進事業(芸術家の派遣事業) | | | |
| 〔東日本大震災復興支援対応〕 | | | |
| 会期 | 九月一日～令和七年二月四日 | | |
| 「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」みやぎ実行委員会が委託を受け、県内三十六の小学校・中学校・義務教育学校・県立学校に講師を派遣して、三十六公演を実施。 | | | |
| (4) 宮城県巡回小劇場 | | | |
| ① 音楽 | | | |

・『リンゴマ』コンサート（県内六会場）

共催 宮城県教育委員会、開催市町村教育委員会、（公財）日本青少年文化センター

会期 十月一日～十月三日

鑑賞者数 千七百六十六人

② 演劇

・演劇一「宇宙のなかの熊」（県内二会場）

共催 宮城県教育委員会、開催市町村教育委員会、（公社）日本児童演劇協会

会期 九月二十五日・二十六日

出演 東京演劇アンサンブル

鑑賞者数 二百十八人

・演劇二「めつきらもつきらどおんどん」（県内六会場）

共催 宮城県教育委員会、開催市町村教育委員会、（公社）日本児童演劇協会

会期 九月三十日～十月七日

出演 劇団風の子北海道

鑑賞者数 千五百九十一人

(5) 青少年劇場小公演

地域の児童生徒に優れた生の芸術を鑑賞する機会を提供した。（二十一公演）

会期 六月十八日・十九日、九月三十日～十月四日、

十月七日～九日、十月二十二日・二十三日

内容 連rendan弾～1台のピアノと2人のピアノリスト

器楽（米津真浩、小瀧俊治）

サクソフォンとピアノのコンサート

器楽（中村均一、西上和子）

はなしの伝統芸能 落語

伝統芸能（一玄亭米多朗）

(6)

宮城県地方音楽会
共催 開催市町村教育委員会

① アンサンブル公演

・九月 八日 南三陸町総合体育館ベイサイドアリーナ

・十一月九日 東松島市コミュニティセンター

② オーケストラ公演

・七月 七日 蔵王町ございんホール

・十一月十日 多賀城市文化センター

・二月 九日 気仙沼市民会館

鑑賞者数 二千六百四十一人

(7)

優秀映画鑑賞推進事業
共催 文化庁、国立映画アーカイブ、開催町

会期 九月十五日

会場 加美町中新田文化会館、中新田バツハホール

(8) 国民文化祭派遣事業：岐阜県

(9) 地方青年文化祭

県内青年の文化活動の促進、青年相互の交流、地域文化の振興を目指すもの。

(十月～令和七年二月、教育事務所ごとに県内七地区で実施。)

(10) 第七十二回宮城県青年文化祭

各部門へ最優秀賞と優秀賞を授与した。

会期 六月十六日

会場 東松島市コミュニティセンター

参加団体 合唱、舞台発表、のど自慢、生活文化展、写真展

来場数 四百八十四人

(11) 第七十六回宮城県体育大会

会期 八月二十五日

会場 大郷町フリップ21

(12) 第七十二回全国青年大会

出場 バスケットボール、軟式野球、フットサル

会期 十一月八日～十一日

会場 東京体育館 ほか

出場 バスケットボール、軟式野球、写真展、舞台発表(合唱)

参加者 六十二人

(二) 宮城県図書館

情報拠点としての図書館の機能を強化し、県民のより充実した生涯学習を支援するため、各種の展示や講座、子どもの本の移動展示会等多様な活動を展開している。

1 展示

(1) 常設展

「本と人の文化史―アジア・日本を中心に―」

(2) 企画展

① 「東日本大震災文庫展14『震災と交通機関―未来へつなぐ復興の礎―』」

三月二日～五月二十六日

② 「資料をまもり、つたえる―宮城県図書館の貴重資料保存修復事業―」

六月一日～八月二十五日

③ 「震災と伝統美」能登半島地震の被害と輪島塗の輝き」

八月三十一日～十一月二十四日

④ 「公文書館展『宮城県公文書館のお仕事紹介』」

※宮城県公文書館による展示

十一月三十日～令和七年三月二日

⑤ 「東日本大震災文庫展15『記憶を記録に未来へ』」

令和七年三月八日～六月一日

(3) 子どもの本展示会

四月十九日～五月九日

入場 三千百九十九名

子どもの本移動展示会

・県内市町村図書館・公民館 二十一会場

入場 八千二百五十九名

・県内小中学校・特別支援学校 四十六会場

入場 八千八百八十一名

(4) 一般図書・児童視聴覚・資料情報・震災文庫各フロア

での季節・催事等に関する資料展示

四月～令和七年三月

開催回数 九十四回

(5) 情報エントランス(外部機関・団体によるパネル等展示)

四月～令和七年三月

開催回数 二十六回(二十四機関・団体)

2 講座・講演会等

(1) ビブリオバトル

会期 七月二十七日

参加者 バトラー 六名

オーディエンス 二十名

(2) 図書館使い方講座「データベース操作講習会」

実施回数 十回

(3) 本の探し方講座

実施回数 六回

(4) よみきかせ等研修会

実施回数 九回

3 各種上映会(DVD・16ミリ)

上映回数 十五回

(1) 会期 五月～三月の月一回(一月を除く)

(2) こども映画会

会期 七月六日、十月十二日、令和七年三月一日

懐かしの16ミリ映画フィルム上映会

(3) 会期 六月一日、令和七年一月十八日

4 おはなし会

会 期 四月～令和七年三月

(第一・第二・第三・第四土曜日、毎週金曜日・日曜日)
実施団体 七団体

5 親子新聞スクラップ道場

会 期 七月二十日

参 加 七人(二組)

6 複製資料貸出

県内高等学校、市町村図書館ほか二十九会場 五十九点

(三) 宮城県美術館

さまざまな美術文化活動に、積極的に参加できる多角的機能を備え、また、美術と関わりの深い表現領域にも接することのできる施設として、展覧会(常設展・特別展)や、多くの講演会・各種の講座等多彩な鑑賞・創作普及活動を積極的に展開している。

1 美術作品等の展示

改修工事による休館のため、美術館での展示は行っていないが、県内外の美術館等で所蔵品や所蔵品の高精細レプ

リカの巡回展示を実施するなど、休館中もコレクションを紹介する機会を提供した。

(1) 宮城県美術館コレクション 絵本のひみつ展

① ひろしま美術館

会 期 七月六日～八月十八日

観賞者数 二万三千六百三十二名

講演会 七月六日

(2) 響きあう絵画 宮城県美術館コレクション

カンディンスキー、高橋由一から具体まで

① 神戸ゆかりの美術館

会 期 十月五日～令和七年一月二十六日

観賞者数 四千六百八十五名

講演会 十一月十六日

② 久留米市美術館

会 期 令和七年二月八日～五月十一日

美術講座 五月十一日(予定)

(3) 移動美術館 佐藤忠良展

① 石巻市博物館

会 期 八月三日～九月二十九日

観賞者数 三千九十一名

講演会 八月二十四日

展示解説 八月三日、九月七日

② しばたの郷土館

会 期 十月十九日～十二月十五日

観賞者数 一千四百八十三名

講演会 十月十九日

展示解説 十月十九日、十一月三日

(4) 宮城県美術館 高精細レプリカ名作展

① 栗原市文化会館（アポロプラザ）

会 期 六月十四日～六月二十三日

観賞者数 五百二十六名

展示解説 六月十五日

② 気仙沼市はまなすの館

会 期 六月二十九日～七月四日

観賞者数 八十名

展示解説 六月二十九日

③ 蔵王町ふるさと文化会館（ございんホール）

会 期 七月十三日～七月二十一日

観賞者数 三百五十名

展示解説 七月十三日

④ 丸森町資料展示収蔵館 まるもりふるさと館

会 期 十月五日～十月十三日

観賞者数 八十二名

展示解説 十月五日

2 教育普及活動

広く県民に鑑賞、創作、研究等のさまざまな美術文化活動に積極的に参加できる機会を提供するため、職員が館外へ出向き、アウトリーチ型教育普及事業を実施した。

(1) 出張教育普及プログラム

① 移動美術館 佐藤忠良展 関連イベント

八月 十七日 石巻市博物館

十一月 三日 しばたの郷土館

② 宮城県美術館 高精細レプリカ名作展 関連イベント

六月 十五日 栗原文化会館

六月 二十九日 気仙沼市はまなすの館

七月 十三日 蔵王町ふるさと文化会館

十月 五日 丸森町資料展示収蔵館 まるもりふるさと館

(2) 美術講座

① まちなか美術講座

「宮城県美術館コレクションものがたり」

会 場 東北工業大学 一番町ロビー

講 師 美術館学芸部長、学芸員

ア 洲之内コレクションだけじゃない——名前の付いたコレクションの話 六月一日

イ 描かれた文字の秘密——パウ・クレーを中心に
八月三十一日

ウ 東北の宮城県美術館 日本画コレクション
十月二十六日

エ 近代絵画の風景散歩——所蔵作家の描いた場所（東京付近）を辿る 十二月十四日

(3) 学校との連携

① 学校アウトリーチ

四月二十六日 大崎市立岩出山中学校
五月 十五日 白石市立大鷹沢小学校
五月二十八日 栗原市立志波姫小学校
五月二十九日 川崎町立川崎第二小学校
六月 六日 気仙沼市立大谷中学校
六月 十一日 栗原市立高清水小学校
七月 十日 岩沼市立岩沼西中学校
九月 十日 気仙沼市立鹿折小学校
九月 十九日 亘理町立荒浜小学校
十月二十三日 蔵王町立円田中学校
十月三十一日 登米市立東郷小学校
十一月 六日 石巻市立牡鹿中学校

十一月十二日 石巻市立和測小学校
十一月十九日 登米市立南方小学校

十一月二十七日 栗原市立金成小中学校

十二月 三日 登米市立豊里中学校

十二月十九日 南三陸町立戸倉小学校

一月 十五日 涌谷町立月将館小学校

二月 十三日 東松島市立矢本東小学校

三月 十三日 支援学校小牛田高等学校

② 院内学級出前授業

十月 八日 東北大学病院院内学級

一月二十一日 拓桃支援学校（県立こども病院併設）

(4) 県外巡回展関連事業

① 響きあう絵画 宮城県美術館コレクション

カンデインスキー、高橋由一から具体まで

会場 神戸ゆかりの美術館（兵庫県）

期日 十一月十六日

講師 美術館学芸部長

講演会「宮城県美術館コレクションで編む近代美術史——

その魅力」

② 宮城県美術館コレクション 絵本のひみつ展

会場 ひろしま美術館（広島県）

期日 七月六日

講師 美術館学芸員

講演会「絵本表現のひみつ―絵本原画展の視点から」

3 美術に関する調査研究

美術館の事業を充実するため、その基礎となる調査研究を行った。

4 美術作品の収集、保存

優れた美術作品や資料の散逸・損傷・亡失を防ぎ、これらの作品等を後世に伝えるため、正確な基礎調査に基づいて、美術作品・資料の収集、保存を行った。

5 広報

「宮城県美術館ニュース 休館中限定号」を四回発行し、大規模改修工事の状況、移動美術館 佐藤忠良展、高精細レプリカ名作展、出張教育普及プログラムや学校アウトリーチなど館外へ出向いて実施した事業など、休館中の美術館の活動の情報を掲載し発行した。

また、美術館ホームページや、X（旧ツイッター）を利用し、広報活動の積極的な推進に努めた。

6 刊行物の出版

「令和五年度年報／令和六年度研究報告」を発行し、美術館活動の成果を公表した。

（四）文化財課

表彰関係

令和六年度地域文化功労者文部科学大臣表彰受賞者

○皿貝法印神楽保存会（石巻市）

○滝原の顕拝保存会（仙台市）

（五）東北歴史博物館

1 特別展

（1）「世界遺産 大シルクロード展」

会 期 四月九日～六月九日

〈関連行事〉

ワークショップ

「重圏円文装飾珠をつくらう」

会 期 四月二十四日、五月八日・二十二日

（2）「和食―日本の自然、人々の知恵―」

会 期 七月六日～九月二十三日

〈関連行事〉

① 講演会

- ・「仙台藩主の正月膳」と「雑煮」から探る「宮城の和食」
会 期 七月二十日

講 師 佐藤敏悦（東北民俗の会前会長）

- ・「知れば楽しい・美味しい和食と魚」

会 期 八月三日

講 師 中江雅典（国立科学博物館動物研究部研究主幹）

② 体験ワークショップ

「和食の道具を体験しよう（鯉節削り・石臼・すり鉢）」

会 期 八月三十一日、九月七日・十四日

③ 県立高等学校等による特別販売会

- ・宮城県農業高等学校

会 期 七月二十日

- ・仙台市立仙台商業高等学校

会 期 七月二十四日

- ・宮城県大河原産業高等学校

会 期 八月二日

- ・宮城県本吉響高等学校

会 期 八月六日

- ・宮城県加美農業高等学校

会 期 八月二十一日

- ・仙台大学附属明成高等学校

会 期 八月二十四日

- ・宮城県水産高等学校

会 期 九月七日

④ ワークシート

会 期 七月六日～九月二十三日

(3) 「多賀城1300年」

会 期 十月十二日～十二月十五日

〈関連行事〉

① 講演会

- ・「木簡から見た都と地方の交流」

会 期 十一月九日

講 師 馬場基

- ・「多賀城の創建と蝦夷支配体制の刷新」
(奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長)

会 期 十一月十六日

講 師 熊谷公男（東北学院大学名誉教授）

多賀城歴史講座

② 「多賀城創建期の瓦」

会 期 十一月三十日

講 師 古田和誠（多賀城跡調査研究所副主任研究員）

「多賀城の改修と藤原朝鑑」

会 期 十二月七日

講 師 吉野武（多賀城跡調査研究所所長）

③ 多賀城跡探索ツアー

会 期 十月十三日・二十七日

十一月十日・二十四日、十二月八日

講 師 東北歴史博物館職員

④ VRミュージアム体験

会 期 十月二十六日、十一月二日・二十三日

十二月十四日

⑤ 【訪日外国人対象】砂金採り体験

会 期 十一月二十三日

⑥ 展示解説

会 期 十月二十日、十一月三日・十七日

十二月一日・十五日

講 師 東北歴史博物館職員

⑦ 上野三碑レブリカ巡回展示関連講演会

・「古代の石碑と文化財保護―上野三碑を事例に―」

会 期 十一月四日

講 師 和田健一（群馬県高崎市教育委員会 文化財

保護課 多胡碑記念館次長）

2 パネル展

(1) 「令和五年度宮城の発掘調査」

会 期 十月八日～十二月十五日

主 催 宮城県教育庁文化財課

共 催 東北歴史博物館

(2) 「海図で見る『東北の港の昔と今』」

会 期 九月十日～九月二十三日

主 催 海上保安庁第二管区海上保安本部

共 催 東北歴史博物館

3 館長講座

「歴史博物館グローバル紀行」

講 師 東北歴史博物館長

第一回 「多様な価値を結ぶ…スミソニアン1」

会 期 四月二十七日

第二回 「超大国の威信…スミソニアン2」

会 期 五月二十五日

第三回 「様々なパリの顔とミュージアム」

会 期 六月二十二日

第四回 「遠洋航海者…太平洋の人々と文化史」

会 期 七月二十七日

第五回 「戦争の記憶をつなぐ展示と歴史観」

4

博物館講座

(1) 古文書講座

講師 東北歴史博物館職員

入門編

会期 八月十一日、九月一日、十月六日

中級編

会期 十月二十七日、十一月二十四日、

十二月二十二日、一月十九日

(2) 史料講読講座

講師 東北歴史博物館職員

第一回 「文献史料から見る坂上田村麻呂と陸奥国」

会期 五月十二日

第二回 「文献史料から見る坂上田村麻呂と陸奥国」

会期 六月十六日

第三回 「文献史料から見る坂上田村麻呂と陸奥国」

会期 七月七日

(3) 民俗講座

講師 東北歴史博物館職員

第一回 「宮城の民俗―土地の豊かさ編」

会期 八月四日

第二回 「宮城の民俗―時のうつろい編」

会期 九月八日

(4) れきはく講座

講師 東北歴史博物館職員

第一回 「縄文時代の銚」

会期 一月十八日

第二回 「宮城の伝承切紙」

会期 一月二十五日

第三回 「秋田県湯沢市の近代和風建築とその活用

―ヤマモ味噌醬油醸造元を事例として―」

会期 三月一日

第四回 「墳墓からみる多賀城創建期」

会期 三月八日

第五回 「歴史を変えた飲み物」

会期 三月十五日

5 体験教室

(1) 夏の体験教室

第一回 「染めの型紙を作ろう！」

会期 七月二十七日

第二回 「はにわを作ろう！」

会期 八月十日

第三回 「今野家住宅に生えている藍の葉っぱを使って、

布を染めてみましょう！」

会期 八月十七日

(2) 冬の体験教室

第一回 「しめ縄飾りをつくろう！」

会期 十二月二十一日

第二回 「とんぼ玉をつくろう！」

会期 一月十一日

6 展示解説

会期 随時

講師 東北歴史博物館職員

7 多賀城跡巡り

会期 五月十二日・二十六日・六月九日

(六月二十三日は雨天のため中止)

講師 東北歴史博物館職員

8 民話を聞く会

会期 五月十九日、七月二十一日、九月十五日

語り 多賀城民話の会・利府民話の会

9 体験イベント

(1) 「秋の“見”覚まるかじり博物館二〇二四」

会期 十月十九日

(2) 「冬も元気にはくぶつかん！二〇二五」

会期 令和七年二月一日

10 調査研究

歴史・文化に関する分野を対象とし、東北全体を視野に入れた調査研究活動を展開して、その成果を定期的に公開した。

三 (公財) 宮城県文化振興財団

(平成四年十月一日設立 理事長 阿部 正直)

1 文化芸術に係る鑑賞及び参加の機会の提供並びに情報の発信

(1) 鑑賞機会の提供

イ 東京エレクトロンホール宮城における鑑賞及び参加の機会の提供

① ミュージカル

「スウィーニー・トッド フリート街の悪魔の理髪師」

会 期 四月十二日～十四日

会 場 東京エレクトロンホール宮城

内 容 ミュージカル

出 演 市村正親、大竹しのぶほか

② 宮城県民会館開館60周年記念

笑いの芸術 野村万作・萬斎狂言公演

会 期 九月二十日

会 場 東京エレクトロンホール宮城

内 容 狂言「舟ふな」「月見座頭」「千切木」

出 演 野村万作・野村萬斎ほか

③

デイズニー・オン・クラシック まほうの夜の音楽会
会 期 十一月一日

会 場 東京エレクトロンホール宮城

曲 目 リトル・マーメイドほか

出 演 オーケストラ・ジャパンほか

④

宮城県民会館開館60周年記念公演 松竹大歌舞伎
会 期 十一月十日

会 場 東京エレクトロンホール宮城

演 目 「双蝶々曲輪日記 引窓」

「新古演劇十種の内 身替座禅」ほか

出 演 中村錦之助、中村隼人ほか

⑤

宮城県民会館開館60周年記念公演
「ドラゴンクエストの世界」

すぎやまこういち 交響組曲「ドラゴンクエストVI」

幻の大地

会 期 十二月七日

会 場 東京エレクトロンホール宮城

演 目 「序曲のマーチ」、「王宮にて」、「魔王との対決」ほか

決」ほか

出 演 垣内悠希(指揮)、山形交響楽団(管弦楽)

⑥ 第十一回 定禅寺フォトコンテスト展

会 期 十二月十六日～二十二日

会 場 東京エレクトロンホール宮城 五階展示室

内 容 宮城県文化振興財団賞
「木漏日スポットライト」鹿野芳之

宮城県芸術協会賞

「幻夢」阿部長一

応募数 全百三十九点

ロ 地域文化会館との共催事業

① 仲道郁代 プレミアム室内楽シリーズ in 七ヶ浜

会 期 九月八日

会 場 七ヶ浜国際村ホール

曲 目 シューベルト 4つの即興曲 D899 Op.90, ピア
ノ五重奏曲 イ長調 D667 Op.114 「鱒」ほか

出 演 仲道郁代(ピアノ)、小池まどか(ヴァイオリン)、
百々暁子(ヴィオラ)、八島珠子(チェロ)、

名和俊(コントラバス)

② 熊谷駿スタンダードジャズコンサート

会 期 十月二十日

会 場 中新田パッハホール

出 演 On The Sunnyside of The St. Take Five ほか
熊谷駿(サククス)、岸川雅裕(ドラムス)、
岩谷真(ベース)、斎藤めぐむ(ピアノ)

③ シエナ・ウインド・オーケストラ 指揮 宮川彬良

会 期 十月二十六日

会 場 えぞこホール

曲 目 シンフォニック・パラダイス、
Milae (未来絵) ほか

出 演 宮川彬良(指揮)、シエナ・ウインド・オー
ケストラ

④ まほろばお好み演芸会 魅知国たいわ寄席

会 期 十一月九日

会 場 まほろばホール

演 目 東北弁落語、謎かけ、漫才、三味線 ほか

出 演 六華亭遊花、ねづっち、ニードル、小田島旺響

⑤ 東混ゾリスTEN 東京混声合唱団メンバー8名による

会 期 十一月十六日

会 場 名取市文化会館 中ホール

曲 目 アヴェ・ヴェルムス・コルプス、You Raise

Me Up ほか

出演

松崎ささら、大沢結衣（ソプラノ）、
尾崎かをり、小林音楽（アルト）、千葉弘樹、
平野太一朗（テノール）、佐々木武彦、
下西祐斗（バス）、北野悠美（ピアノ）

⑥

陸上自衛隊 東北方面音楽隊コンサート2024

会期 十二月二十二日

会場 多賀城市民会館 大ホール

曲目 ロス五輪ファンファアレ、ジング・ジング・
ジングルベルほか

出演 陸上自衛隊 東北方面音楽隊

(2) 参加する機会の提供

①

みやぎアートファミリアの日

子どもが主役のワークショップ

会期 九月十四日、十月六日、十月十九日

会場 東京エレクトロンホール宮城会議室棟

講師 石川かおり、布山さと美、赤井優也

内容 色を楽しむ油絵体験すぐに飾れるミニ額付
き、こどものためのダンスワークショップ、
エアプランツで作るハロウィンガラス

対象 未就学児及び小学生から大人まで

(3)

文化芸術に係る情報の収集及び提供

①

ホームページの管理運営

ホームページ等を活用し、県民に文化施設、文化団
体の状況及びその催事等の情報を提供した。

②

情報提供事業

自主事業の見どころなどを掲載したダイレクトメー
ルを送付した。

(4)

文化芸術活動に係る人材の育成及び体験機会の提供

①

文化芸術ボランティア育成事業

会期 通年（東京エレクトロンホール宮城における
鑑賞の機会の提供にて実施）

会場 東京エレクトロンホール宮城

内容 鑑賞事業におけるボランティア業務
（チラシ配布、会場案内等）

②

音楽アウトリーチ事業

会期 十二月二十五日～令和七年三月二十五日
会場 県内福祉施設ほか

講師 音楽企画ムジカノヴァ、杜の弦楽四重奏団、

仙台チエンバーアンサンブルほか

内容 生の芸術に触れる機会が少ない福祉施設を

中心に、鑑賞の機会を提供するいわゆる「ア

ウトリーチ活動」として実施したもの。

③ 文化庁受託事業「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」

会期 九月三日～令和七年二月四日

会場 県内の小中学校及び支援学校三十六校

講師 和太鼓アトア、ミュージカル集団おむらいす

ほか

内容 東日本大震災により甚大な被害を受けた地

域の子供たちが、文化芸術に触れて心を潤

す事業において、連絡調整業務や経理業務

を行った。

④ 鑑賞入門講座

イ 笑いの芸術「野村万作・萬斎 狂言公演」プレセミナー

会期 九月三日

会場 東京エレクトロンホール宮城六〇一大会議室

講師 石田幸雄

内容 「野村万作・萬斎 狂言公演」の見どころの

解説、基本的な演技の体験

ロ 松竹大歌舞伎プレセミナー

会期 十一月二日

会場 東京エレクトロンホール宮城六〇一大会議室

講師 葛西聖司

内容 松竹大歌舞伎公演に先駆け歌舞伎の演目の

見どころを解説

⑤ ジュニアジャズミーツインみやぎ2024

会期 九月八日

会場 東京エレクトロンホール宮城

出演 石巻ジュニアジャズオーケストラ

「スウィング・リバティ・パイレーツ」、

八木山バンドサークル「夢色音楽隊」ほか

⑥ 社会包摂研修（アウトリーチ担い手育成事業）

会期 十二月十六日

会場 東京エレクトロンホール宮城四〇一大会議室

講師 社会包摂事業の実施経験のある公立文化施

設（東京芸術劇場）の職員、宮城県内で活

内容 動するアーティスト、宮城県立支援学校女
川高等学園の主幹教諭
障害者による文化芸術活動の推進に関する
研修会を開催

(5) 文化芸術の振興及び支援

① 第四十八回東北現代工芸美術展

会期 六月十四日～十九日
会場 センダイメディアテーク
共催 (一社) 現代工芸美術家協会東北会、(株)
河北新報社

② 第五十二回宮城県おかあさん合唱祭

会期 七月六日
会場 日立システムズホール仙台
共催 宮城県おかあさん合唱連盟

③ 第七十六回全日本合唱コンクール宮城県大会

会期 八月二十四日・二十五日
会場 仙台銀行ホールイズミティ21
共催 宮城県合唱連盟

④ 2024 仙台オペラ協会第四十八回公演「こうもり」

会期 九月十五日・十六日
会場 東京エレクトロンホール宮城
共催 (一社) 仙台オペラ協会

⑤ 第六十一回宮城県芸術祭

会期 九月二十八日～令和七年三月二十九日
会場 センダイメディアテークほか
共催 (公社) 宮城県芸術協会

⑥ 第二十七回みやぎ県民文化祭

会期 十月十九日・二十日
会場 名取市文化会館
共催 宮城県文化協会連絡協議会

⑦ 第五回杜のみやこ工芸展

会期 十一月六日～十日
会場 T F U ギャラリーミニモリ
共催 (公社) 宮城県芸術協会、(公財) 河北文化
事業団、(株) 河北新報社

⑧ 第五十二回洋舞合同公演

会 期 十一月十七日

会 場 東京エレクトロンホール宮城

共 催 宮城県洋舞団体連合会

⑨ 第七十回松島芭蕉祭並びに全国俳句大会

会 期 十一月十日

会 場 松島町瑞巖寺本堂ほか

共 催 松島町、宮城県俳句協会

(6) 文化芸術活動支援事業

① 文化団体等支援事業 七件（上期四件、下期三件）

② 文化団体等震災復興支援事業 二件（下期二件）

③ 文化団体等人材育成支援事業 六件（上期三件、下期三件）

④ 文化団体等地域連携支援事業 三件（上期一件、下期二件）

⑤ 文化団体海外公演等支援事業 二件（上期一件、下期一件）

⑥ 名義後援事業

(7) 文化芸術活動に係る国際交流の推進及び支援

① 歌舞伎鑑賞講座（外国人向け）

会 期 十月二十日

会 場 東京エレクトロンホール宮城 六〇二中会議室

講 師 深澤昌夫（宮城学院女子大学教授）

内 容 県内に在住する留学生等外国人に対し、日

本の伝統文化である歌舞伎の理解を深めて
いただくため、入門講座を開講した。

(8) 東京エレクトロンホール宮城管理運営業務

① 会館全体の管理運営。施設の使用許可申請の許可及

び利用料金の徴収・収納ほか

② （公社）全国公立文化施設協会、同東北支部、宮城県

公立文化施設協議会に関する業務

四 (公財) 慶長遣欧使節船協会

(平成四年一月二十二日設立) 代表理事 一力 雅彦

1 ミュージアム管理事業

宮城県から受託するミュージアムの管理運営のほか、法人の所有する資料や学芸員等による研究成果の有効活用に努め、博物館相当施設としての機能充実を図った。

また、展示等リニユーアル工事に伴い、令和四年十一月一日より長期休館していたが、令和六年十月二十六日に展示内容を一新し、リニユーアルオープンした。

2 企画事業

リニユーアルオープンに合わせて、地域の関係団体と積極的に連携を図りながら様々なイベントを開催した。

(1) 第三十一回サン・ファン祭り (共催事業)

期 日 五月十九日

会 場 石巻市サン・ファン・パウティスタパーク

内 容 復元船の進水を祝い、地域活性化を目指す目的で例年五月下旬に開催している祭り。例年通りの開催となり、盛況のうちに終了した。昨年から引き続き館内はリニユーアル工事に伴い休館中のため、石巻市サン・ファンパー

クのみで開催した。

(2) 第五回「伊達政宗の黒船」サン・ファン号を未来へつ

なぐコンクール

会 期 七月上旬(令和七年二月二十八日)

会 場 サン・ファン館

内 容 全国の小中学生を対象に「絵画部門」「デザインマーク部門」の二部門からそれぞれのテーマに沿った作品を募集し、応募作品全二百二十一点を展示した。

(3) リニユーアルオープン記念イベント「絆交流フェア」

会 期 十月二十六日・二十七日

会 場 石巻市サン・ファン・パウティスタパーク

内 容 米沢など交流地域の物産販売や地元キッチンカー出店をはじめ、ミニヨット展示や、牡鹿半島のジビエ(鹿肉)お振舞い、登米市の児童が北上川を船で運んだお米のお振舞いなどを行った。

(4) 企画展「ローマへの遠い旅——高橋由貴彦写真展——」

会 期 十月二十六日(令和七年三月十七日)

会 場 サン・ファン館企画展示室

内 容 写真家・歴史研究家高橋由貴彦氏が一九七〇年代に撮影した、イタリア・スペイン等の風

景写真の展示を行った。

(5) 朗読劇「仙台藩黎明ノ記《天と地と海と》」

会 期 十一月三日

会 場 サン・ファン館 セミナールーム

内 容 仙台藩の黎明期を支えた伊達政宗や支倉常長らの半生をテーマとした朗読劇の上演を行った。

(6) 記念講演会「平和外交使節としての支倉常長―慶長遣欧使節と新時代―」

会 期 十一月十七日

会 場 サン・ファン館 セミナールーム

内 容 サン・ファン館の平川館長を講師とした講演会を開催した。和平実現のために伊達政宗が展開した積極的な外交とその歴史的意義について再考した。

(7) 夜間特別開館二〇二四

会 期 十二月二十一日・二十二日

会 場 サン・ファン館

内 容 リニューアルオープンしたサン・ファン館の復元船を中心としたドック棟広場をライトアップして夜間特別開館を開催した。館内では展示内容と連動したお菓子の景品付きクイズを行った。

(8) 冬季特別企画イラスト展「伊達政宗と支倉常長」

ズラリー、楽器の生演奏イベントを実施、隣接するサン・ファンパークではキッチンカーが出店した。

会 期 令和七年一月十日～二月二十四日

会 場 サン・ファン館 展望棟ロビー

内 容 全国で活躍するクリエイター七名が描いた伊達政宗や支倉常長のイラスト作品の展示を行った。

令和六年度 芸術選奨

●美術（洋画）



ささき けんじろう
佐々木 健二郎さん

昭和十一年生まれ。

ニューヨークに約五十年在住し、NYアートスチューデント・リーグ「世界の青年美術家展」(NY)、ブルックリン美術館「全米版画展」(NY)等に作品を発表したほか、ニューヨーク、東京、京都、仙台など日本各地で個展を開催するなど、活発な活動が続けてきた。また、画業に加えてニューヨークにおける日本文化についてまとめた「日本文化ニューヨークを往く」を出版するなど文筆家としても活躍している。

令和六年度は、ニューヨーク時代の作品と帰国後の作品の大規模な個展「フリーダムライン」を宮城県美術館県民ギャラリーで開催し、県内画壇に衝撃を与えるとともに、多くの美術ファンを魅了した。

今後も優れた作品の発表で洋画の魅力の普及に寄与するとともに、ニューヨーク在住中に得た芸術文化に対する考え方やそのあり方等々についての見識を広めるなど、貴重な経験に基づく成果を指導・伝授されることが期待される。

●美術（書）



いちのせき きょうこ
一関 京子さん

昭和二十七年生まれ。

中央展や地方展で優れた現代書（近代詩文書・少字数書）の作品を多数発表し、宮城県芸術祭書道展や河北書道展、毎日書道展などで入賞を重ね、現在は宮城県芸術協会の運営委員、河北書道展の審査員、白峰社の理事を務めている。また、書活動として平成十六年に「書と建築空間」、平成十七年に「書と建築空間Ⅱ」、平成十八年に「書と建築空間Ⅲ」（移動展）、平成二十年に「一関京子小品展」など、二人展や個展も多く開催してきた。

令和六年三月には、「一関京子書展―のあとさき―」を開催し、展示空間やテーマに沿った作品群とその説明等において、従来とは異なる書展を提案する示唆に富むものと高く評価された。

今後も、本県を代表する魅力ある少字数書作家として、意欲的な作品制作や審査員等の活動を通して、本県の書道界の牽引役としての役割が大いに期待される。

●美術（写真）



佐々木 徳朗さん

昭和十年生まれ。

写真家として、気仙沼市水梨地区で農林業に従事する傍ら、地域の人々や営み、そしてその空間を約七十年にわたって撮影し続けている。氏の写真には、外部から来たカメラマンでは決して撮れない独特な視点と哲学があり、しかもその撮影が七十年にも及ぶため、記録性においても作品としても他に類を見ない卓越したものとなっている。また、氏の初期のスライド作品群は、宮城県自作視聴覚教材コンクールに連続上位入賞し、平成六年には視聴覚教育の発展と普及への貢献から視聴覚教育賞を受賞するなど、宮城の社会教育にも貢献してきた。

令和五年度は、第六十回宮城県芸術祭写真真展において写真集「百姓日記」等で使用された作品が展示され、氏の長年にわたる偉大な業績が広く再認識された。また、この展示が契機となり、氏の作品群をどう読み取るかというテーマが新たに生まれつつある。

社会の全体性を把握しつつ一地方の一地区を氏がどういった視点で記録していくか、今後も楽しみである。

●美術（日本画）



山本 政彰さん

昭和三十六年生まれ。

第八十二回河北美術展に初出品で入選を果たすと、第五十六回宮城県芸術祭絵画展の公募の部で優秀賞、第五十七回宮城県芸術祭絵画展で宮城県芸術祭賞、第五十八回宮城県芸術祭絵画展で（公財）仙台市市民文化事業団賞、第八十三回河北美術展で河北賞を受賞するなど、近年目覚ましい活躍をされている日本画家の一人である。

令和五年度も、第六十回宮城県芸術祭絵画展で宮城県教育委員会教育長特別賞、第七十六回塩釜市美術展で生涯学習センター長賞を受賞するなど、氏の作品は複数の美術展で高く評価されている。

今後も、ますます制作に励み、素晴らしい作品を発表していくことで、宮城県の日本画界を牽引していく存在になっていくことを期待したい。

芸術選奨新人賞

●美術（彫刻）



小田原 のどかさん
おだわら のどかさん

昭和六十一年生まれ。

大学在学中から全国各地のグループ展に参加してきたほか、個展も多数開催しており、群馬青年ビエンナーレ二〇一五で優秀賞、ALLOTMENTトラベルアワードで大賞を受賞するなど、氏の作品は様々な企画や美術展示会において、高評価を得ている。

令和五年度は、「小田原のどかつなぎプロジェクト成果展二〇二三『近代を彫刻／超克する―津奈木・水俣編「序」』の開催や、企画展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか? ―国立西洋美術館六十五年目の自問 現代美術家たちへの問いかけ」に参加したほか、彫刻に関する著書二冊を著作・編集するなど、幅広い活躍を見せた。

今後にも更にこれまで見えていなかった彫刻・美術制度上、文化史上の様々な問題を浮上・提示してもらおうとともに、地元・宮城に密接した問題にも多く取り組まれていくことを期待したい。

●文芸



沼沢 修さん
ぬまざわ おさむ

昭和二十九年生まれ。

平成二十二年に第一歌集の「若葉光る日」を出版、平成三十年に歌書「茂吉歌碑を訪ねて」を出版するなど精力的に活動を行い、宮城県歌人協会の宮城県短歌賞や第五十八回宮城県芸術祭（文芸部）で宮城県知事賞を受賞するなど、その作品は高い評価を受けてきた。

令和五年度は、第二歌集の「秋のひかり」を出版した。本集は郷土愛に満ち、歌集全体の完成度が高く知的抒情にあふれており、県内において近時出版された歌集の中でも傑出しているといえ、宮城県歌壇の堅実な発展を象徴するといっても過言ではない内容であった。氏のこの作品の発表により、県歌壇の高いレベルを全国に示すことができたといえる。

また、氏は宮城県歌人協会の役員を務めており、県歌壇の発展及び全国への発信に大いに貢献していくことを期待するとともに、その情熱的で誠実な人柄からも今後ますますの精進と活躍が楽しみである。

●演劇



おおかわら じゅんすけ
大河原 準介さん

昭和五十六年生まれ。

平成十九年に東京で旗揚げした演劇企画集団 LondonPANDAの主宰を務めており、脚本・演出を行った同団の公演Vol.6「おふとのなか」が佐藤佐吉賞最優秀演出賞及び優秀作品賞を受賞するなど、優れた演出家として評価されている。また、平成二十八年に本拠地を仙台に移してから、若手演出家コンクールで優秀賞を受賞したほか、演劇の手法を用いたコミュニケーションワークショップに取り組むなど、多方面で活躍を続けている。

令和五年度は、演劇企画集団 LondonPANDA Vol.16「悪魔の証明」の作・演出を務めたほか、せんだい演劇工房10-BOX 20+1周年記念事業「異邦人の庭」の演出、仙台演劇研究舎主催の「高校生で作る演劇『わたしの星』」の演出を務めるなど、質の高い作品を作り上げた。

今後も、劇作家・演出家として人間の心の奥底に切り込んだ作品を作り続け、演劇界の発展に寄与するほか、ワークショップの開催等を通じて演劇の魅力の発信や人材育成に寄与していくことが期待される。

●メディア芸術



なんばしえいと
NUMBER8さん

平成二十五年から小学館ビッグコミック誌に連載された「BLUE GIANT」の担当編集者として制作に携わり、ヨーロッパ編第二部「BLUE GIANT SUPREME」の単行本九巻以降で正式にストーリーディレクターとして参加した。JAZZ音楽を漫画で表現するという難しいテーマながら、魅力的な作品となった「BLUE GIANT」シリーズは高い人気を集め、第六十二回小学館漫画賞（一般向け部門）、第二十回文化庁メディア芸術祭マンガ部門大賞を受賞するなど高い評価も得た。作品の導入部では仙台市が舞台に設定され、市内の情景が登場するなど地元民にとっても馴染み深い作品となった。また、劇場アニメ映画「BLUE GIANT」で脚本を担当したほか、小説家として南波永人名義で「ピアンマン」「BLUE GIANT」雪祈の物語」を発行するなど多彩な活動を行った。

令和五年度は、原作を担当する漫画「BLUE GIANT MOMENTUM」の連載が開始、また原作を務める「ABURA」がさいとう・たかを賞を受賞するなど、複数の作品で活躍を見せた。

今後も漫画原作者としてコミック界を更に面白いものにしていくとともに、脚本家や小説家としての活躍も期待したい。

宮城県芸術年鑑

第五十四卷

令和七年四月一日発行

限定三〇〇部

編集・発行

宮城県環境生活部消費生活・文化課

仙台市青葉区本町三丁目八番一号

〒九八〇―八五七〇

電話 〇二二―二二二―二五二七(直通)

この芸術年鑑は三〇〇部作成し、一部当たりの印刷単価は一、三二〇円です。